

＜はじめに＞

「1995年1月17日」。私たちは数え切れないくらいこの言葉を耳にし、目にしてきた。もう、その日から6年の歳月が過ぎようとしている。この日起こった阪神・淡路大震災は非常に多くの犠牲者と被災者を生み出した忌まわしい出来事であるが、地域社会に生きる一人一人の人間を試すきっかけとなる出来事であったかもしれない。

震災後、3ヶ月が過ぎ、私たちの住んでいる有野台にもいくつかの仮設住宅が建設された。そして、仮設住宅への支援という目的で、20名ほどの地域の住民が集まった。

この活動記録集は1995年5月14日に、有野台ボランティアを立ち上げて、北区有野台・五社・有馬の6ヶ所の仮設住宅に関わり、1999年9月12日に、仮設住宅での活動を終えるまでの『有野台ボランティア通信』と、「活動を振り返る座談会」と「ボランティアへのアンケート」の三部から成っている。

『有野台ボランティア通信』は初めは、ボランティアどうしの活動や情報を知ることが第1の目的として書かれていたが、途中からはその目的に加え、ボランティアの支援者に向けて、私たちの活動や仮設住宅の状況を発信するという意味が加わり、有野台ボランティアの仮設住宅での活動が終了するまで、書き継がれてきたものである。

「活動を振り返る座談会」は1999年10月31日と11月21日の2回にわたって、のべ8時間、ボランティアの視点から見た仮設住宅に関わる活動を振り返りながら、活動に参加したメンバーが議論したものをテープに録音し、編集したものである。「座談会」では、プライバシーには、できる限り配慮しつつ、『通信』では書けなかった部分まで議論がなされた。

「ボランティアへのアンケート」は1999年9月から10月にかけて、4年4ヶ月の活動に参加したメンバーにいくつかの質問をしたもので、「活動を振り返る座談会」に出席できなかったメンバーの声もあり、「座談会」と内容は重複するが、「座談会」を補うものになっている。

記録集の全体を見渡して言えることは、被災者の生の声が少ないということだが、被災地から少し離れた地域にできた仮設住宅に、その地域のありふれた住民がボランティアとして、どんな思いで関わっていったかという意味では、非常に興味深い記録集になっているように思える。ボランティアが前面に出すぎているという面はあるが、ボランティアから見た震災後の5年をまとめたという意味では、貴重な記録集と言えるかもしれない。

振り返ってみると、ほとんどのメンバーがボランティア活動が初めてという中で始まった仮設住宅に関わる活動は、失敗や試行錯誤のくり返しだった。それでもメンバーが入れ替わりながら、仮設住宅の最後の入居者が公営住宅に移られるまで、活動を続けていくことができたのは、1つには少しずつ生まれてきたボランティアどうしの絆の深ま

りだろうし、それ以上に仮設住宅の住民の方たちと親しくなることで、たくさんのことを学んだことだろう。被災者＝弱者という図式では、語ることができない喜怒哀楽を含んだ普通の生活が仮設住宅の生活の中にもあること、住民の方たちはいろいろな問題を抱えながらも、自らの日々の生活を送っておられること。そうした姿を見ることで、私たちは逆に刺激を受け、元気づけられていったように思う。それが仮設住宅の住民とボランティアで、協力してクリスマス会をしたり、お花見をしたりという形で、実になっていったように思う。いつもお互いに良い関係が保てたわけではないし、いろいろな問題もたくさんあった。しかし、この住民の方たちとの関係は私たちがボランティア活動をしていく中での大切な宝物だったように思える。

最後に、残念にも仮設住宅で亡くなった方、恒久住宅に移られてから亡くなった方のご冥福を心からお祈りしたい。また、新しい生活を歩まれている方々のご健康を心からお祈りしたい。

有野台ボランティア 田辺正則 2000年12月記

<追記> この記録集はプライバシーの観点から、一部の方のお名前をイニシャルで仮名にしてあらわしている。

また、この記録集を編集する際に、のべ8時間にわたる座談会のテープ起こしを録音状態が悪い中、根気良く仕上げてくれた有野台在住の谷川慎治君に心から謝意を表したい。

さらに、この記録集の出版に際して、資金難の中、カンパによる支援やその他、色々な形で出版に協力してくださった方々にも心から謝意を表したい。

写真による活動紹介

1995年



【'95年10月8日】
有野台第2住宅／自治会結成大会
＜有野台地域福祉センターにて＞



【'95年10月10日】
“ふれあい KOBE '95”
＜箕谷にて＞



【'95年12月10日】
五社住宅／自治会結成大会
＜有野公民館にて＞

1996年



【'96年3月17日】
五社住宅ふれあいセンター開所式ともちつき大会

1996年



【'96年4月18日】
有野台第1・第3・東有野台住宅 お花見
＜切畑公園にて＞



【'96年6月8日】
花の苗 プレゼント
＜有馬住宅にて＞



【'96年7月6日】
フラワーアレンジメントとお茶会
＜五社住宅にて＞



【'96年8月】
家庭菜園と花だん
＜五社住宅にて＞



【'96年8月25日】
バーベキュー大会と茶話会
＜五社住宅にて＞



【'96年8月25日】
バーベキュー大会と茶話会
＜五社住宅にて＞



【'96年10月5日】
有野台第3住宅集会所オープン



【'96年10月27日】
有馬住宅食事会



【'96年11月12日】
有野台第1住宅昼食会
＜有野台地域福祉センターにて＞



【'96年11月17日】
五社住宅 カラオケの集い
＜有野公民館にて＞



【'96年12月8日】
有馬住宅集会所オープン

1997年



【'97年1月5日】
兵庫商業高校の獅子舞い
＜五社住宅にて＞



【'97年2月5日】
有野台第1住宅 食事会
＜有野公民館にて＞



【'97年2月】
五社住宅 雪景色



【'97年4月9日】
6住宅合同お花見
＜切畑公園にて＞



【'97年9月24日】
大正琴演奏会と茶話会
＜有野台地域福祉センターにて＞



【'97年10月10日】
五社住宅 バスツアー



【'97年11月16日】
有馬住宅食事会



【'97年11月】
空カンで猪よけを作った菜園
＜五社住宅にて＞



【'97年12月21日】
6住宅合同クリスマス会
＜有野台会館にて＞

1998年



【'98年2月11日】
五社住宅 もちつきと鍋大会
＜五社住宅ふれあいセンターにて＞



【'98年4月5日】
6住宅合同お花見
＜切畑公園にて＞



【'98年5月24日】
6住宅合同食事会
＜湯谷川公園にて＞



【'98年7月19日】
6住宅合同大正琴演奏会と食事会
＜有野台地域福祉センターにて＞



【'98年9月20日】
6住宅合同はたっこ太鼓の演奏会と食事会
＜有野台地域福祉センターにて＞



【'98年10月25日】
有馬住宅お別れ会



【'98年11月13日】
有野台第2・五社住宅合同 紅葉狩り
＜有馬瑞宝寺公園にて＞



【'98年12月23日】
有野台第2住宅 もちつき大会
＜有野台第2住宅ふれあいセンターにて＞



【'98年12月25日】
五社住宅 クリスマス会
＜五社住宅ふれあいセンターにて＞

1999年



【'99年1月24日】
有野台第2・五社住宅合同 フルート・トリオ演奏会と食事会
＜有野台地域福祉センターにて＞



【'99年4月11日】
6住宅合同 お別れ会と同窓会
＜切畑公園にて＞



【'99年9月12日】
有野台ボランティア 打ち上げ会
＜有野台地域福祉センターにて＞

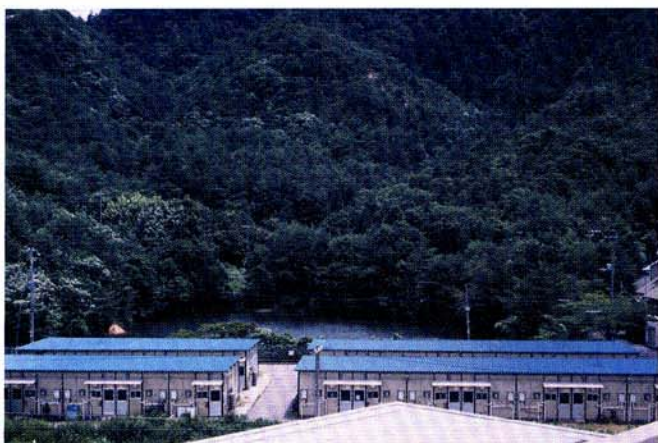
仮設住宅の全景



●有野台第1住宅（25戸）



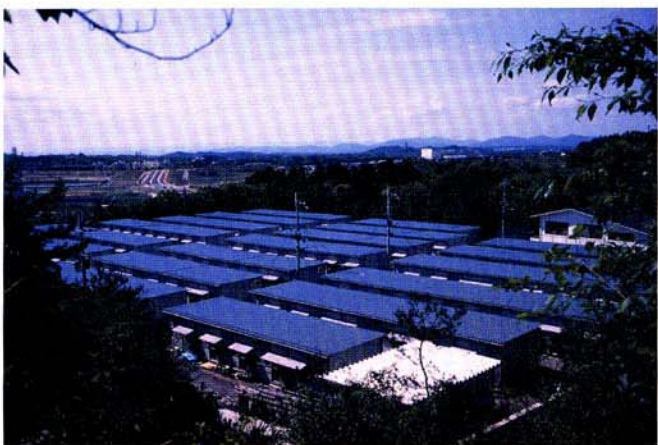
●有野台第2住宅（91戸）



●有野台第3住宅（26戸）



●東有野台住宅（18戸）



●五社住宅（165戸）



●有馬住宅（45戸）

有野台

'95.6.2

ボランティア

No.1

通信

6月1日、初めてのボランティアどうしの集まりがありました。参加者は向井さん、中野さん、渡来谷さん、川田さん、中村さん、三浦さん、山崎さん、松田さん、上田さん、田辺の10名。仮設住宅に入居された森口さんにも参加していただきました。

自己紹介のときは、少し緊張気味だった皆さんも、しだいに打ちつけて、なごやかな、にぎやかな会になりました。「ボランティアが仮設住宅に入居された方たちの橋わたしをしたい」「家にある不用のものを持ちよってバザーをしてみようか」「小さいお子さんがおられる方で、用があるときにお子さんを預かってあげたい」など、いろんな意見が出されました。また、森口さんからは被災後の話や仮設住宅に入居されてからの生活の中での話(例えば、炊飯器は持っていたのだが、都市ガス用の炊飯器で、プロパンガスでは使えないという話)を伺いました。

今後の活動は次のように確認されました。

1. 「あげます、ください列島リレー」「くらしのへんり中長(北区・北神版)」の配布
2. 仮設住宅に入居された方たちとの交流会を開くこと
3. ご年配の方の買い物のお手伝い(車で)

また、バザーも今後、実現の方向で動いていくことになりそうです。

—〈6月の活動予定〉… 現在決定したことだけです—

- 6月7日 仮設訪問 10:00～
(水)
- 6月9日 仮設訪問 10:00～
(金)
- 6月10日 仮設訪問 1:00～
(土)
- 6月11日 北区ボランティア・ネットワーク (西鈴蘭台. がんばろう神戸にて)
(日) 10:00～
- 6月18日 仮設住宅に入居された方たちとの交流会 (有野台地域福祉センターにて)
(日) 1:00～

※ 1. 6月11日(月)から6月16日(金)までに 仮設訪問の予定が入るかもしれません。参加できる方は1度、電話連絡をください。

2. 週1回のペースで車を使った買い物のお手伝いのボランティア活動もあります。

予定が会えば、いつでもご参加下さい。

有野台ボランティア
981-7511
(文責は田辺にあります)

有野台

'95.7.7

有野台 ボランティア (981) 7511

ボランティア

No.2

通信

編集 田辺 正則

6月18日、仮設住宅に入居された方との交流会が行われました。あいにくの雨でしたが、第1住宅・第2住宅・第3住宅・東有野台住宅から16名の参加がありました。1時間半ほどの間でしたが、おしゃべりに花が咲きました。第2住宅の平岡さん、樽谷さんのように、交流会のどうだけ読んで出席してくださった方もおられました。第2住宅では、ゴミ当番を決めたいということが話題になり、後日集まって相談することになりました。また、東有野台住宅の船倉さんは自治会作りに積極的なようで、私たちボランティアもできるだけお手伝いできればと思います。

6月22日、第2回のミーティングがありました。6月半ばの段階で有野台に4カ所ある仮設住宅のうち、お留守のお宅を除き、ほぼひと通り訪問し終えました。今後の仮設住宅に入居された方とボランティアとの関わりをどう開くでもっていか、ということでもちました。波来谷さんから「1軒1軒、お訪ねすることが迷惑なお宅もあるようだ」という指摘がありました。石曜かに、私たちボランティアだけでなく、保健所の方、自治会の方、ほかのボランティアの方も仮設訪問をされているようですし、セールスなどもあり、入居された方にとってはわずらわしいこともあるように思います。山崎さんからは「お茶会のようなことをして、皆さんが集まっておしゃべりできる場をつくらう」という提案がありました。今後の活動の大きな流れとしては、お留守のお宅や年配のお一人暮らしの方への仮設訪問は系統けながら、お茶会などで外に出ておしゃべりをしてもらう場をもっていくという方向でやっていくことになりました。

ミーティングの途中で、京都の浄土宗のボランティアの方から夏物の寝具など、30箱ほどの物資の提供があり、4カ所の仮設住宅の方にお渡しすることになりました。

(1)

6月24日、“ふれあいセンターと今後のボランティア活動を検討する会”に、山崎さんと田辺が参加しました。仮設住宅の自治会の方、市内の各地区のボランティア団体の方など多数の参加がありました。ふれあいセンターは仮設住宅100戸を単位に1つ建設されることになっているのですが、100戸未満でもスペースがあるところならば建設が可能であるとのこと。各ボランティア団体の発言の中で、「仮設住宅での孤独死のことが取り上げられました。ふれあいセンターを「たれでも気楽に集まれる場」と位置づけている方も多く、「独居老人をひき出す話し合いの場にしたい」(西神ボランティア)、「(20~30戸の)戸数のない仮設住宅でも集まれる場が必要である」(NGO仮設住宅支援連絡会)などの意見がありました。すでにさあやかテント(1日テント)でお茶会やバザーなどの活動をしている東漢地域助け合いネットワークの方も、「各仮設にテント村を作ることが必要だ」と発言され、日常的な交流の場をもつことの重要性が指摘されました。

6月22日に提供された夏物の寝具は6月27日に^{中野さんと田辺で}第1・第3・東有野台住宅にお配りしました。6月30日には第2住宅に配布する分の物資の整理。舟引み、渡来谷さん、上田さん、畠田さん、向井さん、滋野さん、田辺の7人であいまいがやがやと。食料品の中に早めにお渡しした方がよいものがあるので、食料品も合わせてお配りすることになりました。

7月2日、第2住宅でのテント張りとお夏物寝具などの配布。天気予報は大雨で、朝から雲がとんよりとたれこめている。^{天気が思わしくないで}テント張りのためにお手伝いをお願いした吉原さん、山崎さん、道信さんのお主人と滋野さんに、テントの方はお任せし、他のメンバーは予定をくり上げて、物資の配布にかかる。山崎さん、中野さん、中村さんが各戸に声をかけて回り、望月さんと田辺で、品物を手渡ししていく。すぐに列ができて、少しバタバタする。途中から向井さんが^{ふうな}楓奈ちゃんと小6の遼くんといっしょに参加。

(2)

田辺の段取りの悪さで、品物の配布が少し混乱するが、遼くんの手際の良い動きにかなり助けられる。配布がひと段落すると、西川さんのお子さしや波来谷さんのお子さんたちが空になった段ボールを^{基地ごととして}使って遊んでいる。子供は遊びの天才と改めて感じる。

7月7日、朝から小雨。お茶会は7月13日(木)に延期となる。

〈 今後の活動予定 〉

7月13日(木) お茶会(第1住宅) 10:00～

7月16日(日) 仮設訪問 1:00～
これまで一度もお訪ねしていないお宅を訪問します。

7月17日(月) フルーツ・フラワー・パークへ 日帰りデ(北区の行事) 9:30～16:00
川田さん、山崎さん、中村さん、滋野さん、田辺の参加が決定。

7月19日(水) 第3回ミーティング 10:00～
夏休みの活動やメンバーの皆さんのスケジュールの確認など。
できるだけご参加下さい。無理な方は18日(火)までに、夏休
みの活動可能な日曜日や時間帯をご連絡下さい。
(7月末～8月末)

※ 第2住宅(有野公園)でのお茶会も予定しています。今のところ7/22・7/23・7/24・7/31のいずれか1日を考えております。

有野台	ボランティア	No. 3
'95. 7. 24		通信
有野台ボランティア (981) 7511	編集	田辺 正則

7月13日、第1住宅でお茶会がありました。上田さんを中心に日よけのターフを張って、青いシートをしき、机・テーブルをセッティング。向井さん、三浦さん、舟引さん、森田さん、西野さん、上田さんが各戸に声をかけて回り、少しずつ第1住宅の方々が出て来られる。川田さんは子供たちのお世話をしてくる。第3住宅からも谷垣さん、呉さん、大前さんが来られ、15時と用意した席はいつの間にか満席。17日にフルーツ・フラワー・パークに行かれる方には名札をお渡しして歩く。たまたま神戸友の会の方がバザーをこめる日と重なり、ちょっとした出店のにぎわい。陽ざしはかなり強かったため、冷たいお茶がどんどんなくなり、途中から森田さんと舟引さんはペットボトルを巧みにゆすり、アイス・コーヒーを作って出されている。強い陽ざしでしかも、^{涼い}風が吹いて来て、有野台を一望できる眺めを前に、楽しいおしゃべり会になりました。

7月17日、北区のリフレッシュ事業で仮設住宅に入居された60歳以上の方を対象にフルーツ・フラワー・パークに出かけました。第1住宅が11人、第2住宅が6人、第3住宅が3人、東有野台が1人の参加で、ボランティアからは川田さん、中村さん、滋野さん、田辺の4人が参加しました。昼食後のコーラスを楽しまれたり、なかの色々な施設を回ったり、ゆったりしたお風呂につかれたりと、皆さん思い思いに過ごされたようです。その中でいくつかの出会いや交流があったようです。第1住宅の若井さんは被災されたときのことを色々と話されていましたが、第3住宅の谷垣さんと同じ町内だったことがわかり、気丈夫だと言われていました。また、第2住宅の富村さんは中央区で友人だった方と偶然出会われ、旧交を温められたようです。第1住宅の石川さんとボランティアの川田さんは同年配ということもあり、戦争の時期の苦勞を語り合われたそうです。

7月19日、第3回のミーティングがありました。皆さんご都合の悪い方が多く、参加者は船引さん、道信さん、向井さんの4名。第2住宅の岡田さん^{田辺}もご参加くださり、日頃のボランティアの活動にねぎらいの言葉をかけていただきました。7・8月の活動で、7月29日(土)に第2住宅で夕涼みのお茶会を行うことになりました。向井さんから「お茶会だけではさびしいので、バザーもやってみては」という提案があり、バザーと花火も同時に行うことになりました。また8月からはこれまでの仮設住宅(4カ所)で未入居のお宅と新たに五社駅前にて仮設住宅(165戸)の訪問を中心に活動していくという方向でやっていくことになりました。岡田さんには入居されてからことを色々伺いましたが、有野台周辺の自然の良さに話が及び、秋には有野台周辺のハイキングを計画しようという話も出ました。

〈7月末から8月の活動予定〉

7月29日(土) 夕涼みのお茶会とバザー(花火)
(第2住宅テント)夜6:30~9:30

8月2日(水) 1:00~
8月3日(木) 10:00~
8月6日(日) 1:00~
8月10日(木) 10:00~
8月16日(水) 1:00~
8月20日(日) 1:00~
8月24日(木) 10:00~
8月26日(土) 1:00~
8月30日(水) 1:00~

仮設訪問
(集合場所は田辺方)

〔7月〕

日	月	火	水	木	金	土
23	24	25	26	27	28	29
30	31					夕涼みお茶会 バザー・花火 6:30~

〔8月〕

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 午後 1:00~	3 午前 10:00~	4	5
6 午後 1:00~	7	8	9	10 午前 10:00~	11	12
13	14	15	16 午後 1:00~	17	18	19
20 午後 1:00~	21	22	23	24 午前 10:00~	25	26 午後 1:00~
27	28	29	30 午後 1:00~	31		

※ 夏休みは皆さんお忙しいことと思います。予定が合えば、1日でもご参加下さい。活動可能な日があらかじめわかれば、前日までにご連絡下さい。(特に夕涼みの会は前日までにご連絡下さい)

有野台

'95.9.17

有野台ボランティア (981) 7511

ボランティア

No. 4

通信

編集 田辺 正則

7月29日、第2住宅で バザーと夕涼みの茶話会を行いました。当日は有^{午後}吉くんと 私 で花火や紙ゴップを買いに行き、そのあと分量のタレイせいの仕分けをやりました。500個ほどのせいの袋をとり分けて袋に入れるのに、1時間半。2人で汗をかきながら、整理しました。6時前、荷物の積み出しを開始。京都の浄土宗のボランティアから届いた物資は20箱以上。福田さん、有吉くん、向井さん、道信さん、私の5人で車へ積み込み、第2住宅へ。第2住宅に入居されている渡邊さんも加わり、渡邊さんや船引さんと中心に 手取りよく値段が決まられていく。ほとんどが50円か100円。バザーの段取りができるころには、品定めにもそのれる方も出てくる。人出がたくなったので、予定をくり上げ7時ごろに店開きをする。品物の売りゆきはすばい。1時間もたたぬうちに、ビニールシートの上にひろげられた品物はほとんど売り切れしてしまう。少し遅く来られた方で、粗品のタオルしか手渡すことができなかった方もおられ、申し訳ないこととする。バザーのとなりのテントのスペースでは、すでにお茶会の準備ができていて、冷たい麦茶、すいか、かき氷と 夏らしい^{飲み物}食べ物が並んでいる。中学生の大野くんが かき氷の担当で、熱心に氷を削っている。山崎さんや福田さんから「かき氷のお兄ちゃん」と呼ばれて、はり切っている。おしまいには 特製の「おかき氷のかき氷」も作っていたようだ。きょうは フルーツフラワーパークで花火大会があり、8時ごろから 打ち上げ花火が上がるのが遠くに見える。それに誘われるように テントのすぐ横の有野公園でも花火がはじまる。佐伯さん、有吉くん が子どもたちに花火を手わたしている。第2住宅の、小田さん、西川さんのお子さんたち、ボランティアの 望月さん、船引さんのお子さんたちといっしょになって花火をたのんでいる。子ども好きの渡邊さんが火をつける役。いつのまに

が大野くんや有吉くんも花火に熱中。山崎さんや私も今も花火に興じている。
ときどき目をテントの方にやると、第2住宅の谷口さんとボランティアの川田さんがなにや
かな表情でおしゃべりしている。その横では福田さん、船山さん、望月さんのくつろいだ
ようすがうかがえる。すてきな夜のひとときです。

夏休みの期間のボランティア活動は、お子さんのおられる主婦の方がメンバーの大半
で、あらかじめ予想していたとはいえ、少しハードなものでした。ただ3人の高校生が積極
的に参加し、私も含めよい経験ができました。^(有吉くん、佐伯さん、藤原さん)仮設訪問は入居された方の状況
をつかみ、必要に応じてお手伝いをしていかねばならないので、初めは「高校生だけでは負担が
大きいか」と思っていたのですが、夏休みの終わりに3人だけで訪問できるまでになりました。
特に有吉くんはテレビのチャンネル設定をしてあげたり、ぬかるんだ地面に土やバラスを埋め
たりと精力的に動き、活動や人とのつき合いのおもしろさがわかってきたのではないかと思
えました。

9月6日、4回目のミーティングがありました。出席者は16名。初参加は伊勢島さん、
三木さん。8月の後半から活動に加わっている榎谷さん、第2住宅の渡邊さんの4名。これ
までの仮設住宅に加え、8月から五社駅前、有馬の入居がはじまりました。震災後6か月
以上がたち、最終募集で入居が決まった方々ですから、避難場所生活が長く続いたり、長
期の入院をされていたりと、事情は色々でしょうが、今までの仮設訪問でお会いした方よりも
疲れた表情をされている方が多いように思えます。五社駅前の増田さんはすでに8月末から
病院の送迎をしているのですが、中野さん、向井さんを中心に中村さん、道信さんが加わって、
送迎の体制をくみました。また、ご年配の方が多く、急な坂の上にある第1住宅と第
3住宅を対象に週1回のペースで買い物のお手伝いをする事になり、滋野さんが
送迎を担当することになりました。茶話会の方は今回は第1住宅で、第1・第3住宅の方に

声をかけて行います。今回は森田さん、船引さん、三木さんの担当です。

仮設住宅の生活は長期化することが予想され、ボランティア活動も3~4年、4~5年の単位で活動を継続していくことが必要になってきました。活動の長期化にともない、資金面の確保が話題になり、行政からのボランティア助成金と朝日民間団体復興助成金に申し込むことになりました。また市民レベルのキャンパも受け入れていきたいということになりました。

9月10日、有野台第2住宅の自治会の準備会が行われ、10月8日に有野台地域福祉センターで結成大会が行われることになりました。

〈9月~10月の活動予定〉

9月18日(月)	茶話会(第1住宅で) ... 雨天のときは9/21(木)が予備日
9月23日(土)	仮設訪問 1:00~
9月28日(木)	仮設訪問 10:00~
10月1日(日)	仮設訪問 1:00~
10月5日(木)	<u>第5回ミーティング</u> 10:00~
10月10日(火)	ふれあい KOBE '95 (築谷で)

有野台	ボランティア	No.5
'95.12.31		通信
有野台 ボランティア (481) 7511		編集 田辺 正則

9月18日、第1住宅で第1・第3合同のお茶会。陽ざしも思ったほど強くなく、風も心地良いので、タープ^oはなしで、ビニールシートをしき、机といすを並べるという開け。今回は担当者の森田さん、船引さん、三木さんのアイデアで抹茶におまんじゅうというお茶会です。風が少し強くカセットコンロの火が吹きけられそうになり、お湯を沸かすのに苦労するが、4棟の竹本さんがお湯入りのポットを持って来てくださり、お茶が立てられていく。第1・第3住宅あわせて10名ほどの参加だったが、お互いに顔見知りの人も多く、おやかな雰囲気。途中からは川田さんがお茶を立てている。女生ばかりの中で入りにくいのか、^{7棟の}橘田さんはお宅の前の縁台にすわっておられる。有吉君と私が横に腰かけ、橘田さんの庭の花や野菜畑の話を聞く。そこに抹茶とおまんじゅうの出前。3人並べごちそうになる。他に参加のボランティアは伊勢島さん、三浦さん、畠田さん、向井さん、榎奈さん、村谷さん、中野さん。

10月5日、第5回のミーティング。きょうは予定の参加者が多く、道信さん、向井さん、榎野さん、川田さん、私の5名。少人数のミーティングも時には悪くないもの。川田さんが茶器をもって来て、1人1人にお茶を立ててくださる。ゆったりとした気分で、ミーティング。活動力の中で確認されたのは^{次の5点}①^{ボランティアの}渡瀬谷さんの提案で、^{18棟}連絡網を作る。②^{14棟}五社の工藤さんと上田さんを渡瀬谷さん、上田さん、榎野さんの3人で交代で1週間おきぐらいに訪問すること。③^{について}ベルボックス。第1住宅の住田さん、竹本さんのベルボックスの申し込みは伊勢島さん、村谷さんが担当すること。④10月10日の箕谷での^{KOBE}ふれあい'95(運動会)はボランティアから有吉君と私が参加。⑤10月29日の五社仮設でのお茶会は身の回りのものを持ち寄りミニバザーもやること。ミーティングのあとには川田さんから戦後の保母さんの体験談を聞いたりと、おしゃべりしました。

10月8日、第2住宅の自治会の結成大会の日です。9月10日と9月24日の2度の準備会を経て、結成にこぎつけました。やや緊張気味の井上さんが議長と進行係を務められました。

(1)

10月10日、箕谷で“ふれあい KOBE'95”の催しが行われました。有野台地区からは東有野台の船倉さん、第2住宅の樽谷さん、第1住宅のケ本さん、橋田さん夫婦が参加していました。第2住宅の谷さん、第3住宅の小村さん、川添さんがご都合で不参加となり、少し少ない人数です。鹿野台の方々と同乗してバスで箕谷へ。好天のもと、全員によるじゃんけん大会から最後の玉入れまであという間に時間がすぎました。昼食後の歌のアトラクションでは、踊りの輪ができて、樽谷さんが実に気持ちよそうに踊っておられました。

阪神大震災へ

さ・さ・や・か・な・カ・ン・パ・の・フ・ィ・ハ・ケ

塾の通信でカンパの呼びかけ
はお門ぢないと思われるかもし
れませんが、まあ、お読みくだ
さい。

神戸市の郊外で有野塾を開いてゐる田辺正則くんという友人がいます。赤門塾とも縁が深く合宿にも二回ほど参加したことがあるし、演劇祭や奈良旅行にもよく来てくれて、OBにはなじみの人です。

さきの大震災で田辺くんの住
むマンションは被害がなかった
ようだが、田辺くんは震災直
後から被災地に出かけてボラ
ンティア活動をしていたよう
す。この三月、奈良で田辺く

に会ったときは、塾とホランテ
イアに追われて、エネルギーの
かたまりのような田辺くんもな
々過労気味のようでした。が、さ
の田辺くんにせひ被災地を見て
おくようにといわれて、新海城
さんといっしょに元町や長田
正を見てまわりました。

長田地はとくにひやく、
 多量の被災者のいた小学校は
 玄関から中に入ろうとして、そ

の打つしすんだ氣配に、ここはよそのものが不用意に足を踏み入れる場所ではないと感じて、あわてて引きかえしましたし、建物が壊されて、周囲数百メートルが瓦礫の野と化したほとんどの無人の地帯では、中年の婦人と高校生かと思える若者が、たぶん自分たちの家の跡なのでしょう。花束を前に、うすくまるようにして折りをささげるすがたが見られました。ここむむ、見えてはならないものを見たような気がしてあわてて視線をそらしました。ここにはならない悲しみと胸をつらぬいて、その光景が容易に脳裡を離れません。

(2)

そんなある日、田辺くんのマ
ンションの近くに震災看用の仮
設住宅ができて、田辺くんがそ
の入居者の世話をしているとい
う話が入ってきた。聞けば、
田辺くんは世話役の中心になっ
て活動しているらしい。

うと同時に、こまごまとした雑務の大変さも思われました。なにか実質的に助けられないかと思つて、すぐにカンパを送つたのですが、思えば、これがわたしのはじめての震災カンパ。それまで出したことがなかったのです。

田辺くんの話だと、近所の仮設住宅入居者の世話は三、四年は続きそうだと。助成金の申請も二、三しているという。ならはと、わたしもこの通信で呼びかけることにしました。

どのくらい集まるか見当もつきませんが、集まつたカンパは金額を田辺くんに送ります。とりあえず、十一月十五日をめどにお寄せください。

震災は社会に重くのしかかっているといえますが、カンパは気軽にがまえてくれます。したい人、できる人がして、したい人、できない人はしない。わたしにしても、田辺くんという信頼できる窓口ができたから、自分でもする気になり、他人にも呼びかける気になったので、他意はありません。する人もしない人の心の負担を感じないです。カンパにしたいものです。金額は千円から一万円のあいだでお考えください。

資金面では、10月末から12月にかけて、朝日新聞厚生文化事業団、長谷川さんを窓口とするカンパ、兵庫県社会福祉協議会、京都の浄土宗の小林さんを窓口とする埼玉県農協華祭センターからのカンパと、各団体から基金やカンパが寄せられました。有効に使わせていただきたいと思います。

さて、10月末の五社でのバザーとお茶会を前に私が体調を崩してしまい、皆みにご迷惑をおかけしました。その前後のようすは長谷川さんへのカンパに対するお礼の便りの中で糸田かく書きました。ボランティア通信に私信を書きとめるのは、少し不自然かもしれませんが、あえて書き加えておきたい思います。

先略、有野台のヨカリの山々、は、紅に黄色に、と色を添え、秋の終り玉、感ぜさせる頃となりました。

先日私は私たちがボランティアに対するカンパをめぐっていたありがたさを感じました。もう銀行で二万八五〇〇円のカンパ入金を確認しました。またカンパしてくださった方々からのメッセージも読ませていただきました。知っている方も知らない方もあられますが、文面からどんな方なのかと想像しながら読ませていただきました。

さて、早いもので、震災から十カ月、私たちのボランティアが活動をはじめたやうな半年が過ぎました。十一月の「きのふけふあす」が届いたとき、実は私は体調を崩して活動が休みはじめたところでした。正直なところそのときはまだ自分自身、活動再開のメドが立たず、「カンパの呼びかけ」の見出しを目にしたときも二三日はその文面と読む元気がありませんでした。数日して文章に目を通したあともこのカンパに添える活動が続けようかと思つていました。

話は前後しますが、私たちは仮設住宅支援のボランティア活動をはじめた五月には、この有野台には仮設住宅が4ヵ所ありました。高齢者がほとんどで有野台で一番不便な山の中腹に二つの第一住宅、九〇戸のうち半数近くが空室の第二住宅、第三住宅も東有野台住宅も、二つの前後の戸数に對して、入居者が初めは四五軒という状況でした。私たちは比較的ゆとりと、仮設住宅に入居された方も濃密なつきあいができていた期間が続きました。当初から私自身がお年寄りやケアや住宅環境の改善の窓口を自分一人で引き受ける体制を作っていました。他のボランティアのメンバーに活動の場を増やそうと思いつつ、そのまゝの状態で夏がやって来ました。

あうがじぬ市当局は八月で避難所を解消し、食事の配給を打ち切ることを示していましたので、七月末から八月にかけて、各仮設住宅の入居者はほとんど増えてきました。それに加え

(3)

有野台有馬地域では五社住宅(六五戸)と有馬住宅(四五戸)が新設され、入居はじまりました。このことから一人ぐらしの難しい方やケアを必要とする方が増え、また第二住宅の自治会作りのお手伝いなどもあり、一気に活動量が増えました。しかレ前述したような体制のため、私たちのボランティア活動の方は逆に沈滞の時期を迎えました。頼りた活動はしているが、自分かしている活動を位置づけることができないとか「他のメンバーがどんな活動をしているかわからないし、どんな問題を抱えた人がいるかわからない」とか「自分たちにも仕事と手見任がほしい」との声を聞きました。(あとになってわかったのですが、そんな中で十月二十九日の茶話会とバザーが行われ、三日前に私は体調を崩し、「自分は三日間の活動と茶話会バザーに参加できない」と「バザー及び茶話会とは他のメンバーの方でどうするか話し合っしてほしい」となどと連絡して、病院に向かいました。結局茶話会は規模を縮小し、バザーはそのまま行われました。何人かの主人たちも協力があったこともあって後人聞きました。

十一月八日に「今後の活動をどうするか」ということでミーティングを行いました。メンバーの一人一人色々な意見を出していただきましたが、やはり「窓口が一人のところに集まっていること」に対する批判・声(私には批判というよりむしろ苦言に聞こえました)が出されました。

話し合いの中で有野台ボランティアの活動上の行事(茶話会やバザーなど)②仮設訪問と個別のケア③対外的な交渉(役所や保健所、他のボランティアとの窓口)の三つの柱に分けること。また、仮設住宅の担当を①五社グループ②有野台第一第三東有野台グループ③有馬グループの三つに分けて、それぞれグループごとに仮設訪問や行事を行うこと。月一回のミーティングで、個々のグループの活動状況を報告し、意見交換や協力体制を作っていくことなどが決まりました。

もう個々のグループの集まりも行われ、五社では自治会作

りの後押しでの活動がはじまっていますし、第一第三東有野台担当のグループは「コスモス」というグループ名を決め、「たれがコスモスやねん」という声もありました(ベルボックスの設置後の説明などの活動がはじまっています)。

私の方は十一月いよいよは活動と休むことになっております。体調を崩した直後に、「これで活動が継続できなかったら」という悔しさをいひだしたので、今後は今回のようなことがあっても活動が引き継ぎ、資料や連絡先がすぐにわかるように整理にしようと思っています。と同時に「何でもしてあげる」活動から、本意の意味で「仮設住宅に入居された方々が自分で立ち上がり、いく手助けになる」活動へと、活動の質を見直していかなければと考えております。

二十六名のカンパをしてくださった方々に、またその心をあつちのうきにくれぐれもようしくお伝え下さい。そちらの方々とつながることか心の強い支えのように思っています。活動を続けていきます。

これから本格的な冬の到来です。皆様、お身体ご自愛下さい。

十一月二〇日

草々

長谷川 宏様

田辺 正則

10月30日、五社住宅での、茶話会とバザーが行われました。茶話会では十勝岳山ろく野菜村の方が提供してくださったじゃがいもをふかして食べてもらう予定でしたが、じゃがいもを皆さんにお配りするという形に変更になりました。バザーは

予定通り行われ、冬物の衣類や食器などを中心に8割が9割が売れました。バザーに協力して下さい、また急ぎ手伝いに加わっていただいた方に感謝します。

(4)

11月8日、第6回ミーティング。前述のとおり、今後の活動かをどうするかという話し合いが行われました。各グループは 第1.第3.東有野台グループ(コスモス)が 船引さん、道信さん、森田さん、三木さん、川田さん、五社グループ(サンライズ)が 波来谷さん、村谷さん、三浦さん、榎野さん、伊勢島さん、中野さん、中村さん、望月さん、向井さん、有馬グループ(ユース)が 有吉君、佐伯さん、^{大野君}藤原さん、田辺、渉外担当(エルガス)が ^{渡邊さん}山崎さん、田辺、買物バス担当が 滋野さんと決まりました。各グループの活動のようすは以下の通りです。 <ここまで 田辺 記>

11月19日、五社にて。自治会についての話し合い(バーベキュー)。10時になってもおりが集まらないので、渡邊さん、村谷さん、波来谷で声をかけてまわる。バーベキューの会費が1人700円ということでは参加しにくかったのではないかと。向井さんより ホリボケツ(の配布など)、階段(の力をあげてもらふこと)、^{五社住宅}(入口に設置してほしい)手すりの事について説明。ふれあいセンターを作るためにも自治会は是非必要なので、力になってくれそうな人に打診してまわる。どの方も、仕事を理由にこたえられる。難行…。波来谷より餅つきの説明。たいたいの日とりだけ決める。

話は30分ぐらいで終り、早々とバーベキューが始まる。子供たちを連れていた事もあり、真先にごちそうになっていた。その間に、渡邊さん、向井さんで個別折衝はまわられるが、皆さんサグにはつが、先頭をきてやろうという人は出てこない様子。

他のボランティア(伊勢島さん、村谷さん、波来谷)は皆さんのお顔と名前が一致せず、手もちぶさた…。男小生の参加者はアルコールも入り、話がわりあがっていたが、女性の方は初対面の方もあり、なかなか話しにくい様子で、お世話の方にもわたりされていた。 <波来谷さん 記>

11月30日、グループコスモス。寒くなるとお茶会も開けなくなるので、X'masツリーを購入して第1.第3.東有野台に置くことにする。船引さん、道信さん、森田さんの3人で配達されたもみの木を植える。まず、東有野台住宅へ。総倉さん、小早川さんに手伝ってもらって、バス停横のところに植える、少し飾りもつける。続いて、第3住宅へ。4~5の方が水をくんで来て下りて、掲示板前に植える。最後に第1住宅へ。住宅の間にある空地に植えるが、他の住宅にくらべて土が

固く少し握りにくい。玉川さん、住田さん、奥谷さん、橘田さんが出て来られて、その後玉川さん宅でお茶をいただく。^{グループ}〈コスモスのノートを田辺がまとめる〉

12月3日、有馬グループの1回目のミーティング。私が他のメンバー3人に11月8日のミーティングの経過を説明し、グループとしての活動の仕方を話し合う。まず有馬はまだ個別訪問をしていないお宅がタツいので、月に1回のペースで未訪問のお宅を訪問し、『ヘルシヤ長』を西^{次に}にすること。4人で交代で1週間から10日おきぐらいの間隔で再訪問が必要なお宅をたずねる。再訪問するお宅は、洪さん、平山さん、金本さん、窪井さん、柚木門家さんの5軒。また有吉君から有馬では1度もお茶会を開いていないので、お話しをしたいという提案があり、1月末から2月初めにかけての時期にお茶会を開くことになる。そのあと、仮設訪問。有吉君と佐伯さん、藤原さんと私の2つのグループに分かれて、新しく5軒を訪問。今回は特別に気をつけた方がよい方はおられなかった。

11月22日、^{話が前後しますが}ボランティアどうしの懇親会が行われました。参加者は船引さん、森田さん、三木さん、川田さん、渡邊さん、伊勢島さん、波来谷さん、三浦さん、中村さん、木曾野さん、上田さん、杵谷さん、向井さん、望月さん、滋野さん、山崎さん、田辺の17人。この日はお話しはボランティアのことを忘れて、お互いの話をしたりして楽しいおしゃべりのひとときをすごしました。向井さんの提案で自分の子供のころのことを書いて、それを当てあうゲームをしました。皆さんの子供時代は次のようでした。上の参加者の名前を自分なりに組み合わせで想像して読んでみて下さい。現在の素人を見ると意外に思える文章もたくさんありました。「小さい頃はとてもおとなしい子供でした。ペーパーサートの役がなくても自分で言えず、友だちに言ってもらったりしていました。けれど歌が大好きで“だれかこの歌うたえる人”といわれたら、まさきに“ハイ”と手をあげてうたう子で、先生にびっくりされました。」「好き嫌いがかたかくて、食べるのが遅かったけど、ほんの少しおとなしくて、かわいくて、良い子でした、と自分では思っています。3750gで生まれたのですが、あんまり大きくなれなかったみたいで。」「内弁天けい。小学生の頃は男の子とボールあそびなどはばかりしていたとか。」「結婚するまでは、どちらかといえばおとなしかったかもしれないと思う。」「現在と同じく外では取っかがりや

で おとなしい女の子でした。内弁慶だったんです。体型的には、背がひく細身でそれが小柄みで
した。今とは想像がつかないでしょう。」「何にでも好奇心おうせいで、すぐく活発でした。小6の時
は、児童会の会長をしていました。顔がま黒で、母親ははばかりて、買い物にも一緒に行きたく
ないといっていました。」「無口でおとなしい子供。しかー年生の授業参観日には、いつも後の席で
系とり。そして先生の話は聞いていなかった。母が家に帰り、私も系とりしたからため〜。(不理由)
先生の授業は、ちとおもしろくなかった。オールドミスのビスバリアのため、親たちもうんざりしていた(魚崎
小学校の昔のお話)。いつも高い所にのぼるのか、すきなおてんばで、ケガばかりで、今もケガにあちよ
ちよい。こまったもんだ!」「小さい時の自分。戦後で、食べ物もなく、畑で、タイコン、エンジンをはいて
よく食べて、母親にしかれたこと。遊ぶ物は自分達で色々つくりました。竹馬、ソリ、グライダー、竹
トボなどなど。」「たんぼやはたけを駆けまわると子供でしたが、泣き虫で、やんちゃな子でした。カメラを
向けられると、いつもへんな顔をすると、小学生のころの写真で、ろくなものはのこっていません。」「かっぱ
で、体育がすきで、おしゃべりで、1人っているのが、きらいで、母親に甘えてばかりいた。末っ子なので、皆に
可愛がられていた。近くに親せきが多かったんで、いつもどこかのお家へ行って泊まったりもしていた。」「
兄二人の末っ子だったので、負けん気の強い反面、はずかしがり屋で、写真をとってもらうのもいやがって
いた。七五三の写真もなかなか笑えなくて、写真屋さんが苦勞した。母が商売で忙しいと、祖母が
おもり役で、学校へ上がる前は近所しかいけなかった。」「小さい時から本は好きでしたが、スポーツ
は苦手でした。3才の頃、自家中毒にかかり一時は、両親が、あきらめたそうです。それでもここまで
元気でいられたのは、見えた命なのかもしれません。」「内気、ひっそり思案。鉄棒、マット等は得意。
人前ではしゃべれないやさしい子。病気がち。へんこ。B型。好奇心のかたまり。まじめ。」「幼稚園、
小学校2年までは西須磨の方で、おとなしくて泣き虫でした。2年の3学期に本山の方へ引越してから
は、少しずつ活発になり、中学校時代はバレーボールで、明け暮れました。」「無口でおとなしい小学
校時代を送りました。(ほんと)友達も1人か2人くらい? 中3の頃、メチャ元気な子ばかりのグループ
にひっぱられて、おもしろく、無口でしたが、ラブピースとおたををつくられました。マイペースは今も続いています。」「

「山間に産声をあげ、自然になじんで楽しい日々。」

11月26日、第2住宅で、カレーとバーベキューの会。私も渡邊さんに誘われて、仕事の合間に顔を出したのですが、第2住宅の7棟の角を曲がったときに私の目の前にひろがった景色は第2住宅の皆さんがにぎやかに食ったり飲んだりしているようす。昔の長屋のようなあたたかさとにぎやか^{6棟の森貞さんとお話している、}感じられ、第2住宅の皆さんの結束力の強さを感じました。私たちボランティアが自治会づくりのお手伝いをして本当に良かったと再確認しました。

12月6日、第7回ミーティング。参加者は11名。はじめに各グループの活動状況と今後の活動の方向についての報告が行われました（前述と内容が重複するので省略します）。五社ではその後急速に自治会を作ろうという重きが強まり、12月10日に結成大会が行われます。向井さんや渡来さんは連日のように五社住宅の方と打ち合わせをされていたようで、本当にご苦労様でした。また12月24日に第2住宅でもちつき大会が行われますが、このもちつき大会は有野台第2住宅の主催で、第1・第3・東有野台住宅にも声をかけて行く大がかりなものとなります。ボランティアの便りは当日の車輸送^{3つの}（住宅の方をお乗せすることになったものを配布すること）と道具の調達をお手伝いし、費用も多少負担することになりました。

12月10日、有野公民館で五社住宅自治会の結成大会が行われました。結成が決まってから当日までの日取りがかなり短かったため、役員の方々のご苦労も多かったと思いますが、副会長の池田さんも議長の役をうまくこなされ、会長の坂東さんのあいさつが終ったときはとどにおりなく議事が進み、安んじました。その後の懇親会も165戸という大所帯のお互いを知り合う良い機会がもてたと思います。五社住宅は色々な意味でケアが必要な方も多く、今後も自治会をボランティアが助けしていくという関係がしばらく続きます。

12月16日、仮設住宅入居者代表と行政機関等との連絡会議が行われ、第2住宅の岡田さん、渡邊さん、五社住宅の坂東さん、今田さんとともに有野台ボランティアからは山崎さんと私が参加しました。ほとんど自治会もでき、ふれあいセンターの建設も順調に進んでいる藤原台地区にくらべ、有馬・有野台地区は6つの^{住宅のう}2つの住宅の自治会がようやくできたとあって、ふれあいセンターの建設はこの時点で

ゼロです。20戸前後の住宅で空部屋も多い第1・第3・東有野台や45戸で未入居の多い有馬住宅などは入居者の少なから自治会を作ることもかなり困難で、共同して自治会を作るにはあまりに場所がはなれすぎていますし、ふれあいセンター建設の要件となる50戸という戸数も満たしていません。また大きなうめのセンターを建設しても、それを管理・運営できる戸数ではありません。こういう少数住宅に対する行政の配慮は明らかに不十分です。私たちボランティアでは冬^{寒い}が来るまで^{寒い}にと思って、各住宅の空部屋をふれあいセンターの代用として使わせてほしいと区役所に要請してきましたが、区役所の方も国が建設した仮設住宅は住居用に使うもので、集会所にあてることができないと多量りの状態です。とりわけ老人が多く、山の中腹のかなりきびしい状況のもとにある第1住宅では冬の到来とともに雪によって住宅が孤立化する可能性もあります。(現実にはこの会議の^{12月25日・26日の}あと2日間の大雪で、状況はさらに迫ったものになりました)私たちは区役所の方々に少数住宅への配慮と空部屋の開放を重ねて要請しました。第2住宅の会長の岡田さんも「仮設住宅は国民の税金で作ったもので、1戸数百万の費用がかかっているものをそのまましておくのは税金のむだ使いです」と強い口調で話されていました。またふれあいセンターに関しては90戸と要件を満たしている第2住宅は建設が決まりましたが、五社住宅は用地の問題で建設の決定は先送りとなりました。

12月24日、第2住宅でのもちつき大会の日です。私が東有野台で船倉さんと小早川さんを、第1住宅で住田さん、奥谷さん、竹本さん、玉川さん、佐名川さんをお集り、第2住宅に着いた^{9時過ぎ}には、もうもちつきは本格的に行われていました。自治会長の岡田さんの話によると、朝6時には火をおこしはじめたそうで、第2住宅の方々以外にも連合自治会の方々や岡田さんの友人の方々など手伝った方たちもちをむし、きねを振り下ろし、もちをこねるといった具合に実に段取り良く進んでいます。もう^{3つの}住宅に配る予定のおもちも箱に入れられ、きねと分けられていました。しばらくして、舟引さんが来られ、さっそくもちの配送をお願いしました。10時半には第3住宅の方々9名をお連れし、すぐあと五社住宅からも坂東さんをはじめ5名ほどが見学に来られ、本当ににぎやかなお祭りになりました。順調についていたので、予定していた70kgに20kgを加え、全部で90kgのもち米をつき、有馬住宅の方々にももちを

味わっていただくことができました。ボランティアの私たちはあまりやることがないくらいで、おもちゃ豚汁をごちそうになたりしていました。お昼前後からは仕事もできて、渡来谷さん、道信さん、佐伯さん、藤原さんが洗い場で使い終わった食器を洗ったりして手伝いました。ほかには川田さん、何井さん、山崎さんも参加。第2住宅の皆さんの結束力を改めて感じました。この大規模なもちき大会を事古くなくやり通すために、1ヵ月以上前から準備された第2住宅の皆さん、とりわけ岡田さんにバカにご苦労様といった気持ちです。午後から雨はふりましたが、早目に段取りできたことで片付けの方も手際よく、最後は皆で日本酒で乾杯。楽しい1日をありがとうございました。

〈以上 田辺 記〉

〈1月の活動予定〉

1月12日(金) 第8回ミーティング 10:00 ～ (田辺もにて)

有野台

'96.3.25

有野台 ボランティア (981) 7511

ボランティア

No.6

通信

編集 田辺 正則

今年の冬はとりわけ厳しく、有野台では5回の積雪がありました。また 北区・西区の仮設住宅では水道管の凍結や破損・水もれがタク、有野台・有馬地区の6つの仮設住宅でも、たびたび凍結や水もれがあり、入居されている方々にとってはたいへんな冬になりました。

1月10日、森田さん、波来谷さん、波来谷さんの住居人の3人が融雪剤を藤原台第2住宅ふれあいセンターに取りに行き、有野台5住宅に配布されました。有馬住宅は14日に大野君、佐伯さん、私の3人で融雪剤を運び込みました。有馬では4棟の松原さんから、「3棟からの水もれがひどい」という指摘を受け、水もれているお宅にメモ書きを入れ、水道の元栓を開けて、市に連絡しました。

1月12日、第8回のミーティングが行われました。30日に開かれる有野台第2住宅のふれあいセンターの運営委員会に山崎さんが出席すること、五社ふれあいセンターの着工もほぼ60のサインが出ることなどが確認されました。また各グループの活動状況の報告があり、五社・有馬では再訪問の必要な方の現状が確認されました。

五社グループの提案で、節分の豆を1戸に1袋ずつメッセージをつけて配ることにしました。メッセージは以下の通りです。「厳しかった冬も、もうひとときで春です。まだ少し、寒い日が続きますが、どうぞお元気で過ごして下さい。心ばかりですが、お配りしました豆と共に、皆様のお宅に福がやってきました事をお祈りしています。」1月25日、船引さんと波来谷さんが長田区の吉田ビーンツまで節分の豆300袋を買い出しに行かれる。有馬は1月28日、有野台第1・第2・第3・第4・有野台・五社は1月30日に鬼の面とメッセージを添えた豆が配られました。豆の袋を手渡すと、ふと忘れていた季節の行事を思い出されるのか、笑顔がかえってくるのがタカかったのが印象的でした。

2月4日、第2住宅ふれあいセンターの開所式と五社ごのがす汁のたま出し、豆まきとバザーが行われました。ふれあいセンターの開所式はふれあい推進員の渡邊さんの力強い決意表明ではじまり、

区役所、消防、警察、自治会、老人会、小学校、民生委員の方などのあいさつに、司会の井上さんが丁寧に応えていく形でなごやかにすすみ、最後にふれあいセンター会長の岡田さんから「このセンターは第2住宅だけでなく、第1・第3・東有野台住宅の方にもとんとん利用してほしい」という話で締めくくられました。第1住宅からは住田さん、竹本さん、玉川さん、奥谷さん、第3住宅からは谷垣さん、呉さん、大前さん、東有野台住宅からは船倉さん、小早川さんも参加され、式のあとは楽しい昼食会となりました。(田辺)

五社住宅ではかす汁の炊き出し、豆まき、バザーの催しです。10:00前にボランティア集合。前もって運んでおいた灯油の缶に^{20棟の}中村さんが穴をあけて、くべられる様にしておいてくれたので、火を炊きはじめる。小さい方の金鍋が火に近いで早くわいたが、大きい方の金鍋は火が遠くてなかなかわかない。野菜が煮えず、集まって来られた方には、炭火で焼いていたおもちゃ、先にできた豚汁を食べて待つ頂く。それでもなかなか野菜が煮えず、金鍋をうしにかえたり悪戦苦闘。住民の方たちにも手伝って頂く。なんとかかす汁もできみなさんに食べて頂く。(やはり大根がおいしい)当初、最初に豆まきをする予定だったが、年男で音頭とりを頼んでいた今田さんが坂東さんと第2住宅ふれあいセンター竣工式に行かれたので、30分後に帰るからということでご待つ。1時間がたとうとしているが、2人共に帰って来れない。皆さん帰ろうとされるので仕方なく大沢さん(年男)に頼んで^{かみし}上下を着てもらい、豆まきをするが、今ひとつ盛りあがりかけて終わる。そのあとで“どこかで春か”のうたをビデオにあわせて、みんながうたう。参加されたかたは50人足らずで、最初にボランティアが声をかけてあつたが、かす汁がたくさんあつたので、皆さんにお金鍋を持ってきてもらい、持ち帰ってもらう。バザーの方も前回に比べると規模が小さかったので多く売れ残ってしまった。3棟の竹田さん、2棟の岩谷さん、14棟の上田さんが参加して下さったのは良かったと思う。他の方々も喜んで頂いた様だ。ボランティアの中村さん、折谷さん、^{伊勢島さん}望月さん、檀野さん、三浦さん、向井さんも皆さん本当によくやって下さって、御家族や教員の方まで御協力頂き、ありがとうございました。(渡来谷)

4日は第1住宅の石川さんが第2住宅に引越されました。前日には船越さんが、当日は道信

私と船引さんが手伝いとして、荷振りと荷物の整理を手伝ってくれました。石川さんは足が悪くて買物などにもかなり困っていたので、便利のよい第2住宅に移り住んで良かったと思います。

2月9日、第9回ミーティング。参加者は9名で、初参加は田畑さん。^{グループ}コスモスは1月後半から2月にかけて森田さん、船引さん、道信さんがかなり精力的に3つの住宅をまわっているとのこと。未訪問のお宅の訪問や再訪問を^{入居しているお宅は}づめている。凍結による水もれや水道管が曲がったりして困っているようだ。五社グループの渡来谷さんからは五社の自治会運営や人間関係がもうひとつうまくいっていないという問題提起がありました。五社グループでは今後のミーティングで、ボランティアと自治会役員との交流を深めようということで、2月17日に交流会がもたれました。お互いの紹介や役員にならなくて苦労されていること、ふれあいセンターができてからどんな活動をしていくかなどの話がされました。また、向井さんから西郷小学校が新品のランドセル(救済物資)を提供してくださるとの話があり、各住宅の新入生に配布することを承認しました。

2月11日、有馬公民館で有馬住宅の方との初めてのお茶会・バザーを開きました。12時すぎに有馬の公民館に到着。ボランティアの参加者は大野君、有吉君、佐伯さん、木村さん、田辺。バザー用の衣類や小物、毛布やふとんカバーなどを床の上にひろげ置く。1時間ほどでお茶会とバザーの準備が終わり、有馬住宅の車で迎えに行く。一戸一戸声をかけて歩くが、久しぶりの暖かい陽気でお出かけの方が多いのか、おられない方が多い。當谷さんが外原さんを誘ってくださり、あとは米田さんご夫婦の4人で、公民館へ。床に並べられた品物を見て、皆さん遠慮がちに品物を手にされる。あとはお茶菓子をつまみながら、お茶会。當谷さんや米田さんから地震にあわれたときのことを、いろいろと聞かす。外原さんは木村さんとひとしきりしゃべっておられる。そのあと米田さんから昭和13年の神戸大水害の話や昔の新開地や三宮の様子など、昔の神戸の話をたくさん聞く。私の年令でもほとんど初めて聞くような話で、中学生、高校生のボランティア3人にも興味深い話だったように思える。少人数の集まりだったが、米田さんご夫婦は當谷さんや外原さんともお話しされるのがほとんど

初めてだったとのこと、お隣り近所の交流ということでは、少し意味があったのではないかな。(田辺)

来られた方は少なかったので残念… バザーでは毛布美類がほぼなくなったのでよかった。部屋がさむかったので今度は暖かい日にしたい。(佐伯)

今日来た人はみんなけっこうしゃべっていたからバザーとかを開いてよかったと思った。(大野)

昔の話とか、いろいろな震災直後の事を聞いたので、その時の事がよく分かった。今度は仮設の中でたくさんの方とやりたい。それと有野台の人とかともいっしょにお茶会をやたらなあと思う。少ない人数だったけど今日はよかったと思います。これをきっかけに顔見知りになってほしい。(有吉)

2月15日、道信さん、舟山さんのお2人が竹本さん宅を借りて、突然のお茶会とされる。冬の間は寒さのため、戸外でのお茶会は不可能。竹本さんの厚意で、第1住宅の久しぶりのお茶会となる。成川さん、奥谷さん、橘田さん、永井さん、福さんが来られる。皆さん喜んでいらっしゃったとのこと。早く暖かくなって、戸外でお茶会が開ける季節になってほしい。

2月18日、有野台第2住宅ふれあいセンターで“地域の皆さんへの感謝デー”ということでコーヒーパーティーが開かれました。漢雄区のコヒー会社が材料や道具を提供してくださり、本格的なコーヒを第2住宅の方々が皆さんに楽しんでいただくというものです。当日はあいにくの積雪でしたが、第1住宅の玉川さん、奥谷さんは雪の中を下りて来られましたし、第2住宅の方々も、地元の住民の方々も来られ、香りの高いコーヒで身体をあたためられていました。

2月19日、埼玉県長谷川摂子さんが1日ボランティアとして活動に参加され、私と有馬住宅の訪問をしました。長谷川さんが持ってきてくださった“てふき”(岡崎市のろばの家の方が作られたもの)と漢雄区でボランティアをしている道家さんからいただいた“花たれ”(横浜のろばの家の方が作られたもの)をお渡ししながら教軒を訪問しました。以下は長谷川さんの感想の一部です。「高齢の方が震災をのりこえ、生きていくためにはお互いの交流、若いボランティアの人達との交流、とにかく人となりのふれ合いが必要だと痛

感しました。田辺くんが話す『お茶会』などの意味がよくわかりました。」

3月6日、第10回ミーティング。参加者は8名、佐伯さん、有吉くんは初参加です。五社ふれあいセンターの開所式が3月17日に行われ、有野台ふれあいまちづくり協議会が中心になってもちつきを行うこと、第2住宅のふれあいセンターでヨーガ教室(第1・第3金)とポッチワークの教室が開かれること、前回伊勢島さんから提案のあったボランティアの新しいメンバーの募集をすることなどが確認されました。また100足近くあったくつはNGOの連絡会議を経て、中国雲南省へ送りました。※(→P37)

3月17日、五社ふれあいセンターの開所式ともちつき大会の日です。ところが、朝からすごい雨と風、つまりもちつき大会の方は中止になるものと思っていましたが、もち米を無駄にしたくないということでもちつきも行うことになりました。強風の中、埼玉県所沢市から参加したボランティアの長谷川聡子さんとともに車に乗りにみ、五社へ。実は昨夜、五社ふれあいセンターから電話があり、司会の坂東さんの体調が思わしくないで、代わりにボランティアの方で司会をしてほしいという連絡を受ける。波来谷さんがもう一度代役をさがすが無理らしく、ボランティアで司会をひきうけることになる。深夜まで波来谷さん宅で急ぎ、司会の段取りの打ち合わせ。波来谷さんのご主人も最後まで根気よくつめてくださる。結局、私が司会をし、ボランティアは来賓としては出席しないことになる。五社に着くと、テントのところでもうもち米を蒸して、つきはじめようとしている。そちらの手伝いも気にはするが、波来谷さんと私はふれあいセンター委員長の池田さんと打ち合わせ。池田さんも来賓の人数を確認されてなくて、来訪した方の名前を聞いて確認することになる。10時近くになると来賓の方も次々に来訪する。役員以外の住民の方の参加が少ないので、7棟の大沢さんたちが声をかけに行ってください。式をはじめるにあたり、ボランティアが司会をするということになった経緯を説明する。はじめに、委員長の池田さんがあいさつされ「海が見える神戸の街にむかえる日がお互いに年をたずさんてかえりたい」というあいさつをされる。そのあとふれあいセンターの役員の紹介、来賓のあいさつと紹介をして式を開める。11時には式は終わり、外に出ると雨・風ともほとんどなくなっている。雨風の強い中、濡れながら、もちつきをされたふれあいまちづくり協議会の方々、本当に苦勞様でした。

昼ごろには五社住宅の方々ももちつきをしているテントのどろへ来られて、できあがったぜんざいやきな粉もちを食われたり、おしゃべりをされたり、ビールでぼろ酔いになられたりといろいろ。田中本さん、土屋内さん、岩瀬頼さんは杵をもちももちつきに参加。途中で杵が頭にあたり、けがをされた方がおられ、ひやりとするがたいしたことはなかった様子。テント前の加藤さん方では各戸に配られるもちの仕分けが行われている。2時過ぎには、仕分けと片付けも終わり、もちつき大会は終わる。五社住宅は人間関係で少し大変なところもあるようだが、人の集まる行事はやはり大切なこと。楽しんで交流する場が少しでも多くなればよいと思う。ボランティアの参加は渡来谷さん、三浦さん、村谷さん、檀野さん、中村さん、伊勢島さん、長谷川さん、有吉君、私の9名。皆さん、雨と風の中を本当にご苦労さま。有吉君は3月中に大学入学のため熊本へ引越すので、今回が最後のボランティア活動。1年にみえない期間だったが、有吉君にとってもよい経験がたぐさんできたのではないかと思います。

(田 辺)

＜4月の予定＞

第11回ミーティング 4月11日(木) 10:00～ (田 辺 氏)

※ (→ P36) 今後のボランティアの活動についての話題にのぼり、自治会やふれあいセンターができた住宅はできるだけ住民や役員の方々に^{運営や活動}おまかせし、個別にケアや再訪問の必要の方を中心に活動すること、またお茶会などの^{人々との}交流の行事は継続していくことなどが意見として出されました。

(追記) 川田さんが引越されることになりました。ボランティアとしては最年長でしたが、「私はボランティアをしている方々を景で支えていく」ということをいつもおっしゃっていました。人生経験の豊富な方の存在というのは、心強いものでした。

有野台

'96.6.18

有野台 ボランティア (981) 7511

ボランティア

No.7

通信

編集 田辺 正則

3月31日、第2住宅ふれあいセンターで運営委員会が開かれました。決算の承認と運営部長の任期の終了にともない、運営委員長が岡田さんから中川さんになりました。

4月11日、第11回ミーティング。朝日新聞厚生文化事業団より^{仮設住宅への}花の苗プレゼントのための資金援助の話があり、申し込むことになる。花の苗の配分は各グループごとに行うことにし、その仮設住宅の戸数に比例した形で、それぞれのグループの予算を配分することにする。そのあと、今後どのような活動をしていくかというボランティア活動の在り方や方向性についての問題提起があり、参加者が1人ずつ意見を言う。檀野さんから「今、仮設住宅に住んでいる方は何を必要としているのか」という問いかけがあり、三木さんが自分の体験の中から「ふれあいが何より大事である」ということを話し、檀野さんもうなづいておられた。また山崎さんは「無理をせずに活動する」と、中村さんからは「ボランティア同志が矢張り合って深く話せるおこなったことは意味があることだった」という意見が出された。時間がなくなり参加者全員が話すことはできなかったが、ときどきこうした活動の本質にかかわるような話がでる場が必要だと感じた。新ボランティア募集のほうは文面が具体的なものでないとかかりにくいという滋野さんの提案でもう1度練り直し、次回に持ちこすことになった。

(田辺)

4月14日、五社ふれあいセンターの委員さんが中心になって、お花見。4月になって雪が降ったりの異常気象で、まだ寒く、桜もつぼみのま、少々さみしいお花見となった様子。ボランティアは伊勢島さんがおはぎをさし入れて持って参加して下さる。それでも30人位参加者があり、高田さん、吉田さん、関戸さんたちや伊勢島さんたちが参加者の送迎をされる。途中、入院中の坂東さんを加藤さんと堀ノ内さんが迎えにゆかれる。(波来谷)

4月18日、コスモスグループによるお花見。参加者は第1住宅から若井さん、福さん、竹本さん、永井さん、成川さん、住田さん、第3住宅からは大西さん(お母さんとお子さん)、谷垣さん、吳さん、岡崎さん、鹿山島さん(お母さんと娘さん)、車有野台住宅からは総倉さん。天気予報がはずれ、少し風はあるけれど、

よいお天気になりました。第3住宅前に11時集合の予定だったが、何故か第3住宅のおと東有野治の船倉さんは先に出発されていた。^{みで}第1の方とボランティアで切畑公園まで行く。ボランティアは三木さん、森田さん、船倉さん、道信さん、田辺が参加。道信さんがほかほか弁当を買いに行かれます。12時頃からお弁当を食べ、ビールも飲みお花見が始まりました。桜の花は満開。大きな一つの輪になって日差しが強く、感じる程、暖かくてよいお天気。歌や踊りがなかったのが少し残念だったが、ビンゴゲーム(都道府県名記入)

をして、1位から5位までの方にプレ

ゼントが他の方にも参加賞があたった。

皆で、写真撮影して、2時30分頃、

解散。コスモスグループの欠々の大きなイベントでしたが、

1位 鹿山島さん (さいふ)

2位 岡山奇さん (タオル)

3位 永井さん (キーホルダー)

4位 船倉さん (スリッパ)

5位 竹本さん

天候の心配や準備と色々と大変でしたが、皆さんに楽しいひとときをすごしてもらえ、幸せでした。

(コスモスのノートから田辺がまとめる)

4月26日、五社グループの花の苗プレゼント。伊勢島さん、高田さんご夫婦と淡河まで花の苗と土を買いに行く。友人の紹介で行ったが、土が1袋500円と高く、花の苗は安かったが、種類が少なかったので、同じ花ばかりになってしまった。車3台で土、苗を積んで帰る。苗を植えてお洒りするのはいよいよ翌日になる。

4月27日、前日に、見貼紙をしたが、お手伝い下さった方は少なく、佐藤さん、今田さん、名無さん、北尾さん、喜多村さん、中村さん。ボランティアは中村さん、木置野さん、望月さん、三浦さん、渡来谷。苗を植え終わってから、お花を欲しい方はふれあいセンターまで取りに来て下さいと声をかけてくれる。53あったプランターは8個程をのぞいて、皆さん喜んで持ち帰り帰られる。ご自分で取りに来られない方はお持ちする。途中、買物帰りの竹田さんにお会いし、お花をわたす。増田さん、梅田さん、上田さんにもお持ちする。Fさんはまた、いつ入院されるかわからないので、世話ができないからと断られる。残りはご自由にお持ち帰り下さいと、見貼紙して帰る。はじめ、各棟に3個

ずっぐらい プランター をおいて、各棟で お世話頂く様にしようと思っていたが、水をやるのが難しいので、お好きな方にお配りする方がよいのではないかという 高田さんの意見でお配りすることになった。しかし、見貼紙には“花の植えるのをお手伝い下さい”と書いていただけだったので、当日お留守だった方から後で、欲しかったのにとの声が出て、再度欲しい方はふゆあいセンターの用紙に書きこんで頂くことになった。

(波来谷)

4月29日、有馬住宅での茶話会。朝から良い天気で、少し暑いくらいだ。11時過ぎに佐伯さんと私で買い出しに行く。おはぎに 二郎のいづこ、喫茶店で貰ったコーヒーを買ってくる。帰てくると中村さんが来られている。1人でも人数が多いと助かる。車に荷物を運び込み、有馬住宅へ。テントの方は区役所の方が立ち上げられるように置いてくださっていたので、4棟の松原さん、小林さん、森さんに声をかけて、テントをもち上げるのを手伝ってもらう。お仕事に行かれる途中の1棟の方も手伝って下さる。そのあと下にビニールシートをしき、机とイスをセッティングし、お茶や道具を運んで準備はOK。ミニこいのぼりをテントの横にかける。1棟ずつ声をかけてまわる。2棟の當谷さんと門家さんがはじめに出て来られ、4棟の田村さんにも声をかけてくださる。そのあと6棟の外原さん、洪さん、岡田さん、4棟の小林さん、松原さんが出て来られる。松原さんはお湯を持ってきてくださる。中村さんがお茶を出し、私はコーヒーの係。皆さん、おはぎやいちごをつまみながら、おしゃべりがはじまる。小林さんはご自分の以前されていたお仕事のことを、岡田さんは震災当初の状況をいろいろと話される。岡田さんと同じ地域に住んでおられた松原さんは話が小学校時代のことや東灘の浜の海の話だとか頃のことと及ぶ。當谷さんから買い物のことをお尋ねするが、有馬温泉馬足近くのスーパーでとりあえずのものはまかなえるとのこと。少しずつ場の雰囲気もなれてきて、皆さんご自分の話をされる。途中からお仕事帰りの寛さんも加わり、外原さん、洪さん、田村さん、門家さんに話しかけられている。寛さんは毎日ご年輩の方に声をかけてまわられているとのこと。洪さんと話されながら、「はじめは彦寛色もよかったですけど、近頃は元気になりは来ね」と言われている。2時半頃には女の方はお帰りになられ、吉田さんが来られて、男性4人とボランティア3人でおしゃべり。やはり話は仮設後のことになる。吉田さんは公営住宅の建設とともに民間住宅にも市や県が助成して、低家賃で入居するような動きを行政がしてほしいとおっしゃっていた。皆さん、話はつきないようで、いろいろとおしゃべりできて楽しい催しだったと思う。テントも立ったことだし、ときどき茶話会をして皆さんの集まる場所がもてればと思う。



(田辺)

前回とちがって、住宅の敷地内で行ったので来られた方が多かった。皆さん、色々とお話をされていたので、交流が深まったと思う。テントができたので、これから もっと交流が深まることを期待したい。(佐伯)

5月6日、「赤門塾まつり祭」が埼玉県所沢市で催され、参加してきました。以前からボランティア資金のカンパを送ってもらっている方たちの集まりで、50名ほどの方が参加されました。三つの出しものとバザーと句会からなる会です。はじめに私が震災ボランティアの活動報告ということで、自分自身が活動することになったきっかけやボランティア活動によって得た人と人とのつながりの大きさについて話しました。また、仮設住宅の生活の報告では、「仮設後」が大きな問題になっていること、とりわけ仮設住宅から自力で立ち上がれない人々に対する国の援助金の必要性や、恒久的な低家賃の公営住宅を早期に建設することの重要性などをお話しました。私の少し深刻な話のおとは桂川潤さんによるフルートとフラウト・トラベルソの演奏でくつろいだ気分になり、長谷川摂子さんの昔話の語りでは（特に「人間の一生」では）にぎやかな笑い声も会場に広がりました。そのみとは「震災チャリティー・バザー」ということで、赤門塾とかがかりのある方たちが作ったステンドグラス、絵画スケッチ、焼きもの、草花のアクセサリーなど素敵な作品が販売され、売り上げはカンパとして5月末に受け取りました。会の最後は句会です。あらかじめ春をイメージした句を1人2句ずつ出し合い、皆で採点して批評合うものですが、春を感じさせる素敵な句が目白押しでした。「ワイパーにタネホの糸糸も ^{ひたす} 一休み」…。(田 辺) 

5月10日、コスモスグループの花の苗プレゼント。淡河の農家で花の苗、土を分けてもらう。30分(ベゴニア、日陰草、イノバエス)で行ける距離なのに、渋滞でずいぶん時間がかかり、又、何こうで土を農家の方と一緒に10袋つめたりし、有野台にもどったのは12時過ぎ。1時30分頃から第1住宅へ苗、土、プランターを持って行くと、皆さんが出て来て、自分の苗を植え、又お留守の方の苗もみんなでも植えていただく。たくさんの方が協力して下さったので30分くらいで終わった。ワイワイ ガヤガヤ 云いながら楽しいひとときがすぎた。第3住宅・東有野台住宅でもそれぞれの住宅の方が出て来て仲良く植えることができた。(船引、三木、森田、道信)

5月11日、ボランティアフォーラムが鷹取中学校で催されました。有野台ボランティアからは大野君、

渡来谷さん、私の3人が参加。午前中の「語り合いのとき」(分科会)では、3人とも KOBE在宅ケアボランティアグループ ほほえみ主催の「仮設住宅への支援ー在宅ケアボランティアの立場からー」に参加しました。西区のボランティアグループ「テルスター」の福岡さんは毎週日曜日に参加している「ふれあい喫茶」について話されました。関西空港の対岸にある仮設住宅を支援している「りんくう助け合いネットワーク」の奥野さんは「地元で仮設があることを知らなかったという反省のゆえに活動が始めた」と話され、「ふれあいサロン」や 友愛訪問の活動について話されました。ほほえみのメンバーの方からは仮設住宅に入居されている方にとっては小巨匠住宅への入居が一番の希望だが、ボランティアができることとできないことがあるということ、また仮設住宅を出て自立できる方が増える一方で社会的弱者が取り残されるという状況ができてくる中で、そういう方々の孤独感を少しでもやわらぐ支えていく活動をしたいという話がありました。午後からの「学び合いのとき」は各分科会からの報告のあと、全体討議に移りました。分科会の報告や全体会議の発言の中から阪神・淡路の現況を発信していくことの大切さを改めて感じました。また、週末ボランティアの方から署名運動を展開し、公的な援助金を求めていく動きがあるという話が出され、一方でそれはボランティアがやるべき活動なのか?という意見も出され、議論がもうひとつうまくかみ合いませんでした。皆さんの発言や会場で出会った人たちとの会話はしばしばボランティアの苛立ちということを感じました。そういう私自身も「仮設からの自立」ということを頭に描くとき、少なからず苛立っている自分を感じるのでありますが…。最後に発言を言及述べていた2人の女性が発言し、1人の方は「皆少し苛立ちすぎている。もっとリラックスして考えよう。私たちが『御蔵5-5』というグループで(分科会で)校庭でバレーボールをしたのも、そういう意味があったんです。」と話され、もう1人の方は1個人の交流として他のボランティア団体に参加してみるというような柔軟な発想というかも大切ではないかという発言がありました。

5月17日、第12回ミーティング。参加者は本宮さん。まず1995年度の監査が船引さんに、1996年度の会計が船引さんに、監査が伊勢島さんに決まりました。
(’95年5月~’96年4月)



各団体の戸数に応じ

また 朝日新聞厚生文化事業団から 花のプレゼントの助成金が出ることを決まり、コスモス(第1第3、東有野台)が6万1000円、有馬 3万7000円、五社 18万2000円、有野台第2、12万円と予算が配られることになりました。前回から持ち越していた新メンバーの募集はビラの内容も具体的に書き改め、メンバーで手分けして有野台全域約4500戸に配ることになりました。各グループの活動状況の報告の中では、五社住宅の梅田さんの病院送迎が再開されることになりました。数日後、梅田さんは急に首が痛くなり、波来谷さんが車でアドバント病院へ。翌日、国田神戸病院で再検診。痛みもなくなりましたとのことでは何よりでした。波来谷さん、連日の付き添いご苦労様でした。

ボランティア募集

有野台・有馬地域の仮設住宅で、ご年配の方の話し相手になつてくださる方、茶話会などのお手伝いをしてくださる方を募集しております。

また、仮設住宅のふれあいセンターで、手芸・料理・体操などの趣味の教室の講師として下さる方を募集しております。

初めてボランティア活動される方、また中学生・高校生・大学生の参加も歓迎します。

〈問い合わせ先〉

有野台ボランティア 田辺 まり
(TEL) 981-7511

5月25日、仮設住宅の見守り活動関係者連絡会議が岡場の北神ビルで行われました。日頃から訪問活動を行っているふれあい推進員、民生児童委員、保健婦、ボランティアが一堂に会して、互いの連携を密にしていこうという集まりです。仮設に入居されている方々はやはり住環境をめぐる問題の方が大きいので、ふれあい推進員さんからもそういう発言が多く、見守り活動の中の具体的な問題点を議論しあうところまでいかず、顔見せ程度に終わりました。有野台第2住宅からは渡邊さん、富村さん、五社住宅からは野口さん、名無さん、有野台ボランティアからは波来谷さん、田辺が参加しました。

(田 辺)

6月8日、有馬住宅での花の苗プレゼント。新しいメンバーも数名参加されました。

午前、三田宝塚園芸センターへ。昼食。午後、有馬仮設で花を植え、配る。その後歓談。初めて参加した有野台ボランティアであったが、車で共に行き、花を選び、昼食も共にしたこと、ボランティア同志知り合うことが出来、仮設での活動前にチームの下地(?)が出来たことはよかった。仮設に着いたとき 本当に人が集まるのだろうかと思つたが、1人、2人と出て来られ、花壇作りにも1人の男性の方が最後迄一緒にして下さり、私達も「一緒に働く」ことであちうの方と自然な交わりが

出来たように思う。一鉢二種類の花も可哀しく、仮設に色が漂ったように感じられた。出て来て下さった方も花を育てる楽しみ、喜び、意欲を見せて下さったよう。門の横の種蒔きをした花壇にロープを張って下さったり、ありがたい思いがした。種蒔きの後、テントの下で何となくの話し合いも“ふれ合い”の自然の場となり、このような自然な場が度々出来ると、仮設の方同志も、私達も、お互いに知り合えとか出来るのではないかな。
(高木)

10時に三田へ花を買いに行く。1時から有馬にいて、花をあげる。いちこう前に言われたときよりかはいちこう仲よくなったと思った。みんな喜んでいたのでよかった。
(大里予)

初めての有馬仮設でのボランティアで感じた事は、やはり、今まで継続的に仮設の方と、ボランティアでお付き合いされているだけあって、仮設に到着し、住民の方へ会った時に、住民の方が嬉しそうにあいさつして下さいました。とても印象に残りました。今まで1回きりのボランティアしか参加したことがなかったので、このようなアットホームな関係はとても気持ち良く思いました。住民の方とも、ずいとお話ができる様になりました。次は私の名前を覚えてもらって、住民の方の名前も覚えてほしいと思います。今日の活動は住民の方が本当にお花を見て喜んでたので、とても良かったと思います。住民の方がお水を下さったり、苗の植え方のアドバイスを下さったり、本当にその関係がとても良かったと思います。
(筒井)

花をプレゼントし、よろこばれる。2棟と6棟の前に花壇を作り、種をまく。
(マリーゴールド)
みなさん毎日、水をまいてくれるとおっしゃって下さった。
(佐伯)



グループで同じ内容の課題を一斉にすることは場合によって大変効果的なものだということを実感できた。割合少数で個別の取組みを最近続けていたので、発想のゆたかさにふれて、自身得たものも多かった。例えば花を買いにしても、相手に不公平にならないよう、二・三種類にしてしまうこともできたが、おれ程の複数を携えて行ったことで相手のなかに自由に選取の余地があったことは本当に嬉しかった。長時間ゆたり有馬仮設にいたことで落ちついて話すことが出来て、相互の交流がとても和やかだった。役割分担もよい方法又、今日の

ように当初から全員参加は楽しかった。無理のない自然の役割分担ということ。 (工藤)

初めて参加させていただいた。思いのほか参加者が多く、なごやかなふんいきがとていい。有馬仮設住宅で花をお酉りする。とても喜んでいただけました。又、入り口付近の土をおこしてかわいい花壇を作る。お住まいの方もしよに手伝っていただけて良かったと思う。おくれはせながら、



今ごろになってと思いつつ思いきって良かったと思う。まだまだだと思う。少しはお手伝いできないけど、最後までお手伝いさせて下さい。 (伊藤)

必要なプランター、用土を買う段階で気づいた点は前もって使用していない物を持ちよったりすればよかったとまず反省。花植えは上々の出来たうたと思います。新しい芽が育っていくことで、仮設の方にも喜んでいただけたと思います。次回は野菜の苗もぜひ持参して行きたいと思います。 (平瀬)

10時に集まり、花の苗を買いに行く。集まったメンバーは永原さん、平瀬さん、工藤さん、高木さん、伊藤さん、筒井さん、佐伯さん、大野君、私の9人。佐伯さん、大野君、私の3人のほかの方は今回のボランティア募集で集まって来られた方でしたが、三田の園芸センターに着いてきれいな花々を見ているうちにお互いにうちとけてきました。永原さん、工藤さん、伊藤さんなど花のことに詳しい方が多く、トレニア、百日草、バーバナ、サルビア、ペチュニア、ガザニア、アルペンブルー、ハウセカ、メランポジウム、千日紅と、赤、青、黄色と色とりどりの花の苗を買いました。午後から有馬住宅へ。ネットをして、小石を入れ、草花の土と腐葉土を混ぜて鉢の中に入れ、作業は段取りよく行われました。2棟の當谷さん、4棟の松原さん、田村さん、小林さん、6棟の外原さん、洪さん、吉村さんが出て来られて、思い思いの苗を鉢に植えかえておられる。途中、帰って来られた4棟の三谷さんも「あまりないから育てられるかな」と言われながら、鉢をひとつもっていかれる。皆さん、こちらの予想以上に喜んでおられる。花がひと鉢あるだけでもずいぶん気分がなごむようだ。そのあと、残った土を利用して花壇作り。ボランティア数名と4棟の小林さんが雑草を抜いて、マリーゴールドやひまわりなどの

種をまき、水をやリ、ブロックを置いて、見る間に新しい花畑ができる。花壇作りが終わった頃から雨がふりはじめ、テントの中に入ってしばらくはおしゃべり。當谷さんや三谷さんが昔の有馬のようすや風土情のあったことなどを色々と話してくださる。3時頃、皆さんに見送られて、有馬住宅をあとにする。

6月13日、第13回ミーティング。初参加は永原さん、工藤さん、高木さん、伊藤さん、平瀬さん、渡邊さん、宮本さん、松田さんの8名。新メンバー募集後、初めてのミーティングでこれまでのメンバーも含めて出席者は22名。お互いに初対面の方も多く、少し緊張気味のミーティング。はじめに1人ずつ簡単に自己紹介。そのあとメンバーのグループ分けを行いました。新メンバーでは五社のグループが工藤さん、高木さん、渡邊さん、ハネさん、コスモスが永原さん、平瀬さん、松田さん、有馬が伊藤さん、筒井さん、宮本さん、田畑さん、山本君となり、有野台第2住宅も茶話会などで年配の方との交流をするということで、これまでのメンバーの山崎さん、中野さん、中村さんが担当することになりました。そのあと、1995年度の会計報告が船引さんから行われ、決算収支が承認されました。詳しくはP47の会計報告書をご覧ください。各グループの活動状況など一通りの話が終わったあとは、グループごとの打ち合わせ。ワイワイ ガヤガヤとにぎやかなこと。いつものミーティングの風景がもどってきました。

(田 辺)

※ 前号で記入もれがありました。3月13日 市民グループ(長谷川 宏さん)よりカンパの入金がありました。同時に、カンパして下さった方々の励みしのメッセージも送られて来ました。いつも暖かい言葉をかけてくださって、本当にありがとうございます。



会計報告書

平成7年5月10日～8年4月30日

<収入の部>

項 目	金 額	備 考
助成金収入	216,433	社会福祉協議会、朝日民間団体復興助成金
寄付金収入	473,800	農協葬祭センター(埼玉)市民グループ(長谷川宏)
バザー収入	25,635	
受 取 利息	108	
合 計	715,976	

<支出の部>

項 目	金 額	備 考
支援活動費	181,443	茶話会開催の諸費用
物品購入費	12,360	タイヤ修理代
消 耗 品 費	45,405	コピー代、ネームプレートなど
通 信 費	78,914	電話代、切手代
旅費交通費	24,514	ガソリン代、通行料、バス代など
備品購入費	11,464	バーベキューセット、ロープなど
合 計	354,100	

総 収 入 715,976

総 支 出 354,100

次期繰越 361,876

会 計 田 辺 正 則

上記の決算について出金伝票、領収書などを照合した結果公正なものと認めます。

監 査 船 引 典 子

有野台

'96.10.6

ボランティア

No.8

通信

有野台 ボランティア (981) 7511

編集 田辺 正則

ヤマト運輸兵庫ボランティア活動委員会の菅一郎氏より、仮設住宅の方に家具のプレゼントをして頂けるとお聞きし、受け持ち地区の五社・有馬・有野台第1・2・3に田辺さん、波来谷さん、三木の3人で、ホスターをばらせて頂き、希望者順に 6月17日(火) 菅氏、三木、6月21日(金) 菅氏、波来谷御夫婦、三木の4人、6月25日(火) 菅氏、田辺さん、波来谷さん、三木と4人で、3回に分け洋ダンス14本、整理ダンス9本、イス2ヶ、長イス1ヶを搬入させて頂きました。この時期にもらって頂けるからという当所は不安もありましたが、大反響のもと、思いもよらないプレゼントと喜びのお声まで頂き、ほっとした感じでした。いろいろと行き届かずに御迷惑もおかけしましたが、御協力ありがとうございました。(三木)



6月20日、五社グループのミーティングが行われました。参加者は12名、初参加は渡辺さん。1棟の梅田さんの病院送迎の体制の確認。五社住宅を4つのブロックに分けて2〜3人で訪問活動をする事、7月6日にフラワーアレンジメントを行うことなどが話し合われました。(田辺)

7月6日、五社住宅でのフラワーアレンジメントとお茶会。PM 1:30頃から皆さんじょうずに集まれ、永原さんを中心にフラワーアレンジメントがはじまる。出席者は北尾さん、名無さん、野口さん、加藤さん、佐藤さん、高田さん。ボランティアからは伊勢島さん、三浦さん、渡邊(雅)さん、工藤さん、渡邊(健)さん、波来谷。それぞれ自参された容器やカップなどにオアシスを型に切って入れ、花をいけはじめ。皆さんも、ボランティアもワイワイ言いながら、お花を楽しむ。なかなかうまく入らず永原



さんに助け直して頂き、それぞれ素敵なお花と共に写真をとっていただく。皆さん喜ばれ、また是非やって欲しいとのこと。3:30〜4:00頃まで、お花に時間がかかったため、途中から男性たちも入ってこられ、にぎやかにお花をかねてのお茶会となる。前本さんが山からすももをとってきて下さったり、竹を切って作った花器を提供して下さい。そこに永原さんがひまわりを飾られたのをみんなでながめながら談笑。丁度、

たなばただったので、笹の葉を持ち、ていつていたので、たんづくにみんなで「願いごとをかいたり、折り紙で北尾さんがくす玉をつくられたり、みんなでその作り方をおそわったりして、なごやかに楽しめた様だ。お茶会の参加者は大沢さん、前本さん、吉岡さん、米曹谷さん、加藤咲子さん、植田さん、松岡さん、高田さん、田中さん、中村さん、竹田さんなど。 (渡来谷)

7月12日、第14回ミーティング。参加者は16名、初参加は筒井さん。初めに助成金のこと話題



になり、渡邊さんから「ふれあいセンターなどで茶話会をしたり、食事会をしたりして、住民の交流ができるように、どんどん助成金を申し込んでいく方がよい」という提案がありました。そのあと、山崎さんから五社住宅の裏山のがけ崩れの報告と東有野台住宅での羽根アリの問題について話がありました。また、渡邊さんからは第3住宅で小自治会ができ、市からの助成金があり、部屋も1室借りられる見込みになったという話がありました。各グループの活動報告のあと、「最近、ミーティングが単なる活動報告に終わっているので、それだけではなくて、活動していく上で困ったことや疑問に思ったこと、こういう活動をしていきたいということなど個々の思いを出し合う場にしていきたい」という話が出て、新しい

メンバーの方を中心に何人かの方に最近の活動の感想などをたずねました。本宮さんは「食事がきちんととれていない方が多い」ということを指摘され、インスタント食品にたよりがちな食生活をされている方が多いことを心西己されていました。また、工藤さんは「私たちでは力になれないとだけれど、50代前後の方で仕事がなく職につけない方がおられるという状況を歯がゆい思いで見ている」と言われました。 (田 辺)

7月19日、有野台第2住宅で茶話会が行われました。ボランティアは山崎さん、中村さん、中野さん、民生委員の岩下さんも参加されました。午前は50歳以上100歳までの方、午後は0歳から49歳までの時間帯を2つに分けての茶話会です。抹茶をたて、お茶菓子を食べ、ゆったりとくつろいでみようという計画されたものでしたが、予想以上の大盛況でうれしい悲鳴を上げるほどの人。五社や有野台第1・第3

住宅からも来られ、午前中だけで50人ほどの参加者。第2住宅の方で入れなかった方がおしゃべらしく
申し訳ないことをしたようです。午後は子供たちが多く10人ほどの参加者。子供たち
にお手前を教えてあげて、子供たちにもお茶をたててもらうといった様子。午後の茶話



会はずたりのんびりと過ぎていきました。(山崎 談、田辺 記)



7月21日、有馬住宅で、害虫駆除剤散布のお手伝い。ボラ

ンティアの参加者は伊藤さん、宮本さん、筒井さん、田辺の4人。2棟の寛さん

方を訪ね、いっしょに準備にかかる。4棟の松原さん、小林さんも出て来られ、噴

霧器に液体の駆除剤を入れ、50倍にうすめる。日差しはやかん照りとまではいかないが、汗が
流れ落ちてきて、小林さんの顔を見ると、汗のつぶがたまっている。もう一つは害虫駆除用の白い粉。

これは寛さん、松原さん、筒井さん、宮本さん、伊藤さんで手分けをしてまく。1時間余りで散

布は終わり、あとはお茶会。冷たい麦茶がおいしい。外原さん、洪さん、柚木さんも出て来

られ、おしゃべりしたり、お茶を飲んだりする。筒井さんがかき氷器をまわして、かき氷を作ってく

れる。みぞれ、いちご、いちご金時などが 皆さんの口の中にとけていく。最後は

松原さん、小林さんとゆっくりおしゃべりをして、4時前に有馬住宅を出る。(田辺)



8月3日、五社住宅で、牛乳パックを利用したゴミ箱作りと茶話会が行われました。渡
邊(健)さんが牛乳パックでゴミ箱を作る方法を教えて下さる。八角形のゴミ箱なので、側面と
底面をあわせるのが難しいそうだった。上から千代紙をはるときれいなゴミ箱ができてあがり、皆さ
ん、それぞれ好みの紙を貼って、楽しんでおられた。途中の休けいからお茶会が始まり、他
の方々も一組にお茶や、工藤さん、高木さんが買ってきて下さったお茶菓子を楽しんでおられた。

8月25日、五社住宅でふれあいセンター・自治会主催のバーベキューとお茶会。約3週間前に
ふれあいセンター役員の吉田さんより ボランティアの方で手伝いを出して欲しいとの要請あり。バーベ
キューとお茶会の参加者の出欠は吉田さんと大沢さんで確認をとられるということで、それぞれ約

50名と20名位、出席されるらしい。バーベキューの机は中村さんと若い大工さんの方が「廃材」などで早くから作りはじめておられる。カラオケの舞台もテントの前に作っておられた。テントも前日にこちらから持参して行ったのをあわせてぶっつけ合で、中村さん、堀内さん、松本さん、大沢さんたちが中心になってはられる。机のまわりには不用になったカーペットの上にござをひかれる。当日は加藤さんを中心に前日に買っておいだ野菜を皆さんできざんでおられた。ボランティアのほうは向井さんも早めに来られ、看板を書いて下さる。また、本宮さん、望月さんが肉とタレをダイエーに買いに行き下さる。当初、バーベキューはホットプレートですので、電源はコンセントをひっぱりてくるはずだったが、ヒューズがとぶので、急ぎ炭でバーベキューコンロを使っ



るとホットプレートと両方を使用することになった。向井さんと波来谷がバーベキューコンロをとり帰る。皆さん、ぼうぼう集まられるが、本宮さんと望月さんが戻ってこられ

ないのでハラハラする。戻ってこられ、冷奴も買ってきてもらったのを皿に盛り、カツオとしょうがをかけて配る。肉を焼くのを請田さん、堀さんが手伝って下さるが、他はほとんどボランティアでやる。カラオケもはじまってにぎやかになって盛りあがってきた頃、田中さん、堀内さんが女装して登場。楽しいふん囲気になってきたが、突然ケカが始まり、それをとりなすのに何人かの人が行かれる。こゝろあいを見て、ボランティアの方からさし入れに持参していたスイカを切ってお分けする。お茶会の方は有馬へおいしいお茶菓子を高田さんが買いにゆかれ、お昼は中華のオードブルをとっておられた。ボランティアとして中学生の生田さんも手伝いにみえて、なごやかなふん囲気で食事の終わり、子供たちもおり紙や将棋を教えていただいたりして、楽しませてもらった様子。お茶会も本宮さん、高田さんがお茶をたて下さり、子供たちにもたてさせていただいたりして、バーベキューの方にいたボランティアもお茶をいただく。



(波来谷)

コスモスのグループは船台引さん、森田さんが夏休み中の活動が難しいとのことと、7~8月の2か月間は有野台第1住宅を高木さん、宮本さん、坂田さん、有野台第3住宅を永原さん、

平瀬さん、東有野台住宅を道信さん、松田さんが担当することになり、何度かの訪問活動を行いました。有馬のグループでは、夏休みの間に高校生の柳本さんが2度、訪問活動に参加しました。柳本さんの感想です。

(田 辺)

今日 1日を通して、思った事は震災から1年半たつけれど、やはりまだ不便な点、不満な点があるんだなということです。なれない土地にいきなり来て、なれない事もあつたのうと思つたけれど、見た感じ、落ちついてきてるんじゃないかと思いました。

(柳 本)

9月11日、有野台第2住宅ふれあいセンターで、フラワーデザインが行われました。参加予定30名、参加者は20名。後の10名の方は参加者の方が「花」を配布。配布。「花はあまり好きではなかったが、仮設に来たら、こんなに花、て美しいものかと思いました」「この年になる迄、働く事はありて、花を入れるなんてことをする時間もなかったけど、いいものですネ」「子供達が大変喜んで、又絶対来てネ、待っています」と言つて下る。クリスマスの花を約束する。

(永 原)

9月12日、第15回ミーティング。参加者は12名。2カ月ぶりのミーティングだったので、各グループの活動状況の報告が中心になりました。五社グループからは 前述の活動のほか、梅田さんの病院送迎を週2回の体制にすること、コスモスグループでは 第3住宅で1棟の7号室が集会所に決まったことなどの報告がありました。その中で、各グループごとに花の苗のプレゼントの2回目を行うことが確認されました。また助成金では、前回申し込んだふれあいセンター助成金が「選外」になったので、朝日民間団体復興助成金に申し込んだことを田辺から報告しました。

9月19日、コスモスグループのミーティング。7・8月、暫定的に決めていた担当を今後どうするかという話し合いです。参加者は船引さん、森田さん、道信さん、松田さん、高木さん、宮本さん、田辺。話し合いの結果、暫定的に決めた担当をそのまま続けていくこと、茶話会など人々が必要ときには他のメンバーに声をかけて協力し合うこと、担当が決まていないメンバーはフリーで訪問

活動をしもらうことが決まりました。

(田 辺)

9月29日、有馬住宅にて花のプレゼント。田辺、宮本、佐伯、中学生の大野君と山本君、伊藤の6名。前回と同じ三田の園芸店で買っていく。これから冬になるので室内で育てていただけるものという感じで選んだ。リーガスベゴニア、ジャコジャボテンの仲間、シクラメンや観葉植物など。いつも出て来る方以外に新しい人も見え、お好きな花を御自分で選んでいただいたあと、茶話会に。色々と話しに花が咲いて楽しいひとときでした。おいてにならない家には近くの人にあずかっていたたり、入り口の所に置かせていただく。(伊藤)

ぼくはボランティア活動をするのが、はじめてだった。それから、はじめての人と話しかけたのはよかったです。つぎもがんばりたいです。(山 本)

今回、購入した花は アザレア、クシヨウム、デジマクカクタス、ポインセチア、アビス、フミラ、カミラ、フィットニア、シンゴニウム など、観葉植物が半分くらいを占めていた。どれも舌をきかそうなる名前だが、黄色い花が盛り上がるように咲いているクシヨウム、濃い紅色と緑の鮮やかなポインセチアなど 色どりの鮮やかな植物や可憐に咲いている花々など 見ているだけで目をうばわれてしまう。有馬住宅に着いて 声をおかけすると、10人ほどの方がすぐに出て来て、皆さん花をながめながら、どの花にしようかと考えておられる。育てやすい観葉植物をもっていかれる方もあり、色鮮やかな花をみていかれる方もある。さうの茶話会に初めて参加されたのは、4棟の岡部さんと5棟の平山さん。平山さんはこれまで何度かお誘いしていたが、体調周が良くなかったり、出かけておられたりして 出て来れなかったため、参加していただき、特にうれしい。また、箕さん、松原さん、小林さん、當谷さんなどと 集会所が借りられるような組織(連絡会)のようなものを作ってはどうかという話ができ、皆さん 前向きな方向でやていけることになる。

有馬住宅の花壇は今、花ざかりです。ひまわりの季節は終わりに、マリーゴールド



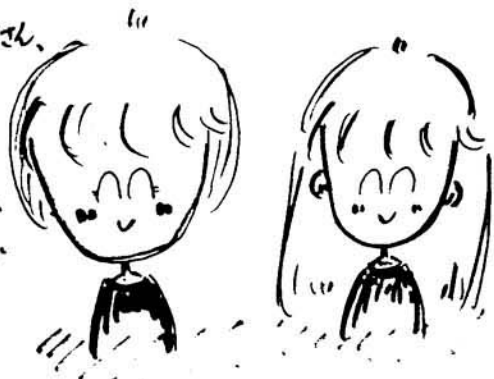
が咲き乱れ、風船かずらは緑も鮮やかで、小さなちゅうさん



が糸従に横にゆらゆらと揺れて、けいとうの赤もきれいです。私たちが訪問したときに花壇を見るのを楽しみにしています。(田辺)

9月30日、北神ビルで、「アルコール依存症とこころのケア」というボランティア研究会が行われました。有野台ボランティアからも数名が参加。講師はお二人で、まず新性会病院ソーシャルワーカーの友木さんがアルコール依存症は慢性疾患で、1度アルコール依存症にかかると飲酒をきっぱりやめなければ回復の道がないことを話され、おあとアルコール依存症に至る過程を初期・中期・末期の症状を具体的に説明されました。次に宋クリニックソーシャルワーカーの上田さんがアルコール依存症者がおよそ250万人(10家族に1家族いる)という日本の現況やご自分がかかわられたアルコール依存症の方の話などをされ、アルコール依存症の回復過程の難しさがいっつかの段階に分けて話されました。特にアルコール依存に対して適確に見ている目をもった人(単に世話をやいてくれるというのではなく、本当の意味で本人の自立を支えている存在)が少ないという指摘とそういう環境が整っていない現況を話されました。多発する^{仮設住宅で}50~60代の男性の死とこのアルコール依存症の問題は切り離して考えることができない問題のように思います。(田辺)

10月5日、第3住宅の集会所(すずらん集会所)のオープンセレモニーが行われました。この集会所のオープンには第2住宅のふれあい推進員で、ボランティアもされている渡邊さんの尽力がありました。当日はその渡邊さんの司会で来しんや出席者の紹介が行われました。来しんは第2住宅から自治会長の西田さん、斉藤さん、西川さん、ふれあい交番の武平さん。ボランティアからは永原さん、平瀬さん、田辺の3名。はじめに1棟の呉さんからお礼のあいさつがあり、そのあと1人ずつかんがえな自己紹介。第3住宅の方は柳原さん、小村さん、川添さん、坂本さん、岡崎さん、大前さん、藤田さん、谷垣さんが参加。実は9月21日に茶話会(仮オープン)が催され、そのときから、和気あふいとした雰囲気、この日も西田さんが



お祝いのあいさつをされたあとは 皆さん、お茶を飲んだり、お茶菓子を食べながらおしゃべり。
第3住宅の参加者のな々が 集会所のオープンを一番喜んでおられ、それがそばにいる私たちに
も伝ってきて、楽しいひとときをすごすことができました。

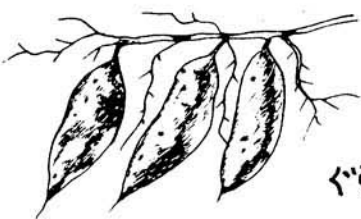
(田 辺)

(追記) 新しく来る人もあれば、去る人もありで、8月に伊勢島さんが丹南町に引っ越
しされました。いつも明るい笑顔ではりきって活動されていたので、少し寂しい気
持ちです。



10月7日、比神ビルで第2回「アルコール依存とこころのケア」の研修会。今回は友杉さんが「アルコール依存症と支え手側の病理」というテーマで、アルコール依存症が周囲の人を巻き込む病気で、巻き込まれながら病気の進行を助ける支え手(イネブラー)が存在すること、イネブラーが支え続けるかぎり、アルコール依存症者は自分の病気を自ら引き受けていくことができないこと、またイネブラーは補助的な存在ではなく、それ自体が深刻な病理(疾患)であることを共依存症(共に依存し合う関係性の問題)という言葉で説明されました。さらに共依存症とはアルコール依存症だけの問題ではなく、現代社会の人間関係の問題でもあるという指摘がありました。上田さんは「アルコール依存症の関係障害」というテーマで、^{しへき}嗜癖(のめり込み)という言葉とキーワードにして、物質へののめり込み、過程へののめり込み、関係性へののめり込みという3つの視点から、アルコール依存と同じ根子にある問題(例えば、薬物依存、摂食障害、タバコ依存、仕事、ギャンブル、買い物、共依存、異性など)を論じ、^す素のままでいる自分に自信がない、その空白を埋める代わりに、これらのことにのめり込んでいくことを話されました。ボランティアの活動についても話が及び1人での活動(他者と張り合う)だけでなく、共生(グループで協調し合う)の活動や、活動の中で生じた問題について話し合う(ダベリング)ことも重要であるという指摘がありました。(田 辺)

10月13日、秋空の下で芋掘りハイキング。参加者は約60名。有野台第2住宅以外にも、第1住宅から玉川さん、福島さん、住田さん、奥谷さん、永井さん、豊富さん、若井さん、第3住宅から藤田さん一家、東有野台から三宅さん一家など参加。ボランティアの参加者は伊藤さん



宮本さん、筒井の3名。前日かなり雨が降っていたので、芋の畑の状態などに心配しましたが、13日当日はとても良い天気です。青空も広がり、暑いくらいでした。はじめにふれあいまじわり協議会の尾本さんと第2住宅ふ

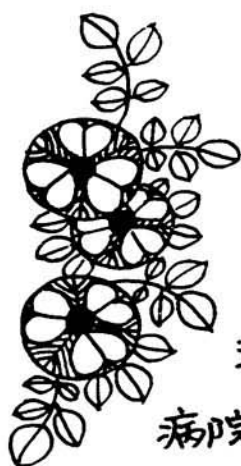
ふれあいセンター会長の西田さんよりあいさつがあり、前日の雨の為、予定していたハイキングコースの太陽と緑の道の足場が悪く、コースが変更になったなどの連絡を受けました。AM10:10に出発。自分のペースで歩いて行き、私達は第1住宅の方と行動を共にしました。参加者の99%は家族づれで、ハイキング中お子さん達がとても元気に走り回っていました。途中福さんと住田さんは少々疲れた様で、自治会の方の車に乗り現地に向かいましたが、他の方とは最後尾を話しながら、道端に咲いているコスモスやムクゲ、ススキを楽しみ、AM11:30頃に農園に着きました。農園に着くと早速、芋掘りを始め、各自自分の与えられた範囲の株(1人2~3株)を掘り、大きなマツマ芋を一生懸命引き抜きました。前日の雨のおかげで地盤が柔らかく、マツマ芋も思ったよりは簡単に抜け、大きな芋では20~30cm程あり、袋一杯になりました。PM12:00過ぎに芋掘りが終わると昼食になり、いなり寿司、太巻き寿司、穴子寿司の入ったお弁当とみかん2ヶ、ウロン茶1缶を頂きました。お弁当を和気あいあいとしながら食べて、PM12:50頃になると、西田さんより折り紙で三角に折ったくひ引きが配られました。くひには1~10の数字が書いてあり、数字の1が1等で1頃に10等まであり、1等はマグカップ、2等は掛時計、3等はバスケットでした。皆さん色々な景品を手にされ、とても喜ばれていました。PM1:10頃、リ帰り支度をして、帰路につきました。第1住宅の方をはじめほとんどの方は車で帰りましたが、第2住宅の平岡さん等4人と私達の3人は歩いてリ帰る事にしました。帰り道は時間も決まっていなかったため、休憩をとりながら戻り、行きしなに通らなかった太陽と緑の道を通りました。この道ではあけびを見付け、伊藤さんが木に登り、実を採って下さったり、栗の木を採ったりして、とても楽しかったです。かなり道草をしたので、第2住宅のふれあいセンターに着いたのはPM3:00過ぎでした。着いてからは少しふれあいセンターでお茶を頂いてからPM4:00頃リ帰りました。余り他の住宅の方とはお話をすべし機会がないので、今回このイベントに参加させて頂き、色々な方とお話が出来た事はとても良い経験になりました。又、このような機会があれば、是非参加したいと思います。



五社住宅で

10月13日、鈴蘭台のボランティア「スクラム」のみなさんと一緒にお茶会。金林直人のお花を各戸にプレゼント。ふれあいセンター前に100鉢。ミニクラメン、セントポーリア、シニビジウム、カンフエ、ポインセチアなどを配達して頂き、なすべる。(10月8日に宝塚園芸まで高木さん、工藤さん、渡邊健さん、本宮さん、渡来谷で下見に行ったもの)マイクで呼びかけ、60戸位のみなさんがとりに来られ、それぞれ好きな花をえらんで持ち帰られる。その後、スクラムのみなさんがコーヒー、紅茶、抹茶、お茶を手づくりのケーキと共にサービスして下さり、三浦さん、本宮さん、望月さんはエプロンをして、スクラムのみなさんと一緒にお手伝いして下さい。お花の方は渡邊健さんがふれあい交番の武平さんと皆さんの健康状態のチェックをかねて、入口でお渡し下さる。皆さんなごやかにお茶とお菓子を楽しまれ、20人位のみなさんが来られていた様だ。帰りにはスクラムのみなさんの手作りのステキな箱に入ったキャンディをプレゼントされていた。最後の方はカラオケの日だったこともあり、カラオケが始まっていた為、必然的に閉会となった。(★P69に続く) (渡来谷)

10月17日、快晴!! 午前11時、宮本さんと待ち合わせし、一途  宝塚園芸へ。あいにく「木曜日、定休日」の看板にがっかりしましたが、この日しかないので、水やりをしていらっしゃる店員さんに頼みこみ、売って頂けることになり胸をなでおろし(少し悪かったのですが...ごめんなさい)ました。美しい花々に魅せられながら、ポインセチア、かにシャボ、アガリア、ベゴニア、ミント、菊(?)、ミニクラメン等々を選び出しました。第1住宅に現在住んでおられる方の人数に合わせて13鉢、サービスにひと鉢つけて下さいました。エコーリウムで和洋のお菓子を買い、レンタル気分です山頂めかけ、車を走らせました。2時開始の予定でしたが、前日宮本さんが田辺さんから借りて来て下さったブルーシートやお茶類、道具一式を出して定刻より早く準備が出来ました。若井さんの玄関前にブルーシートを広げ、その上に若井さんが出して下さった敷物をもう一重敷くと、温かく柔らかくなりました。玉川さん、成川さん、奥谷さん、住田さんと集まって来られ、花がきれいだと好評で、“どれにしようか”とひとしきり盛リエリ、思い思いに選ばれる



ものが、想像とは違い、興味深く感じられました。お天気がよく、日影の席が早くなくなる位でありがたいことでした。若井さんが丁度頂いたので、と出して下さった黒豆の枝豆が甘くおいしく、皆さんの手先が先ずそこに伸び、お皿に皮の小山が出来ていきました。勿論、買って来たお菓子も好評でした。途中、福さん、永井さんも外出から帰られ、貝辰やかになりました。春名さんは病院の日で次の時を楽しみに なりながら出掛けられ、新免さんはお加減が悪く出ていらっやれませんでした。全員ではなかったですが一時間半程、食べたり、飲んだり、しゃべったり、秋の陽差しの中、楽しい交わりのひと時を過ごしました。次のお茶会は寒くなるので、福祉センターか五社の公民館でやりましよう話し合って集まりを締めました。私達にとって初めてのお茶会で、どうなるかと案じられましたが、お天気もよく、楽しく、喜んでいただけたのではないかと感謝しています。花も寒い冬の間、美しく室内を飾ってくれよう。(高木)

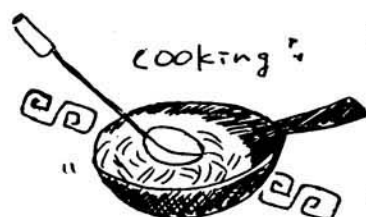
10月18日、第16回ミーティング。参加者は10名。今回はふれあい交番の武平さんも参加して下さい、各仮設住宅の色々な小状況をお話しくたしました。渉外からは依頼すれば公民館や地域福祉センターを利用して保健所が調理実習の講習会をしてくれること、市シルバー人材センターで高齢者の就業紹介をしていて、その登録申請の窓口が11月25日から27日の間、岡場の北神ビル4F第1会議室で設けられること、また11月9日(土)に有野小学校で「元気!いきいき秋まつり」が行われることなどのお知らせがありました。その後の各グループの活動状況の報告の中では、ボランティアがこれから仮設住宅の方々とどうかかあっていくかという議論がありました。この日は欠席さんでしたが、渡邊健さんから「仮設住宅に入居されている方のプライバシーの秘密を守るといふボランティアとしての原則をもう一度確認してほしい」という指摘がありましたし、波来谷さんからは「ボランティアとしてどこまでお伝えしたり、かかあったりするのかが、その方にとって一番良いことなのか」という疑問が提起されました。秘密厳守の確認をするとともに、私たちのボランティアの活動が

仮設住宅に入居されている方の自立を支える ために、個々が常に意識して活動すること、またミーティングなどの機会にお互いの活動の内容を議論し合う中で、自立を支える活動になっているかどうかを確認し合うことなどが話し合われました。また、伊藤さんはポर्टアイランドの仮設での子飼犬死（死後1年近くたて発見）をふまえて、「もう1度安否確認をきちんとやる良い方法はないのか」という意見も出されました。

10月21日、北神ビルで第3回「アルコール依存症と1日のケア」の研修会。今回は自助グループでの回復がテーマ。2人の講師が話されたことはアルコール依存症からの回復には自助グループの存在が必要不可欠であること、自助グループは共通の問題を抱える人どうしが自分の体験を語ることで自分自身の問題に気づいたり、そういう自分を受け入れられるようになり、互いの間に共感が生まれること、また自助グループは評価面やランクづけをするところではないので、進行役の人は一切コメントを入れないこと（上下関係はなく、リーダーシップをとる人もいないこと）などがAAや断酒会の活動の具体例とともに話されました。最後に3回の研修会を通しての意見交換や質疑応答があり、「仮設住宅に入居されている方に酒害を直接伝える講習会のような場をもてないのか」という意見や「ボランティア自身が共依存のような状態に陥りやすいのでは」という発言もありました。それに対してはボランティアの活動の中に具体的な活動について問題を出し合ったり話し合ったりする部門（場）の重要性が指摘されました。

10月27日、有馬住宅にて、やさそばとたこ焼きの昼食会。ボランティアは伊藤さん、宮本さん、筒井さん、佐伯さん、大野君、田辺が参加。前日に食材の見積りと調理道具の確認。筒井さんがこれまでの職場での経験を生かして細やかに必要な物の書き出しをしていて、食材と道具の確認は1時間もかからないうちに終わり、タイマー買い出しに。戻って来たら、いくつかの食材を切って洗い、ビニール袋につめ込み、道具を車に積み込んで前日の準備は完了。前日が初冬

を思わせる寒い日だったので、天気を一歩バ酉己していたが、朝の冷え込みのあとは快晴で、日なたに出る



と暑いぐらいの陽気。私たちが準備していると、1棟の呉さんが早くも顔

を出される。ちょうど焼きかけいたたこ焼きをいっしょに試食して、昼食

のはじまりです。そのあと2棟の當谷さん、榎木さん、4棟の田村さん、三

谷さん、小林さん、岡部さん、6棟の外原さん、岡田さんと次々に出て来られる。當谷さんや

三谷さん、岡部さんはボランティアの宮本さんといっしょにたこ焼きを焼いている。皆さんで少しづつ

液の濃さをうすめて、ほど良い濃度の液を作っていく。だんだんたこ焼きの味がよくなっていく。4

棟の松原さんの奥さんも昔をなつかしむようにたこ焼きを味あわめたとのこと。体調が良くなって

出て来られなかった平山さんにお持ちすると、「とてもおいしかった」という返事がかえってきた。やきそばの

方は筒井さん、佐伯さんと大野君があらかじめ切られている食材をフライパンに入れて、手際よく

火入れ、作っている。こちらの方は次々としてき上がり、テーブルに運ばれていく。テーブルでゆったりと話されている

岡田さんや小林さんのところへお持ちする。味はなかなかのようだ。外原さん、岡部さん、田村さん、

榎木さんもテーブルに着かれて、やきそばやたこ焼きに舌づつみ。出て来られなかった2棟の吉田

さん、4棟の森さん、6棟の小澤さんには出前をする。皆さんお腹がふくれた頃に箕さんが仕

事がり帰って来られる。さそく焼きそばとたこ焼きを食べていただく。そのあとは皆さんお茶を飲んで

おしゃべりしたり、たこ焼きやおかしを食べたりしながら、のんびりとした時間が流れていく。松原さん

が「ほかの人たちといっしょにこうやってのんびりとするのは本当にいい気持ちだ」とおっしゃる。私たちも

好天となごやかな雰囲気、に心が安らぐ気がする。片付けも残っていた方々が何人か手伝ってくださる。

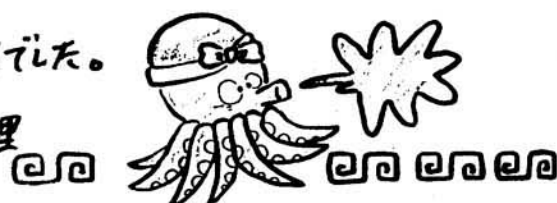
最後まで残っておられた田村さん、岡部さん、小林さん、當谷さん、松原さんとボランティアで最

後は記念撮影して、おわかれする。

(田迎)

前日からバ酉己していた天気も快晴でとても暖かい日でした。

10時30分に集合し、クレーミーティングをしてから最終の下処理



と積み込みを行い、有馬住宅に向かいました。着いてすぐテーブルや機材のセッティングを行い、11時30分頃から住民の方への声かけを行い、たこ焼き、火焼きそばを焼いて行きました。声かけをする前から出て来て下さる方も多く、テントの下はすぐに人で一杯になりました。火焼きそばは主にボランティアで火焼きでしたが、たこ焼きの方は住宅の方と和気あいあいとしながら火焼き事が出来ました。体調が悪くテントの下に出て来られない方には、自宅の方へ持参して行ったりしました。机やイスを多く持参していたので住民の方がゆくり腰をかけられ、話をしながら食べられていました。皆さんとても喜んでおられ、食も進んでいました。中には普段一人で弁当ばかり食べているので、こうして多くの人と食べるととてもおいしいと大変喜んでおられる方もいました。ゆくりと食事やお話をして、15時頃片付けをして、皆さんと記念写真を撮り、無事昼食会を終了する事が出来ました。(筒井)



10月27日、28日、五社住宅で牛乳パックで箱作りとお茶会。参加者は大森さん、野口さん、北尾さん、佐藤さん、高田さん、喜多村さん。ボランティアの参加は渡邊(健)さん、高木さん、工藤さん、波来谷。渡邊さんがきれいな和紙や材料を用意して下さり、図面や作り方を書いた物を用意して下さる。2日間にわたり、なかなか根気のいる作業でしたが、楽しみながら作ることができました。私共の子どもも参加させて頂き、ステキな箱ができて、喜んでおりました。お茶会はお茶菓子を高木さんが色々と工夫して買ってきて下さり、皆さん工作の合間に手を安めて楽しんでおられました。(波来谷)

11月6日、東有野台住宅で花の苗プレゼント。やっと、本当にやっと花の西配布(シクラン)を6軒の方にお配りしました。道信さんが宝塚園芸まで遠征して下さったものの、あいにくお休みだった。その次は適当なのが見当らなかった。有野市場の花屋さんで1鉢680円

で購入。仕入日によっては同じ品物が980円で売られるとのことで、ラッキーでした。ずっと花の配布のことが気になっていたので、肩の荷が降りました。(松田)



11月7日、五社住宅入口、ふれあいセンター周囲のプランターにパンジーを植える。高田さん、佐藤さん、前本さんがお手伝い下さり、高木さん、本宮さん、波来谷と一緒に石をひろってきた上に、落ち葉や土や腐葉土を入れて、植える。丁度、ふれあい交番の武平さんと話しておられた渡邊さんと出会い、一輪車にのせてプランターを運んで下さったりする。寒い冬に耐えたパンジーはしっかりと根をはり、春には強くきれいな花をさかせてくれるらしい。これから寒さも本格的になり、雪も降るだろうが、春になるのが楽しみだ。(波来谷)

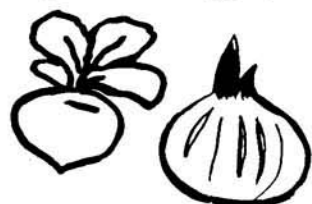


11月12日、有野台第1住宅の昼食会。有野台地域福祉センターのふらっとした十畳敷和室を借りて行う。出席者は福さん、成川さん、若井さん、永井さんの4名。ボランティアは田辺さん、宮本さん、高井さん、高木の4名。田辺さんが山迄送り迎えをして下さる。11時過ぎ、車が着いて、四人の方が満面に笑顔で到着される。しばらくの間、お茶を飲みながら、箱をひっくり返したように大声で話に花が咲く。賑やか、賑やか…。昼食は、魚よしさんのお吸物付きお弁当、そして宮本さんが朝市で買って来て下さった大きなみかん。年をとられた方にメニューはどうか…と心配したが、おいしいと喜んで食べて下さり、ほんと胸をなでおろす。昼食後、みかんを入れていた箱を折り紙で折ってみる。何十年振りかの折り紙だったことだろう。83才(84才?)の福さんは目が見えないとおしゃりながらも、意欲的。時間がゆくりあったので、コープへのお買い物も出来ようと思える。“ああ、今日はよかった”“ゆくり出来た”“旅行に来たみたい”等々、本当に楽しく過ごしていただけた。全員参加でこのように楽しく出来なかったのは少し残念だったが、人教的には丁度いい位だったのか、ことのほかよろこばれ、私達も“よかった”と喜び会った一日だった。(高木)

11月14日、第17回ミーティング。参加者は10名。今回は各グループの活動状況が話題の中心でした。五社住宅では、10月27日・28日の牛乳パックを利用した工芸の報告と11月7日のカラオケ・太鼓・抽選会のお知らせ、増田さんの入院と上田さんの転院、田中さんの引っ越しなどの報告があり、また11月の初めに2度行われた戸別訪問もあと数回やっていくことが確認されました。有野台第1住宅では、11月9日の有野小学校での秋まつりに車で送迎したこと、11月12日の食事会のこと、春名さん、新免さん、成川さんの3軒が近々引っ越しすることなどの報告がありました。有野台第2住宅では、ふれあいセンターが少しでも高齢者の集まる場になるように11月21日に茶話会が行われることになりました。有野台第3住宅では、皆さんが少し気がゆるんでいるので、花の配布を少し待てること、東有野台住宅では花の配布が行われたことが報告されました。有馬住宅では、窪井さんの体調など報告とこれからどのようにフォローしていくかが確認されました。買物バスは、滋野さんから、第1・第3住宅の戸数が少なくなっているため、継続するかどうかという話がありました。か、「皆さん、買物バスはとても助かっている」という意見もあり、そのお継続していくということになりました。

(田辺)

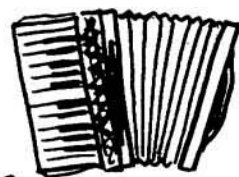
11月16日、朝来郡山東町の被災地支援・生鮮野菜お届け事業のお手伝い。12時30分、鹿の子台第1住宅へ。5班の奥村さん、中島さんと6班の上村さん、岡林さんをご案内する。貝売と言っても、ただみたくに安く感謝するのみ。おまけに安いので皆さんびっくり。大根4本、大きなぶづけ、かぼちゃ1個、白菜1個、じゃがいも10ヶ、玉ねぎ4ヶ、ねぎ等 全部50円。五社住宅では沢山の方が出て来られて、とぶように売っていた。有野台第2は西田さんがマイクを使って、皆さんに口づけて下さった。顔見知りになった平岡さん、辻さんにも会えた。以外に人が少なく、沢山残っていたが、有馬住宅の方々が沢山買ってきた。有馬で出て来られた方々は平山さん、當谷さん、柚木さん、田村さん、松原さん、小林さん、吉村さん、外原さん。外でおそばと待っておられた。3時頃、鹿の子台に帰り、4時頃お別れする。遠いところから有難うございました。帰路につかれる頃はすでに暗く



なっているにちがいない。ご無事でお待ちしております。

(伊藤 藤)

11月17日、五社住宅ふれあいセンター・自治会主催のカラオケ大会。AM11:30に弁当が配られ、12:00 三田のグループの太鼓を聞かせて頂く。公民館2Fのホール一杯にひびきわたる元気の出る子供たちを交えたグループのすばらしい演奏に、皆さん感激しておられました。当日は、仕事をされていてお忙しい向井さんに司会という白羽の矢がたち、本当にご苦労様でした。私と三木さんも子供をつれて参加させていただきましたが、ほとんど手伝うこともなく、カラオケ大会が始まって子供たちが退屈したこともあり、お先に失礼させていただきましたが、北区役所の宮田さん、ふれあい交番の武平さん、有野町自治会長さん、五社にお住まいで、カラオケ教室の先生をされている西岡さんの奥さんたちが、審査員になられ、十数人の方々が次々と舞台の上ですばらしい歌を披露された様でした。それぞれ賞品も用意され、最後には 他の方々も一緒に抽選会もあり、楽しまれた様でした。途中、教職員の方々のコーラスが入ったり、住民の方々が五社音頭を踊られたりと、盛りだくさんの内容で、それらのすべてのとりまとめと下準備を一年にひきうけて手配された吉田さんに感謝いたします。



(波来谷)

11月19日、赤門塾・長谷川宏さんより 14万8000円のカンパの入金がありました。今回でもう4回目になりますが、いつも遠いところから暖かい支援をいただきありがとうございます。

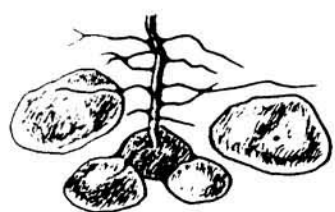
11月21日、私が第2住宅のふれあいセンターに行くと ボランティアの山崎さんと第2住宅のふれあい推進委員の渡邊健さんが来られている。まずは北海道の十勝野菜村から送られてきたじゃがいもの仕分け。今まで見たこともないような大きなおもしろなじゃがいも。ちょうど来たボランティアの中村さん、渡邊雅さん、渡邊さんのお母さん、滋野さんも加わり、みんなで袋に入れていく。1軒21個ずつだが、ふつうのじゃがいもの4個分はありそう。仕分けが終わった頃、宮本さんがお菓子の買い出しから帰て来られる。茶話会の準備もできたようで、中村さんと私で各戸に声をかけて行く。途中で5棟の谷口さんと西川さん、ふれあい交番の武平さんに出会う。野上さんが買い物に出かけ始めるのを

武平さんたちが誘って、ふれあいセンターへ。第2住宅は若い方も多く、昼間はお仕事に出かけられているのか、お留守が多い。声をかけてからうかがみると、谷口さん、西川さん、



渡邊さん、山崎さん。第1住宅の奥谷さんがひとりでたまりになって話されている。その隣では、野上さんと坂井さんが楽しそうに話されている。少人数だが、なごやかな茶話会。30分ほどすると、1棟の谷口さんが小野さんといっしょに来られて、また西田さんも話の輪に入られる。先日、引越された石川さんも用事で来られていて、お茶を飲んでいかれる。昼過ぎまで茶話会は続いている。

11月22日、北海道の十勝野幌村から届いたじゃがいもの仕分けの作業。10時半頃、田辺方に集まされた方は、高木さん、工藤さん、渡来谷さん、本宮さん、宮本さん、田辺。まず有野台第1、第3、東有野台、有馬の各住宅にお西回りするじゃがいもを袋につめていく。大きなじゃがいもを見ていると北海道の大地の香りがしてくるようだ。五社住宅の分は戸数が多いため、五社のふれあいセンターで住民の方に手伝ってもらって仕分け。高田さん夫妻、前本さん、喜多村さん、北尾さん、佐藤さんが



出て来てくださり、いっしょに袋につめる。ついで冬休たら、手押し車にのせ、各戸に西回っていく。前本さんや喜多村さんが手押し車を押してくださり、ボランティアもいっしょにまわって、各戸に入口のところにぶらさげていく。お昼過ぎ

には全戸に西回り終える。

(田辺)

11月30日、有馬住宅で、集会所オープンの飾りつけ。訪問後、今のあいている人に頼んで集会所の飾りつけをしました。集まて頂いた方は柚木さん、松原さん、小林さん、外原さん、田村さんでした。折り紙で車輪にした飾りを作ってもらいました。お刀めて、みなさんとの作業でしたが、とても和気あいあいとして楽しく時間を過ごしました。柚木さんは「一人で家に居ると女兼ね事ばかり考えてしまうので、この様に皆で集まって話をすると気持ちがとてもスツとする」と言われ、本当に楽しそうでした。飾りつけが全て終了した後、少しお茶とお菓子を出して、お話をしました。1人暮らしの方は普段、時間があるので、この様に一緒に何かをするという事はとても楽しく喜んでいただけた事だと思いました。

これをきっかけにこれから色々な事を皆さんと一緒にするという事やイベントを考えてみていいのでは
と思いました。ボランティアは佐伯さん、宮本さん、伊藤さん、筒井さんが参加しました。(筒井)

12月8日、有馬住宅集会所オープンの会が行われました。ボランティアの参加は伊藤さん、宮本
さん、筒井さん、佐伯さん、田辺。買い出しに少し手まどって、有馬住宅に着いたのが2時前。もう當谷
さん、三谷さんが出て来られていて、ふれあい交番の武平さんと立ち話をされている。大急ぎで集会所
のかぎをあけ、準備にかかる。當谷さん、三谷さんも準備を手伝ってくださる。きょうはケーキとコーヒーの茶
話会だ。先週した飾りつけもきれいにできている。最後にかべに集会所オープンと書かれたツリーの絵
がかざられ(筒井さん作)、食器つけは完了。お茶やコーヒーの準備もできて、皆さんに声をかけてみる。
外原さん、柚木さん、小林さん、松原さんと次々に出て来られる。最後に森さんも初参加。初めに
お互いに自己紹介をして、松原さん、小林さん、當谷さん、寛さんが集会所の世話役をこの日とお知
らせする。寛さんはお仕事で不参加、またよく産後を出されていた田村さんも入院で、不参加なのが残念。
自己紹介が終ると、それぞれにおしゃべりが始まる。特に今回は柚木
さんが12月中に引っ越されるため、そのお別れの会ともなる。柚木さん
は以前カラオケを習われていたそうで、歌詞カードをもってきて、たいくさんの演
歌を歌われる。「今日が集まりに参加できるのも最後だから」とバキこめて歌われている。他の皆さん
も手拍子を入れ、にぎやかな雰囲気になる。私の横で三谷さんがカラオケが始まった頃ヒットした星
景子のワルツの話をされたり、ラジオ番組のなつかしいリクエストの話をされたりする。ほかにも三谷さんが被
災前に住んでおられた長田の経緯のことなど色々な話をする。目をテーブルの向こうにあけると、松原さん、
小林さん、武平さんがゆったりとおしゃべりされているし、その隣では少しいい気分になられた森さんと筒井
さん、伊藤さんが話されている。きょうは初めての室内だし、ゆったりとくつろげるような気分である。最後
に柚木さんと三谷さんと私で星景子のワルツを歌い(歌詞はせつない別れの歌ですが、明るく合唱)、全
員で記念撮影をして散会となる。もうあたりはうす暗い。5時が近いようだ。(田辺)



12月11日、第18回ミーティング。参加者は11名。今回は有野台第2住宅で行われる12月22日のもちつきのお知らせと各グループの活動状況の報告で始まりました。本格的な冬となり、今年も凍結防止剤が必要ということで、渡来谷さん、滋野さんが凍結防止剤を北エ木事務所にかいに持って、必要な住宅に置いてくださることになりました。ミーティングの後半はボランティア今後のあり方について、高木さん、本宮さん、渡来谷さんなどから「仮設住宅の状況が変わる中で、ボランティアの活動内容も変わっていくのではないか」という発言があり、特に仮設住宅から転居される方でケアの必要な方について有野台ボランティアから他の地域の(転居先の)ボランティアにつなげていくネットワークを作っていくこと、またその逆に他地域と有野台ボランティアとのネットワークの必要性があげられました。次回からのミーティングでは毎回、「ボランティアの今後のあり方」を議題にあげて、お互いに活動の中で考えることを出し合っていくことが希望されました。最後に滋野さんから「各住宅に年賀状を出せば」という提案があり、滋野さんがパソコンで描かいたきれいな年賀状が新年に各戸に配られることになりました。(田辺)



12月22日、有野台第2住宅主催のもちつき大会。有野台第1住宅からは玉川さん、奥谷さん、住田さん、第3住宅からは谷垣さん、小村さん、岡崎さん、東有野台住宅からは三宅さん、小村さんも参加。ボランティアは山崎さん、渡来谷さん、乾さん、本宮さん夫妻、高木さん、伊藤さんがお手伝いに行かれる。第2住宅は若い方が多く、明るく楽しい雰囲気、活気あるもちつきになったそうです。特に玉川さんの水切りはとてもお上手で、ずっと杵を持っていた本宮さんの主人は「玉川さんだと、とてもつきやすい」と言っていたそうです。お昼には豚汁が出されました。これももち米の段取りも全部、第2住宅の皆さんが準備されたものです。100kgのもち米をつき終わり、片付けがすむのに、4時頃までかかったそうですが、和気あいあいとした楽しい会になったようです。また途中には抽選会が行われたそうで、当たりくじの方には毛布が、はずれの方にはタレラーメンかセリーのお菓子が手渡されました。これは前日、ふれあい



推進委員の渡邊さんが、波来谷さん、高木さんといっしょに神戸元氣村に行かれ、わけていたいたそうで、渡邊さんは各住宅の子供たちのクリスマスプレゼントまで手配されたそうです。さて、つきあがったおもちは有野台第1、第2、第3、東有野台の各戸に配られ、有馬住宅にもお配りすることができました。私が夕方、おもちをお渡しすると、つきたのおもちのやわらかい感触に思わずニッコリとつぶる方もおられました。配り終わってから、第2住宅のふれあいセンターに寄ってみると、老若男女たくさんの方々のクリスマスパーティーのまじ盛り。「少し疲れた」と言われた木東の谷口さんの、赤いほおを見ながら、しばらく谷口さんとおしゃべり。あったかい雰囲気をもって、家路につきました。(田 辺)

★当初、スクラムの方の人数が少ないので、手伝いをということだったが、5人位の方が来られ、手伝うことはほとんどなく、おしゃべりとお茶をいっしょに楽しませて頂きました。お手伝いにはなかななかったかも知れませんが、今後この様な他のボランティアの方々との交流をはかることで、お互いのボランティアのあり方や内容を深めてゆけたら良いなと思いました。

- (追記) 1. 望月さんが転居されました。昨年の5月14日、有野台ボランティアの最初の活動として有野台第2住宅をごいっしょに訪問したことをよく覚えています。そのあと、2人のお子さんも手伝ってくれて、「有野台周辺マップ」の色ぬりをほかの印象に残っています。
2. “有野台ボランティア通信”の郵送のあて名書きは以前有野台ボランティアで活動していた有吉直文君のお母さんがお手伝い下さっています。いつもたくさんのおて名書きをありがとうございます。

／新しい年、1997年が皆さんにとって良い年でありますように！



有野台

'97.5.4

有野台 ボランティア (981) 7511

ボランティア

No.10

通信

編集 田辺 正則

今年の冬も去年ほどではないけれど、5~6度の積雪があり、水道管の凍結や破損もときどき目にしました。有馬の集会所でトイレに氷が張り、手洗いの水道のジャロにつらうができていたのを見て、改めて仮設住宅の冬の厳しい寒さを実感しました。去年よりも暖かい春の訪れが早かったのが、何よりうれしいことでした。

(田 辺)

1月5日、兵庫商業の学生さんたちが獅子舞いで各住宅を訪問。10時、(有馬住宅に)到着したら、兵庫の獅子舞の学生さんたちが沢山来っていて、びっくりする。皆さん、何も聞いていなかったようで、大きな音に同じようにおどろいて出て来られる。出て来られた方は外原さん、小林さん、松原さん、奥谷さん。思いがけない見物を見せていただいて、ボランティアもラッキーだった。記念写真を写して下さいましたが、送って下さるのだろうか。楽しみに待つことにする。



(伊 藤)

そのあと、獅子舞いは有野台の各住宅もまわられたようで、有野台第1住宅の福さんから「中国風の獅子舞いで、すばらしかった。お正月気分を味わうことができた」と後日、伺いました。また、第2住宅でもふれあいセンターに獅子といっしょに写った皆さんの笑顔の写真が張っていました。(田 辺)

1月9日、地域福祉センターで第1住宅の方と毛糸タワシを作る会が行われました。参加者は若井さん、福さん、奥谷さん、宮本さん、道信さんが迎えに行き、お茶をのみながら話が盛り上っていたら、隣りのふすまがあいて、「おけいこ中(お茶?)なので静かにして下さい」と云われる。私達は話お為に来たのにね、午前中ここでカラオケをしていたのに… 案々云いながら切り換えて、今日の主題、たわし作りを始めることにした。プリント(拡大コピーの)を配る。それには4種類出ているが、一番簡単な糸糸編の四角いものを作ることにする。一人三色配したが、一色でする方、配色を考えてする方、それぞれに楽しんで糸編んだ。ほとんどの方が久し振りのかぎ針で、宮本さんは「どうするん?」と糸編み方を聞いておられたが、なんと私など半方位しか糸編んでいない時に「出来上り!」

と第一声を上げられた。長老の福さんは意欲満まん、四角いのが出来たら、円いのに挑戦。もうすでに円いのを作り上げられた片務席の舟引さんにききながら編んでいかれる。全員出来たところでおやつ。ほすむ話の中で若井さんが以前 お料理教室に通われたことが出て、では次回是有野公民館を借りて昼食を作って食べましょうということになる。来月をたのしみにおひらき... 宮本さんが送って下さる。 (高木)

1月15日、五社住宅でもちつき大会。有野台のふれあいまちづくり協議会の協力で五社住宅自治会の方々がもちつきを行われたとのこと。ボランティアの参加は渡来谷さん、本宮さん、伊藤さん。伊藤さんの撮った写真からは皆さんの活気や息づかいが聞こえてくるようだが、詳しい内容がレポートできず、残念。でも、楽しい1日となったことだけはまちがいないようだ。

~~*****~~

1月17日、第19回ミーティングがありました。参加者は山崎さん、渡来谷さん、乾さん、三浦さん、本宮さん、宮本さん、高木さん、滋野さん、田辺。きょうは震災から2年目にあたる日で、まず全員で黙とう。自然と話題も震災直後のようすや犠牲になられた方のご家族の話などになりました。その中で戸別訪問したときの向き合い方の難しさを指摘お声があり、高木さんは「私は震災を経験していないので、はじめから距離感があるということと意識することから出発した」と言われました。他方からも1人のケアが日常的にもいかに重要であるかということが話されました。そのあと、話は今後の活動のあり方の方に向けられ、滋野さんから「活動当初とはニーズも変わってきているので、それに対応した活動をする」と「グループごとに活動しているが、そのグループとして何をすればいいか」と「グループは必要か」^{ケアを必要としているお宅が多い}「他のボランティアとのネットワークの必要性」の3点の問題提起がありました。ニーズの違いに関しては高木さんがそれに答える形で、「活動当初は物資の配給や炊き出しなどボランティア主導の活動が多かったが、ふれあい喫茶など次第に仮設住宅の住民主導の活動に移ってきている」とまた「戸別訪問するお宅もその必要性を考え控え目なものにしている時期に来ていること」などを話されました。他のボランティアとのネットワークについては十分可能だろう

という意見が出ましたが、他のボランティア団体とお互いの活動力などについて話し合う場がもてたらという意見もありました。次に山崎さんから「ミーティングの日曜日を決めてほしい」「ミーティングの始まる時間を守りたい」「活動報告は事後報告よりも今後の活動のスケジュールや方向性について多くの時間をとりたい」という意見がありました。ミーティングの日時は毎月第2金曜日の10時から(変更のときは連絡網を直すこと)に決まりました。そのあと、各グループの個別の報告がありました。各グループとも、入院中に亡くなった方や衰弱された方、また退院したいけれども色々な問題を抱えている方の話がいくつかあり、自力で立ち上がりず仮設住宅に残されていく方々の困難な点を改めて認識することになりました。

1月29日、午前10時より有馬台第2住宅で茶話会。参加したのは谷口さん、小野さん、西田さん、西川さん、荒川さん。ご高齢の方にはふれあいセンターに出てほしいということでこの時間帯に茶話会を行うことになったが、多岐なことから今回は高齢の方の参加はなし。ボランティアは中野さん、中村さん、山崎さん、本宮さん、渡邊さん、木村谷さん、滋野さんとたくさんの参加があった。私が11時半ごろ顔を出すと、第2住宅の方は2~3名残っておられるだけ。茶話会も終わりに近づいている頃。残っておられた方もしばらくして帰られ、あとはボランティア6~7名で色々な話をし、閉会となりました。



2月2日、有馬住宅で食事会。ボランティアは伊藤さん、宮本さん、田辺さんが参加。豚汁の材料の買い出しをすませて、有馬住宅へ。お弁当は寅さんが注文して下さる。集会所に入ると、冷蔵庫、レンジ、電気ポットが置いてあり、壁には伊藤さんがとられた写真のパネル、カレンダーがかけられ、かなり集会所らしくなってきた。まな板やほう丁、湯のみやコーヒーカップ、コップもそろっている。集会所の経費がおりて、4日前に寅さんと宮本さん、筒井さんの3人で買い出しに行き、1日かかりで買いそろえたものだ。さっそく豚汁を作る準備にとりかかる。宮本さん、伊藤さんが材料を切りはじめ、私は手伝いをしてもらうために何軒か声をかける。寅さんと當谷さんが出て来て下さり、いっしょに料理を作る。お昼前には大なべの中に豚汁の具がぐうぐうと音をたてはじめ、注文し

ていたお寿しも届く。12時半には松原さんもにややかな笑顔で出て来られる。



おられるお宅に声をかけてくれるが、人の集まりがいまひとつ。田村さんは退院されて間もないので、少し無理なよう。外原さんは今朝、体調が悪くて入院されたとのこと。三谷さんは午後からボランティアに出かけられるという。声をかけても出て来られないお宅にはお弁当と豚汁を配達する。4~5軒のお宅にお渡しする。寛さん、當谷さん、松原さん、小林さんにふれあい交番の武平さんという顔ぶれで食事がはじまる。できあがった豚汁はなかなかの味で「おいしい」と松原さんが言われる。寛さんは「豚汁でお腹がふくれて、お寿しか食べられない」と言われている。皆、暖かい部屋の中でお腹がふくれ、ほんわかとした気分になる。途中で有馬警察の仮設担当の田上さんも参加。仮設住宅にかかわる人々の連携の必要を強調されていた。しばらくしてから体調のよくない窪井さん方を田上さん、伊藤さん、田辺の3人で訪問。訪問後、集所にもどるとあと片付けも皆さんでやって下さり、5時前に有馬住宅を出る。(田 辺)

2月5日、有野公民館にて、有野台第1住宅食事会。案じていた暖房の修理が出来て温い部屋を使えるのでよかった!! 早く来て下さった松田さんと机を出して和室を整える。台所にお湯もわかし準備完了。10時半に宮本さん、道信さんがお迎えに行き、下り、福さん、若井さん、永井さん、奥谷さん、住田さんがお元気に到着される。広い厨房の調理台の上に昨日宮本さん、若井さんが買い出しに行き、下さった材料が並ぶ。若井さんが考えて下さった献立は炊き込みご飯、たこにかい入りのきゅうりの酢のもの、豆腐の味噌汁、つけものである。一寸した説明の後、さすがお料理の達人方、さっさとことが運んでいく。途中から森田さんも来て下さり、益々手が豊かでご馳走が出来ていく。口も手も同じ位動いて見張りが楽しい。炊き込みご飯の材料がいっぱい、きれいに切れてお米の超特大のお釜へ…。はてさて水加減は? お釜の目盛りはリットル、お米は2kg、一升五合は分ったけれど、それが何リットルなのか誰も分らない。こうなれば昔覚えた杓づかでも、手ではかる水加減が登場。とってもおいしく飯が炊けました。



きゅうりの西作のもの、お酒入りのまろやかな味、お味噌汁もたっぷり。どれもこれもとても美味しく出来ました。船引さんがビールを持って来て下さり、一寸した素敵なお昼食会になりました。田辺さんも入試でお忙しいなか、カメラと共にかけつけて下さり、パチリ、パチリ。それにしても前回福祉センターで集まった時には隣室より襖が開いて「静かにして下さい」と云われたけれど、今回は誰に遠慮をする必要もなく大声でじゅくじゅくおしゃべり出来、「この方がいいなー、気楽に出来るワ」と皆さん満足しておられました。一緒に作る食事会は一段と楽しく、次はおひなさまにしようなどの声も出ています。リターンは田辺さんに送って頂きおひらきとなりました。台所、部屋の後片付けもかまびりました。(これはボランティア)
(高木)

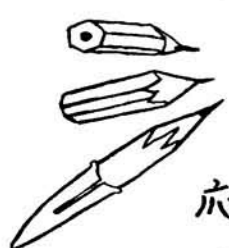
2月14日、第20回ミーティング。参加者は6名。今回は各グループの活動状況にほとんどの時間がさかれ、今後の活動のあり方や活動の中での問題点などの話はほとんどできまわりました。



各グループの活動状況で各住宅で個別にフォローしていく必要がある方がおられ、その方の現状の報告とこれからどうかわかっていくかということに話が集中しました。私自身も活動の中で“巻きこまれ”を経験し、ケアの必要な方とかわかっていくときの難しさを改めて思いました。それから悲しいお知らせなのですが、東有野住宅の R さんが1月31日に永眠されました。去年の夏には公営住宅の募集説明会にお送りしたのを見ていただけに、何ともいえないつらい知らせでした。心からご冥福をお祈りします。ミーティングの方はその後、2月26日の有野台第2住宅の茶話会は宮本さんの提案でゼンぱいを作ること、また会計の方では1月6日に果社会福祉協議会よりボランティア助成金10万円がおりたことなどの報告がありました。

2月21日、北神中央ビルで、公営住宅募集の事前説明会です。昨年の説明会も難しくてわかりにくかったということを知っていましたが、今年も170ページを超える申込案内書を配られたりとこれを全部読んで申し込む人が何人いるのだろうかと思ってしまう。内容の難しさは相変わらず

ですが、今年は コレクティブハウジングやグループ募集、ペットの飼育のできる住宅など新しい試み
がいくつかあるので、それだけでもしっかり聞いておこうと思、て参加しました。自分の力で案内書を全部読
み通して、申込書を書くことがかなり難しいので、各住宅で設けられている相談会に行、て書き方
などぬかりにくい点を聞いていただくように各住宅にお知らせのチラシやポスターをお配りしました。今回
はまた途中で各住宅の募集倍率もでるということで 皆さん その状況を見ながら申し込まれたようです。

 それでも後日の報道によると、^約三万四千戸の仮設住宅入居者の中で、一万世帯以上
の方が申し込みを見送ったということで、 色々な事情で応募を見送ったり、
応募できなかった方がかなりおられるのは 仮設住宅の長い生活を思うとずいぶんつらい
ことのように思います。

2月23日、五社ふれあいセンター1周年記念の会が行われました。午前10時30分、ふれ
あいセンターに集まった五社住宅の皆さんの顔は 実になじやか。1年前の開所式の少しずきず
とした感じを思うと、この1年の間に皆さんの人間関係が (個々には大変な方も多かったらうが) いい
ものになっているということをはたで感じる事ができました。ふれあいセンター副委員長の吉田さんの司会
進行で会は始まり(吉田さんはビデオカメラも写され1人2役でした)、まず自治会副会長の今田さんから来賓
の紹介がありました。来賓として出席されたのは、地域福祉課の宮田さん、有馬消防署の方、有馬警
察、田上さん、ふれあい交番の武平さん、エリア会の木下さん、民生委員の前田さん、有馬台ボランティアの
田辺です。そのほか今日は欠席されましたが、鈴蘭台のボランティアのスクラム、昼食の炊き出しボラン
ティアをされている高槻市の方々、神戸元氣村、アベンタスト教会など五社住宅にゆかりのあるボラン
ティア団体の紹介がされました。次に自治会会長の坂東さんから「役員と住民の協力、ボランティア、行政・
警察・消防の方々の助力でふれあいセンターの1周年を迎えることができた」とよろこびのあいさつがあ
りました。続いて、来賓の方何名かのあいさつがあり、それを受けてふれあいセンター委員長の高田さんか
らあいさつがありました。高田さんは「まだまだセンターの利用が少ないので、ふれあいセンターは自分の

家の外にあるのではなく、自分の家の中にある居間や応接間として使
ってほしい」と住民の方々に呼びかけられました。最後にふれあいセンター
副委員長の関戸さんから来びんに感謝状とテレフォンカードを手渡されました。



テレフォンカードには白地に赤いバラが一輪、きれいに写っていて、下に「ありがとう」という文字が
入っていました。堅い会は1時間弱で終わり、そのあとは皆さんで食事会です。私は先に
失礼しましたが、きっとこのあとも住民の方々の楽しい声がふれあいセンターに響いていたことだ
と思います。(田 辺)

2月24日、第3住宅で春の花プレゼントを行いました。パンジーを中心に木苺草、なでし、
チューリップ、都ねずみ etc 可愛い花々について選ぶ時間も、予算もオーバーしてしまう。予算オーバ
分は園芸店の方のご厚意もあって、サービスしていただけたので、その分はお茶会用の甘酒代に
まわすことが出来ました。PM 1:00 過ぎ、花木直え開始。当日は3月中旬の陽気となったことも
あってか、在室の方全員参加されました。前回西己布時のプランターを各自持ち寄り、久し振りの土
いじりに皆さんの表情がのびのび!! 和気あいまいの集いとなる。明るく、賑やかに花も負け



そうなお喋りの花を咲かせていました。3月2日金鈴蘭台の公
団に引っ越しが決った岡山奇さん、4月1日に漢雄の市住に帰ら

れる予定の小村さんも「有野台の思い出に持って行きます!」と喜んで下
った。いい汗をかいた後は集会所でひと休みし、ボランティアさし入れの甘酒で

お喋りの二次会となる。中止したとお話であった有馬の温泉行きも1月末に皆さんで
行かれたとのこと! その話で盛りあがったこともあり、以前より打ち解けた雰囲気でも和やかな、気
さくな話が聞け、女喜しく思いました。アドベンチストHPに入院中の柳原さんの奥さんもうリハビリをかね、
歩いて帰られたと、途中お喋りに加わる。元気な様子で皆さんを笑わす。退院も検討されている
とのことでした。PM 3:00 ボランティアのみ解散。皆さんはしばらく話を続けられた様です。参加者は
小村さん、谷垣さん、呉さん、大前さん、岡山奇さん、藤田さん、川添さん、柳原さん。不在の西さん。
浜田さん宅にもプランターに木植え、置いています。(平 津 夏)

2月26日、有野台第2住宅で茶話会。2月19日に宮本さん、筒井さん、田辺の3人でお知らせのビラを各戸にお渡しして、そのあとおもちとせんざいのあんの買い出し。当日は山崎さん、中野さん、筒井さん、渡邊雅さん、田辺がボランティアの参加者。せんざいの汁はかんたんにでき、おもちが私が持ってきたオーブントースターの火力が弱く、からりと焼き上がりにせんでしたが、何とか準備ができました。筒井さんと私で各戸に声をかけてまわりました。住民の方で参加されたのは、奥野さん・山田さん・峯吉さん・荒川さん・渡邊健さん、渡邊さんの友人の清水さんの6名です。奥野さんはヘレパーさんが来られていて声をかけて下さり、足がお悪いので、筒井さんと私で両方からかかえるようにしてゆっくりとセンターまで歩いて来ました。峯吉さんはふだんはお酒がお好きなのですが、きょうは甘党に挑戦です。山田さんは今年行われる(2~3回ある)公営住宅の募集の話をさかんにしていました。やはりもと住んでいた場所の近くに住みたいとおっしゃっていました。皆さん温かくて甘いせんざいにほんわかした気分になりながらおしゃべりされています。いつの間にか清水さんと筒井さんの間で話がはずんで、次回は2棟の渡邊さんと6棟の坂井さんには出前をお持ちしました。キョーザ・パーティーをしようということになりました。今度は祭日に行い、もっとたくさんの方々に来てもらうということになりました。お昼頃に散会しました。(田 辺)



3月15日、五社のふれあいセンターで五社住宅と第1住宅の合同お茶会を開きました。ボランティアの参加者は工藤さん、高木さん、渡邊さん、波来谷さん、本宮。五社住宅からは約40名、第1住宅からは5名の参加でした。3月11日に宝塚園芸で金木直の可愛い花を数種類選り、当日配達をお願いし、高田さんに受け取っていただきました。1時よりまずお花を取りに来ていただき、その後、ふれあいセンターでお茶をどうぞという形をとりました。用意したものはコーヒー、紅茶、抹茶、和菓子、梅、お菓子などなど。掲示板にお茶会の案内を見ながらすぐの催しだったので来て下さるかな?と



不安でしたが、次々と来られ、「イ俺、コーヒー」「私、お抹茶」「この人コーヒーまだやで」と声が掛かり、待っていただくという位の盛況ぶりでした。又唯一の果物

毎も皆さん“ビタミンCや”と喜んで下さいました。又、高木さんと波来谷さんが上田さんをお連れして下さり、皆さんと一緒にのひとときを持つ事が出来ました。“上田さん、元気か”“大丈夫か”との声がかかっていました。第1住宅の方も五社の方も楽しく談笑されていた様子で見ていると嬉しく思いました。お茶会が終了後も今後の住宅の相談などされていた様子。暖かいお天気にも恵まれ、楽しい一日でした。

(本宮)

1時半にお迎えに行く。豊富さんの車で若井さん、私の車で福さん、永井さん。奥谷さんは出先から一足先に到着。サイネリア、ラナンキュラス、たいつりそう、ホトス、バラ、梅草、ジェラニウム等々、春の花々が美しく、喜んで下さる。第1の方が到着された時、もうすでにセンターは一杯で、一寸入りづらい感じがないでもない。奥の小さな部屋が丁度あいていたので、交流にはならなかったが、それなりにこじんまりと落ち着けた。お茶や梅、おまんじゅうでしばらく歓談。五社の方もよく受け入れて下さり、ありがたかった。春名さん、伊主田さん、玉川さんに花をお酉りする。(高木)



3月19日、第21回ミーティング。参加者は7名、初参加は坂田さんです。きょうは前回、ほとんども話ができた今後の活動のあり方について話をしました。仮設住宅とかわめる活動が長期化していく中で、以前から高木さんや本宮さんから、活動のあり方をもう一度考えなおしてみることや同じように訪問活動や茶話会などの活動をしている他のボランティアグループの人たちと話し、生の声を聞きたいという発言がありました。それを受けて、鹿の子台ボランティア連絡会の西野さんと藤原台ボランティアの松尾さんに声をかけて、ボランティアの交流会のようなものはできないかという話をしました。その結果、北区のボランティアセンターに北区の各ボランティアグループへの呼びかけをお願いして、北区ボランティア交流会を4月半ばに行うことになりました。次に仮設住宅にかかわる活動^{以外の}をどう考えていくかということが話題になりました。北区のボランティアセンターから1度だけのカーボランティアの要請がありましたが、お断りしました。きょうのミーティングでも仮設住宅以外の活動はメンバーの人数(力量)としても無理だという

意見がタカったのですが、後日 筒井さんより私の話題の切り出し方がはじめから無理というふうな話に思えたという意見があり、この点についてはまたこういう要請があったら考えなおしてみないというと思っています。続いてストレッチ体操を教える講師がおられるということで、有野台の全住宅に呼びかけて、体操教室はできないかという話がありました。こちらは皆さん賛成で、有野公民館で5月から第2・第4火曜日の月2回行うことになりました。講師は寺坂さんです。

(11:00~12:00)

しばらくはボランティアのメンバーが交代で1人ずつ参加することになりました。時間にゆとりのある方はこいっしょに体操で身体をほぐしてみませんか。さらに高木さんの提案で車の保険に加入することになりました。車の利用者と活動者(ボランティア)両方にかかる保険で、病院送迎などでボランティアの車にお乗られる方とボランティアで現在利用しても活動が可能な方は全員加入するように手続きをとりました。その他、各グループの活動状況の報告もありました。五社のグループは波来谷さんが仕事を始められることになり、本宮さんに連絡係をバトンタッチ。まだときどきは参加されると思いますが、波来谷さん長い間本当にご苦勞さまでした。

3月20日、第2住宅 キョーザ・パーティー。9:30、第2住宅のふれあいセンターに到着。私が荷物の積み降ろしをしているところに、佐伯さんと筒井さんがやってくる。すぐに3人で準備にとりかかる。白菜をきざんでいるところに渡邊さんの友人の清水さんが来られる。実は前回の茶話会のときに筒井さんと清水さんの間にキョーザを作ろうという話が出て、今回のキョーザ・パーティーが実現した。キョーザの先生は清水さん。白菜もニラもねぎもニンニクもすべて みじん切りにするようにというアドバイスがあり、ふれあいセンターの中に3本の包丁の音が高くトントンと響く。次に渡邊さんが来られる。渡邊さんはすぐ飲み物を買に行かれて、入れ替わるように伊藤さんの登場。筒井さん、「伊藤さんが神様のように見える」と喜びの声。伊藤さんはみじん切りにした白菜などを手ぬぐい

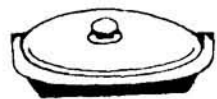
に包み、水を切る仕事。水切りされた材料は清水さんが豚のミンチと混ぜ



合わせて、塩、コショウ、ラー油などで下味をつけている。12時前になり、少しずつ住民の方もふれあいセンターに来られる。まず西田さん、小野さんが来られ、でき上がったギョーザの具を皮の中に包んでいく。見る間に100個ほどのギョーザができてあがる。そのあとは久米さん、井原さん、谷口さんも加わり、きれいにでき上がったギョーザが並んでいく。

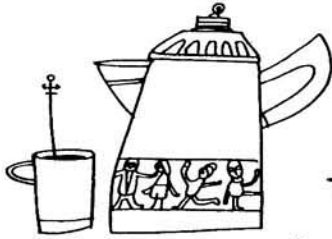


子供たちも集まってきて、まなみちゃん、みづほちゃん、まーくん、もも子ちゃん、ゆうたくんなどが大人にまじって楽しそうに作っている。まなみちゃんは小さい花のようにギョーザを包んでいる。本当に楽しげに作っているのが印象的。子供たちの相手は筒井さん、佐伯さん。2人も子供たちといっしょにワイワイ言いながら、作業もすすむ。ギョーザを焼くのは清水さんと渡邊さんのイタリ。でき上がったギョーザを皆食べていく。私もひと口味見をしてみるが、ニンニクがよく効いていて、おいしいギョーザ。これも清水さん特製のものでなかなかいける。荒川さんご夫妻や西田さんのご主人、小田さん、奥野さん、新屋敷さん、小畑さんも出て来られて、皆でギョーザをほおぼる。部屋じゅうにニンニクのにおいが立ちこめているが、いっしょに食べているものどうしたから、においなど全く気にならない。いくつかのグループに分かれてテーブルを囲んでおしゃべりしながらギョーザを食べ、楽しいひととき。坂井さんや奥野さんのお父さんなど何軒かには出前も持っていく。最終的に作ったギョーザの数は660個。下準備は少し大変でしたが、本当になごやかな会がもてました。渡邊さんも「こんなにたくさん集まるとは思わなかった。俺はこういう(ほんめかした)集まりが大好きなんや」と言われていましたが、なかなか盛況な会でした。(田 辺)



3月23日、有馬住宅にてお好み焼きの昼食会。ボランティアは伊藤、宮本、佐伯、大野、本宮、田辺、筒井が参加しました。朝9時30分に集合し、ミーティングが終了後、食材の買い出しと、昼食会を欠席された方の為の粗品(フェイスタオル)を購入し、有馬住宅へ向かいました。集会所に着くと早速キャベツなどの下処理を行い種を作り、大きな円形鍋で全てを混ぜ合わせて準備完了。12時頃よりホットプレートなどでお好み焼きを焼き

始めました。住民の方に声がけをしましたが、留守の方が多く、集会所に来られた方は 松原さん、外原さん、岡部さん、寛さんのみでした。少し寂しい昼食会になりましたが、とても良い天気の中、和やかな雰囲気です。特に宮本さんの焼いたお好み焼きが、とても上手だったので、皆焼き上がるのを待つ程の人気でした。松原さんは「やはり人に焼いてもらったお好み焼きはおいしい」ととても喜んでおられました。だいたいの方は2〜3枚程のお好み焼きを食べ



とてもおなかが一杯になりました。ある程度 お好み焼きを焼き上げた後、お部屋から出て来られない方、何軒かにお配りし、食後のコーヒーも飲んで(寛さんからの差し入れ)片付けをして、16時に有馬住宅を出ました。留守の方が多くて残念でしたがとても楽しい昼食会を実施する事が出来ました。(筒井)

3月26日、11時に宝塚園芸で道信さんと合流。きょうは五社、有野台第2住宅のふれあいセンターと有馬、有野台第3住宅の集会所用の観葉植物と東有野台住宅の花の苗を買う予定。先に観葉植物の方を見て、比較的強くて育てやすいカボックがいいのではという道信さんの意見で4鉢を買う。東有野台の花の苗はパンジー、テルスター、ホリアンサなど数種類とプランターと土を買う。ここで道信さんとわかれて、有馬住宅から11頁にカボックをお配りする。有馬では松原さん、寛さん、第3住宅は犬前さんと川添さん、五社住宅は高田さん、第2住宅は西田さんが出て来てくださり、ふれあいセンターと集会所に置く。五社と第2住宅では冬の間に冬の寒さでふれあいセンターのいくつかの室内植物が枯れていたもので、新しい緑が部屋に入り、春らしくなった。(田辺)

道信さんが田辺さんと宝塚園芸にプランターに植える花を具購入に行き下さる。午後東有野台住宅に配布。プランターに植え付けて下さいました。森田さんにお手伝い願いました。福寿草やパンジー他、春の喜びが満ちあふれた花々が仮設の通路を楽しくしてくれて、小さい花ではあるけれど、その力の大きさに感激させられました。(松田)



3月26日、赤門塾・長谷川宏さんより 7万3000円のカンパの入金がありました。4月になってから長谷川さんと会う機会があり、ボランティア活動のこととお話しました。その中で定期的な支援のおかげで資金面での活動の悩みがないということ(それだけでもかなりの支えになっているということ)、また毎回送られてくるカンパの金額が「タからず」「少なからず」で私たちの活動の身の丈に合った支援であることなどいくつかのことを話しました。

4月9日、切畑公園で 第1.第2.第3.東有野台.五社.有馬の6住宅合同のお花見です。ところが前日から天気予報は 昼前後に雨。当日も4時頃に雨がぱらつき、室内(有野公民館)に変更することも考えましたが、皆さんお花見を楽しみにしておられたので

雨を覚悟で切畑公園で行うことにしました。参加された皆さんの日頃の行いが良いのか 昼前から 薄陽がさしはじめ、お昼過ぎには晴天となり、暑いくらいの陽気になりました。参加者は6つの住宅の方々とボランティアを合わせて約60名。参加者が予想以上に多く、弁当の注文から



(徒歩で来ていただくことにし、徒歩が無理な方は送迎の体制をとりました。)ビールや景品の見舞入までほとんど担当してくれた道信さんと船引さん、本当にご苦労さまでした。(おつまみは高木さんが買ってきてくださいました)

さて、私と道信さんが弁当を買いに行ってもどってくる、特製の青いビニールシートの上に皆さん腰をおろされ、始まりを待っておられました。つまみや おやつなども1人1人に分けたされ、あとはお弁当を待っただけ。さっそくお弁当を配り、全員で乾杯をして お花見の始まりです。皆さん、お互いに一堂に会するのは初めてに近いため、少し緊張気味。それぞれの住宅でいっしょに食事をとっていました。第2住宅の子供たちが「ゲーム!まだ?」と私のところにやって来たのをきっかけに、ビンゴゲームを始めることにしました。1人に1枚ずつカードが渡されます。たて、横、斜めのいずれかに



並べば、上がりとなり、景品がもらえることになっています。ビンゴゲームの機械から玉が取り出されます。私が番号を言うと、第2住宅の渡邊さんが大きな声で皆さん

に呼びかけてくれます。その数字が出るごとに、あちこちから歓声が上がってきました。出た数字を書きとるのは、筒井さんの役目。4~5回玉球をとり出すと もう「リーチ」の聲がわかります。リーチになった人は立ち上がり、次の数字を待ちます。単純なゲームなのですが、次第に熱気を帯びてきました。次々に立ち上がる人が出てきて、子供たちは私の目の前に来て、自分のカードに書かれた数字が出ないかと待たかまっています。上がった人は笑顔で景品のとこへ。袋をながめながらどの景品にしようかと思案度。リーチがかかった人でなかなか出ない番号にくやしがりたりする姿も見られました。30分ほどのゲームの間に 場は一度に打ち解けて、皆さん思い思いの景品を手にされたようです。そのあとは 皆さん ビールを飲んだり、コーヒーやお茶を飲んだり、お菓子をつまんだりしながらにぎやかなこと。有馬の森さんと第1の永井さんが話されている本横では、第1の若井さんと東有野台の三宅さんが談笑されている。第1の福さんと住田さんの話されている隣りに第3住宅の大前さん、川添さん、谷垣さんが。目をシートの中央に移ると 第2住宅の西田さん、荒川さん、小田さん、谷口さん、小野さん、新屋敷さんが車輪になっておしゃべり。さらに五社の高田さん、堀内さん、中村さん、前本さんが赤い房裏でいい雰囲気になっている本横には 同じく五社の加藤さん、木曾谷さん、ケ田さん、木通田さんの女生の集まりが。五社の上田さんには 本宮さんと草さんが交代でお世話をされている。その横では第2住宅の渡邊さん、東有野台の舩倉さん、ふくあい交番の武平さんが話しまわっている。隣りにいる五社の喜多村さんは得意の演歌を歌われて、いい気分。そんな中を第2住宅のまーくん、みづほちゃん、もも子ちゃん、ゆうたくん、新屋敷さんのお子さん、東有野台のなつみちゃん、小林さんの娘さんがビニールシートの上を駆けまわったり、とびまわったりしている。少し離れたグラウンドを見ると 五社の岩瀬さんが熱心に少年に野球を教えている。満開の桜のもとで本当に楽しい1日を過ごすことができてきました。ボランティアでは 前述のメンバー以外に 工藤さん、渡邊雅さん、松田さん、平瀬



さん、宮本さんが参加。散会したあとは、ボランティア全員で後片づけ。最後まで片付けにつきあってくださった五社の堀内さんと前本さん、ありがとうございました。

4月11日、第22回ミーティング。参加者は7名。^{内容は}1年間の活動費用の請求、4月17日に決めたボランティア交流会のこと、ストレッチ体操が5月13日から始まること、心のケアの研修会のお知らせなど盛りだくさん。新しい取り組みとしては乾さんが担当して第2住宅で月2回の小中学生の学習会を行うことが報告されました。また、「市民版ひっこしプロジェクトネットワーク」の参加要請が「かんばらう神戸」からありましたが、引っ越しのお手伝いはメンバーの人数や力量からできないと、ただ和歌山先のケアについてはできる限り協力したいという形で意見がまとまりました。さらにボランティアの募集については訪問活動や茶話会に参加してくださる方以外にカーボランティア（病院送迎など）や特技・趣味のある方を登録してもらって趣味や特技を通してボランティアに参加してもらうことなどを内容に盛り込むことになりました。最後に滋野さんが第1・第3住宅でやってこられた買物バスは利用者の減少もあり、4月5日をもって終了することになりました。滋野さん、長期間本当にご苦労までした。

4月17日、北神中央ビルで北区のボランティア交流会が開かれました。参加者は鹿の子台ボランティア連絡会、藤原台ボランティア、有野台ボランティア、コーポうべ、一五の会、ひよどり台ボランティア、元気アップ神戸、県震災復興総合相談センターの橋元さん、ボランティアセンターの浜野さん、北こころのケアセンターの都成さんなど30名ほど。鹿の子台の西野さんが進行役をとめてくださり、さくばらんに日頃の活動について話し合いました。まず現在の活動の状況について、鹿の子台の浜中さんが入居者が少なくなって、ふれあいセンターを継続して開けることができないと、ふれあい推進員が訪ねても出て来られない方がおられることなどいくつかの問題点をあげられました。一五の会の畠田さんは活動が全戸訪問から高齢者や1人住まいの方の訪問に変化していることを話されましたし、藤原台の松尾さんは各仮設住宅でコミュニティーができていの中で、戸別訪問をするのに違和感があり、定期的に行われている茶話会で声援な



ぎをしていくという活動をしているという発言がありました。また、コレクティブハウスやグループ募集の応募者の少なさについても言及があり、この2年間の間に人間関係の築きしさを体感したということが応募者の少なさにつながっているようだと言われました。この点については木高元さんも同様の発言をされました。続いて高木さんや浜中さんからボランティアとしてどこまでかかわったらよいか、家族がやるべきこととボランティアがやるべきこととはどこで糸鼻を引いたらよいかという問題点が出されました。それに対してひよどり台の花房さんは個々によってケースがまちがうので、その状況によってかわり方が変わってくると発言され、また元気アップネ申戸の山本さんはご本人がどうしたいのかというのが活動の目安になるという話をされました。ボランティアがどこまでかわるかという問題はボランティアにとって重要な問題であることを再確認しました。さらに富田さんからはボランティアのメンバーの減少について、田辺からはボランティアどうしの親睦性について発言があり、それに対してコープこうべの方はお祭りやボランティア交流会を行うことで親睦性をはかっていること、西野さんからはボランティアの忘年会を企画されたという話がありました。次に木高さんが藤原台で行われた仮設住宅連合自治会主催の2周年行事を例にあげながら、仮設住宅以外の人にも声をかけたけれど、その参加者が少なかったこと、同様に西野さんも仮設住宅と一般住宅の温度差についての指摘がありました。私たちの住んでいる地域に仮設住宅があるということが忘れられつつある状況は近頃感じることです。続いて本宮さんからは中高年の特に男性の栄養面についての不安が指摘され、給食サービスができないのかという意見がありました。都成さんから給食サービスをしている施設の資料が提供されましたが、現状では北神地区での実現はかなり難しいようだということがわかりました。このあと昼食をとりながら、1人1人の自己紹介が行われました。その中では鹿の子台の迫田さんが閉じこもりの問題を指摘されました。また仮設住宅から恒久住宅へ移っていくときのケアをどうしていくかということも問題点として指摘がありました。まだ話し足りない方もおられたかもしれませんが、またこういう交流会を開き、より深く語り合うという場が持てたらと思います。

(田 辺)

有野台ボランティア通信 No.11

'97.7.14

有野台ボランティア (981) 7511

編集 田辺 正則

5月9日、第23回ミーティング。参加者は5名。はじめに、ミーティングが自由に発言できる場になっていないのではないかという話があり(私自身の反省をふくめて)、ミーティングに参加された人皆さんに少しでも発言してもらうこと、また活動力のタリ少ないにとらわれず、自由に発言できるように、発言した人は自らの意見に責任をもたないで、ひとつの意見として全員で考えて、やれることは実現していくということを確認しました。ミーティングの曜日も固定すること、出席できない方もおられるので、しばらくは固定せずにその都度ミーティングで決め、今後の活動予定の中で早めにお知らせすることになりました。また、第2住宅で5月11日に行われる子供の日のプレゼントの費用(第2・第3・東有野台のお子さん19名に)をボランティアから出すことが決まりました。各グループの活動状況は五社では高木さんから2人ずつの組になってローテーションを作って週1回まわるようになったということ、平頼さんから第3住宅では、毎日のように集会所を利用され、住居どうしの交流がよくできていることなどの話がありました。東有野台では、5月11日に三宅さんが引っ越されておくる車干になりますが、その一方で高齢者の多い第1住宅では今回の住宅当選者がいないという住宅もあります。有野台第2住宅では転居される方が多く、また今回当選された方もおられるので、6月1日にお別れ旅行を兼ねて、姫路城・塩田温泉へ日帰り旅行をすることになりました。この旅行には第1住宅の奥谷さん、第3住宅の谷本さん、藤田さん、東有野台住宅の船倉さんも参加されて、楽しい1日になりました。さて、ミーティングの方はその他、監査を宮本さんにしていただくことが決まりました。また、仮設住宅から小豆久住宅へ移られた方のケアのことが話題となり、有野台の公団などに引っ越しされた方のその後のケアを考えていくということも話されました。(田辺)

5月13日、午前11時より有野公民館で第1回のストレッチ体操。講師の寺坂さん、ボランティアの渡邊さん、松田さん、高木さん、田辺は集まった方が、仮設住宅の方が来られていない。高木さんが第1住宅に、田辺が五社住宅に声をかけに行く。

きょうは五社では高木規のボランティアの方が欠き出しをされていて、五社の方々もそのお手伝いをされているので、ストレッチには行けないうのここのスケジュールの調整ミだ。

高木さんが第1住宅の福さんといっしょに もどって来られ、7名ではじめることとなる。あらかじめ 寺坂さんが用意された音楽に合わせ、ストレッチ体操を行う。



日頃、身体を動かすことが少ない人が多いのか、なかなかよい運動になる。その中では福さんの身体の柔らかさに感心する。83歳とは思えない身体の動きだ。皆、30分ほど身体全身を使ったストレッチを行い、良い汗をかいた。次回はもう少し参加していただけるように声をかけるようにしよう。ストレッチのメニューも高齢の方にはもう少し軽めの方が良さそうなので、寺坂さんにご相談してみたい。

今年も新メンバーの募集を行うことになり、ボランティア募集のどうを配りました。5月20日から2週間かけて 有吉さんが有野台・東有野台の約4500戸全戸にどうを配ってくださりました。本当にご苦労さまでした。おかげで新しいメンバーが8名(清水豊香さん、清水基子さん、上本さん、板倉さん、平田さん、上田さん、小学生の甲斐田さん、木下さん)加わり、山下さんが趣味を生かしてボランティア登録してくださいました。新しいメンバーの参加は 私たちにとって何よりうれしいこととて、また新魚羊でもあります。皆さんが有野台ボランティアに新しい風を吹き込んでくださることを期待しています。新しい参加者という貴重な存在の一方で、今回のボランティア募集で感じたことはその反応の少なさでした。仮設住宅ができて、2年以上たち、その存在が地域の人々にさえ忘れられつつある状況というものを肌で感じたように思いました。そうした状況の中で、私たちが仮設住宅の方々と係わり続けることの大切さを改めて思いました。(田 辺)

ボランティア募集

仮設住宅に関わるボランティアはまだ必要です。有野台・有馬の仮設住宅で高齢の方などの話し相手になってくださる方、茶話会などのお手伝いをしてくださる方を募集しています。また、病院への送迎などのカーボランティアも募集しています。

手芸・料理・その他趣味や学生校のめる方はボランティアとして登録してみませんか。

初めてボランティア活動をする方も参加を歓迎します。また年齢を問いません。

〈問い合わせ先〉

有野台ボランティア 田辺 まり
(TEL) 981-7511

5月25日、有馬住宅 きょうごパーティー。参加者は松原さん、4棟の森さん、外原さん、當

谷さん、小林さん、5棟の森さん、箕さん、岡部さん、平山さん、生活支援アドバイザーの方2名。ボランティアは田辺、佐伯、伊藤、宮本、筒井。心配していた天気も風がよく通る良い天気、10時半から買い出しに出て、11時半頃からぎょうざの下処理を始めました。材料を刻み終り、肉を合わせて皮に包む段階になって住民の方に声掛けし、皆さんと一緒に包む事にしました。皆さん、楽しみにされていたのか、早くから集まって下さり、「こんな事をする初めてや」と言われながらも、一生懸命包んで下さいました。そのうち、御飯が炊けて、おにぎりも一緒に作りました。ある程度ぎょうざが包めた所で岡部さんと宮本さんがぎょうざを煮て下さり、ぎょうざのいい臭いが住宅中に広がりました。吉村さんに頂いた卵をゆで卵にしたり、4棟の森さんがゆがいて下さったうずら豆を食べながら、和気あいあいと昼食会が進みました。集会所をオープンしてからこんなに多くの方が集まって下さったのは初めてで、平山さん、5-4の森さんは初めての参加でした。平山さんは「今まで体の具合が悪く、皆に会う気分ではなかったが、今は元気になったので、皆と会う気になって良かった、又、来たいと思える様になりました」と喜ばれていました。4-10の森さんも「初めは皆と会う気分にはなれなかったが、ボランティアの声掛けによって来る気分になり、今は本当に楽しいと思う」とおっしゃっていました。外原さんもお孫さんの話をされたり、5-4の森さんは以前住んでいた所に帰る事が出来る様になったという話をされました。前回、集まった方がとても少なかったので淋しい昼食会だったのですが、今回は人が座れない程集まって下さり、声掛けをしても良かった松原さんも大変喜ばれ、本当ににぎやかな昼食会になりました。住民の方がこの様に集まれる気分になって下さったのが、とても良かったと思います。これからも楽しみに待って頂ける様な昼食会を住民の方々と企画していきたいです。本当に楽しい昼食会が実施できました。



(筒井)

5月27日、有野公民館で第2回目のストレッチ体操。今回は本宮さんが五社住宅の方に声をかけて下さって、久保さん、佐藤さん、森田さん、木直田さん、河上さん、高田さんが出て来る

れる。高田さんは皆の体操のおすをカメラでパチリ。久保さんが恥かいて、タオルを豆乳のせ



られ、皆で爆笑。体操の方は身体がかたいのか、「関節がポキンポキンと

音をする」とか、「身体が曲がらへん」とか色々な声が上がりながら進

んで行く。ときおり上がる声に、皆つい吹き出してしまふ。普段使っていない

筋肉は特にかたいようで身体を曲げたりするのに苦勞する姿勢もある。講

師の寺坂さんも体勢がうまくとれないときには、その方のところに行かれて、アドバイス。

音楽を聞きながら、身体を伸ばしたり、曲げたりする運動はなかなか小気遣い。40～50分のバリエーション
時間が終わる。ボランティアは高木さん、本宮さん、田辺が参加。

6月17日、有野公民館でストレッチ体操、第3回。きょうは特にお誘いもしなかったのに、五
社住宅の方が7名集まらる。参加者は大森さん、北尾さん、岡井さん、佐藤さん、矢田さん、久保
さん、前本さん。きょうは3名の男性が参加。ボランティアも 渡邊さん、高木さん、松田さん、本宮さん
田辺が参加し、にぎやかな集まりとなりました。講師の寺坂さんのテンポの良い声に合わせて、思い思いに身体を動かしていく。3回続けて来られている佐藤さん、久保さんはずいぶん
小慣れたようで余裕もみられる。いつものことながら きれやかな音楽を聞きながら、ゆったりと身体
をのびしていくのは気持ちの良いもので、あ、という間にきょうのメニューを終えてしまう。(田辺)

6月18日、第24回ミーティング。参加者は10名、初参加は清水さん、板倉さん、上本さん。
初めに自己紹介をし、また有馬のグループが有野台第2住宅も担当することが決まりました。新メンバーは
五社に 平田さん、上本さん、清水豊香さん、第1住宅に 上本さん、上田さん、第2有馬
住宅に 板倉さん、甲斐田さん、木下さんが加わり、清水素子さんは8月までの活動な
のでフリーで活動してもらうことになりました。第3住宅は平瀬頼さん1人なので、コスエス
のメンバーにフォローしてもらう体制がとれぬかと思っています。また、お仕事のお忙しい方など
活動のスケジュール調整の難しい方はフリーになっていただき、〈今後の活動予定〉に合



えば、参加していただくという形をとることになりました。そのあと 昨年度('96年5月から'97年4月まで)の会計報告が行われ、承認されました。(詳しくはP92の会計報告書をご覧ください) 今後の活動の予定では、大池の石幾田さんが大正琴の演奏をしてくださるという話があり、本宮さんや高木さんの提案で6つの住宅に呼びかけて、合同で行うことになりました。日程は9月24(水)午後1時からということになりました。お花見のときは道信さんと船引さんに大きな負担をかけてしまったので、今回はそれぞれ役割分担してやりたいと思います。また、3月のミーティングで比叡神子町の憩いの場「野いちごの会」の賛同団体になるかという問題が持ち越されていた。1度 私がこの共同作業所(現在は五社にありす)をお訪ねしたとき、お2人の方が来られていて、仮設住宅に入居されてこれから転居するときの不安を話されていました。私たちが住める仮設住宅の中にも こころの健康を崩れて、不安な日々を送っている方がおられます。私たちの活動力とも切り離して考えることのできない内容であるということ、再提案し、出席者全員の一致で賛同団体となり、5口(5000円)のカンパを振込みました。最後に、次回ミーティングのあと、久しぶりにボランティア懇親会(昼食会)を行うことになりました。



7月1日、有野公民館で、第4回目のストレッチ体操。五社住宅から 森田さん、久保さん、佐藤さんが参加されました。きょうから朝のラジオ体操も始まったとのことで、そのためか少し参加者は少なかったです。ボランティアは板倉さん、清水さん、本宮さん、田辺が参加。いつものように身体をほぐす運動を1時間ほど行いました。講師の寺坂さんの要領を得たアドバイスで皆さんマイペースで身体を動かされました。久保さんがときどき おもしろいことを言って、皆を笑わせたりされて、楽しいひとときです。さわやかに吹き抜ける風の中で、すっかり身体がほぐれて、いい気分になって、1時間が終わりました。(田辺)

7月13日、朝からの大雨できょうは草刈りができそうにない。お茶会と来週の昼食会のどう配りに予定を変更することに、有馬住宅に到着。さっそくお茶会の準備にとりかかる。きょう、初参加の小学生 木下さんと甲斐田さんに 筒井さんが丁寧に お茶会の段取りを教えている。コーヒーの

ひき方を習って、そのあとはお茶菓子ときれいに並べている。初々しい仲間の加入にこころもついうれしくなる。そのあと、甲斐田さんと伊藤さん、木下さんと私と2組に分かれて各戸に声をかけてくれる。お茶会に顔を出されたのは外原さん、平山さん、松原さん、小林さん。お茶を飲みながら、小1時間ほど皆でおしゃべりしていると、雨が小降りになりやみそうなよう



す。伊藤さんと私が「ちょっと草を刈って来封」と外へ出る。2棟の裏側、特に
 空室になっている所の雑草のしげり方はすごい。私がそのあたりの雑草を抜きはじめると、伊藤さんは膝立を使って、さくを乗り走らせ、川側のうっそうとした繁みと刈り始める。しばらく刈っていると、雨が上がっていることに気づく。2棟の一番奥にはいつの間にか小林さんの姿が見え、草刈りをはじめておられる。どうやら、雨が上がり晴れ間が出て来たので、お茶会は終わりにし、皆草刈りをはじめたようだ。佐伯さんと甲斐田さんは5棟の前を、松原さんと筒井さん木下さんは6棟と花だんの横の雑草を刈りはじめ、森さんは4棟から6・7棟にかけての横のあたりを、田村さんも棟と棟の間の糸田が、雑草を抜かれている。1時間半近くたつと、かなりの雑草が刈り取られたので、佐伯さんと筒井さんはお昼のおにぎりとお茶の買い出しに行く。小林さん、伊藤さん、私の3人で刈っていた2棟の裏はすっかり見通しがよくなり、すっきりとする。そろそろ切り上げようとしていたところに1棟の呉さんがり来て来られ、木下さん、甲斐田さん、伊藤さんもカマキリ1棟と3棟の横も雑草を刈り始める。そこも何とか終わって、集会所にもどって見ると1時30分を回っている。やっと昼ごはんにありつける。冷たい麦茶がおいしい。小林さんや森さんはシャワーをあびて来られ、気持ち良さそうにお茶を飲んでおられる。森さんがシャワーをあびたあとすすめてくださるが、家に帰って汗をながすことにして、気持ちだけ感謝する。小学生の2人は小林さんに貸したトラップをしている。そのそばで松原さんがさかんにカブのやり方を教えているが、2人はのみこめないうす。それを私が横から見ている、ついふき出してしまう。2時半には後片づけも終わり、有馬住宅とあとにする。草刈りに参加された皆さん、本当にご苦労さまでした。

(田 辺)

(追記) 7月10日、長谷川宏さんを窓口とするカンパがあり、6万2000円の振込みがありました。いつもあたたかいご支援をありがとうございます。

会計報告書

平成8年5月1日～9年4月30日

<収入の部>

項 目	金 額	備 考
助成金収入	100,000	兵庫県社会福祉協議会.
寄付金収入	540,400	長谷川宏(475,400)花岡.藤沢.北六甲.第3住宅
受 取 利息	543	
合 計	640,943	

<支出の部>

項 目	金 額	備 考
支援活動費	364,652	茶話会開催の諸費用 花見他
消 耗 品費	59,605	コピー代(55,265) 文房具他
通 信 費	60,707	電話代, 切手代
旅費交通費	64,574	米運搬費, ガソリン代, 通行料他,
備品購入費	16,000	タープ.コーヒーマーカー.額縁.鉄板
保険料	22,920	ボランティア用自動車保険
合 計	588,458	

ボランティア33名

前期繰越 361,876
 総 収 入 640,943
 総 支 出 588,458
 次期繰越 414,361

会 計 船 引 典 子



上記の決算について出金伝票、領収書などを照合した結果公正なものと認めます。

監 査 宮 本 民 恵



有野台

'97.11.8

有野台 ボランティア (981) 7511

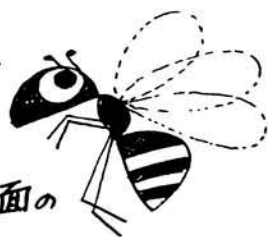
ボランティア

No.12

通信

編集 田辺 正則

7月15日、ストレッチ体操の5回目。五社住宅からはいつもの顔ぶれ、久保さん、森田さん、佐藤さんが参加。ボランティアは高木さん、板倉さん、松田さん、本宮さん、田辺の5名。首をゆくりと左右に倒す運動から始まり、手をのびし上に組んで全身をゆくりと曲げる運動など身体の各部をのばす運動が行われます。途中、床の上に身体を横たえて、クールダウンしているときに「G線上のアリア」が流れてきて本当にゆったりと身体を休めることができました。そのあとは一転して、「おさななじみ」のメロディに合わせて、力強く足踏みの運動。講師の手坂さんが「笑顔で歩きましょう」と声をかけると、佐藤さんからは「(テンポが早くて) ゆくり笑う余裕がない」という声。最後に もう1度、全身をのばす運動をして、終了。きょうはそのあと健康談義。手坂さんは「年をとっていくにしたがって、筋肉がおとろえていく」という話をされ、久保さんが「こうして皆で集まってやるからできるけど、1人たとなかなかできない」と話していました。佐藤さんはひさか悪くなった話をされて、食事面のバランスのことやカロリーを摂りすぎないかなど、ひとしきりおしゃべりが続きました。



7月16日、第25回ミーティング。参加者は8名。きょうは9月に行う大正琴の演奏会が議題の中心。歌欠のしおりを作ることやそのあと茶話会を行い、ケーキや和菓子、くだものを用意することなどを話し合いました。そのあと、滋野さんから暑中見舞いをお酉りしてはどうかという話があり、色紙やかなひまわりをデザインした葉書が机の上に置かれました。皆、その元気の出るような会がひと目で気に入って、上田さんが横に「暑中御見舞…」の文字を書かれて、各戸にお酉りすることになりました。続いて各グループの活動状況の報告がありました。転居される方の報告も何軒もありました。また、この日は参加できませんでしたが、第2住宅の勉強会^{ふれあい}の報告が乾さんからあり、2週間に1回のペースで、引続きの参加は7名、友人の林さんといっしょに楽しくやっておられるとのこと。きょうはミーティングを早めに切り上げ、久しぶりの昼食会です。ボランティアどうしの久しぶりの歓談となりました。(田辺)

7月20日、9時半に集まり、有馬での食事会の材料の確認、有馬と第2住宅の訪問予定を決め、伊藤さん、滋野さん、久しぶりに参加してくれた高校生の山本君、大野君は第2住宅に暑中見舞いを手渡しに行き、宮本さん、木下さん、甲斐田さん、田辺は買い出しに行く。(田辺)ハガキの役目の私たち4人も行動開始です。まず手分けして表書きをする。ハガキにはきれいにひまわりが描かれており、滋野さんがパソコンで作ったものです。この第2住宅に現在お住まいの方は36戸。もうかなりの人たちがここを後にされました。配達の方は お会いして直接手渡しをすると言うことで、すから、時間が かかります。だから手分けしてお伝え



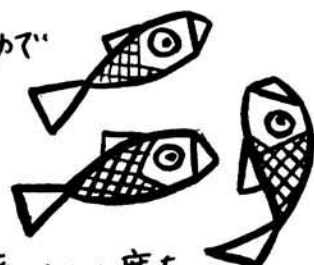
暑中見舞い
中上げます。
平成九年盛夏
有野白ランティア

することにして、大野君、山本君が1~6棟、滋野さんが7~10棟、11~13棟を私が分担しました。この住宅では、もちつき大会、食事会などお手伝いさせていただいたことがあり、顔見知りの方も出来たのですが、もう会うこともないだろうか。今日は自治会長の西田さんほか2~3人の方に会えただけでした。滋野さん、大野君のグループも同じような感じだったようです。帰る時、キャッチボールをしていた小学生の男の子が「これからどこへ行くん？」と話しかけて来ました。その近くでは、その子のお父さんらしい人が車の手入れをしていました。(伊藤)

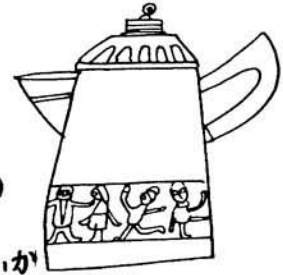
買い出しが終わり、有馬住宅に着くと、第2住宅に行っていたメンバーもちょうど着いたところ。もう11時をまわっている。集会所に行くと、小林さんと松原さんが早くから来て、部屋をクーラーで涼しく冷やしてくださっていた。さっそく作業にとりかかる。宮本さんが段取りをしておいて、伊藤さんはねぎを刻み、小林さんがきゅうりを切ってくたさる。その横では 甲斐田さんと木下さんがそうめんのにのせるきんしたまごを交代で火炙っている。松原さんからお借りしたフライパンの調子が良くて、次々に薄皮の卵焼きができていく。外では 滋野さん、山本君、大野君、松原さんが日よけ用のターフを張っている。若い大野君、山本君が松原さんのアドバイス



で高い所にのぼって、ひもを結びつける。タープはうまく張れて、その下に6つの机と10脚のイスが並び、机の上にはテーブルクロスが広げられる。外の準備が終わったあとは大野君、山本君はしょうがをすりおろし、滋野さんはきゅうりを切っている。松原さんは卵焼きのところにきて二人の小さな女の子にアドバイスしたあと、宮本さんと私のところに来て、そうめんのゆであつたのをアドバイス。いつの間にか12時半。木下さん・甲斐田さん・私の3人でそうめん、氷、さんし卵、きゅうり、ねぎ、トマト、きざみのりの川俣に盛りつけをはじめた頃、「そろそろ声をかけて来ましょう」と言って、伊藤さんが席を立て始める。木下さん、甲斐田さんは上手に盛りつけをしている。しばらくすると、平山さん、三谷さんが彦貞を出され、平山さんはゆっくりと外のテーブルで待ておられたが、三谷さんは手伝いをはじめられる。私のそうめんの盛りつけが少し雑なのを見て、「そうめんを水でぬらして、ひとしひとし盛りつけるときれいにできますよ」と言われ、わりばしを使って上手に盛りつけされる。1時前にはほぼ準備完了。外原さん、宮本さん、伊藤さんが中で食事をされるが、そのほかの方はほとんどが外。平山さん、三谷さん、滋野さん、大野君、田辺、山本君、小林さん、松原さん、田村さん、呉さんという川俣にテーブルを囲み、テーブルの前にはきれいに盛りつけられた赤、黄色、緑と色鮮やかなそうめんが並ぶ。きょうの食事の見送りや内容を考えてくれた筒井さんが体調が悪く、また常連の佐伯さんも言式馬便のために不参加なのは残念だが、楽しい食事会の始まりです。そうめんだからどんどんお腹に入っていく。皆さんおいしそうに食べておられる。「外で食べるのは気持ちがいいなあ」と松原さん。田村さんも「風が吹いていい気持ちやわ」と言っておられる。食事をしながら、めんつゆのだしのとり方を小林さん、滋野さん、三谷さんがされている。また、松原さんと三谷さんの間では有馬住宅の花壇に生えているとくだみのことが話題になり、平山さんも「煎じて飲んでみよかな」と言われている。外での食事会は2時半ぐらいに終わって、外のテーブルやタープの片づけが始まる。中の方も食器を洗い終わるが、小



林さんが「コーヒーが飲みたい」とご自分でコーヒーマーカーをセッットされた日頃から、集会所内で2次会のばじまり。ちょうど2棟に住んでいて先日、転居された當谷さんがわざわざあいさつに来られ、おいしいくずもちをもちて来られたので、それをお茶菓子にしていた。小林さんが買って来て下さったお



もテーブルの上に出されている。集会所に残された三谷さん、小林さん、田村さん、當谷さんとボランティアとで1時間ほどおしゃべりの花がさく。日頃から當谷さんとお話になっていた田村さんは「(當谷さんが)いなくなるとさびしくなる」と言われている。時計の針が4時をさした日、松原さんが「さあ、そろそろ終わりにしようか」と声をかけて下さって、あと片付け。次回はまた外で火焼き肉でもしようかという話をして、5時前には有馬住宅をあとにする。

7月23日、心のケア石形修会の日目(最終日)です。5回目までの石形修会で、精神分裂病、老人性痴呆症、うつ病、神経症などの心の病いについて講義を受けてきました。内容が難解なものもあり、また1回2時間という限られた時間の中で、どれだけ理解を深めることができたかわかりませんが、石形修会を受ける前とくらべると、少なくともその入口にはたどりつけたのではないかと思います。さて、最終回のきょうは前の5回の石形修会をうけて、「精神障害者共同作業所活動を通して」というテーマで、具体的に共同作業所の活動をされているメンバーや家族の方の(北むつみ会)声を直接、聞くことができました。ご自身の体験談を淡淡と語られているのを聞いていると、苦勞の中で支え合って来られたようすがこちらに糸にとるように伝わってきました。同じ悩みを持つ者どうしが助け合うという集団の存在はアルコール依存症の断酒会にしても、今回の北むつみ会にしても、地縁や血縁が希薄になった社会の中で、ひとつの希望のように思えます。また、6回の石形修会を通して、その人のそのままの状況を受け入れることの大切さを学びました。(田辺)

8月5日、ストレッチ体操の日目。参加者は佐藤さん、森田さん、久保さん、本宮。

見学者として平井さん。開始時間変更のため、寺坂さん甚力違いされて1:30よりストレッチ始まる。初参加の平井さん、前にもされていたので、先生のどんな動作の時でも伸びていた。
“腰を伸ばして”のかけ声で皆の腰がびゅん、びゅんと伸びる。つい皆も笑ってしまう。見ても面白い。又、きつい動作の時、床がゆがむので、向かいの人の顔がほころぶ。“あ、顔見ないで!”とつい声が出てしまう。一曲目が終わったころ、外の景色も幻想的な雰囲気になったなあ…と思っていたら、光と音の天然のBGMに早変わり。思わず皆さん外をながめる。五社住宅の裏山より滝の様に見える水が流れている。危ないなあ…。それから二曲目の運動。呼吸運動で終り。初参加の平井さんも次回の約束をして下さる。お疲れ様でした。
(本宮)



8月19日、最初にボランティアの本宮さんが来られていて、そのあと佐藤さんと私が集まる。3人でしばらくは五社住宅での集まりの内容についての話。特に各戸の緊急連絡先をどう調べるかを話す。会話の途中に講師の寺坂さんが来られ、久保さんが来られたところでストレッチ体操を始める。途中で有野台に越して来られて間のない平井さんが加わる。6人で輪の形になって、身体をほぐしていく。それでも時折、足を急に下ろしたりして、「ドタン」という音がすると、寺坂さんが「小気味よく来た、優雅に形をきれいやってください」とひと声。おかしき久保さんが「一瞬、女を忘れてしまうときがある」と言われて、思わず皆で大笑する。1時間後には、すっかりリラックスした身体が自分の中にある。部屋のそうじを終えたあと、佐藤さん、久保さんといっしょに本宮さんと私は五社のふれあいセンターへ出かけて行く。



(田辺)

8月中旬に五社住宅で1人暮らしの中年の女性が孤独死されるという悲しい出来事がありました。発見されたのが死後約1カ月であったということが、私たちを何ともいえないやるせない気持ちにさせました。この出来事を受けて、8月末に緊急にミーティングを開き、今回の孤独死に対する思いを語り合い、また孤独死を再びくり返さないために私たちに何かできるか、2度の話し合いをもちました。

亡くなられた女性の死を受けとめるという意味もあり、まず本宮さんからこの女性の亡くなられるまでの状況についての話がありました。ボランティアは週1回の訪問活動をしていながらお会いすることができず、昨年来にお会いしたのが最後で、そのときもあいさつ程度の話ししかできなかったこと、保健婦さんも何度かの訪問でお会いできていないこと、ときどき顔を見かけられていた住民の方やふれあい交番の方、民生委員の方のお話からおぼろげながら見えてくる彼女の生活のようすは閉じこもりがちで、近所づきあいもほとんどない姿でした。

本宮さんからの報告のあと、皆さんに思いを語っていただきましたが、「ボランティアとしてどこまで係わることができるのか」「限界があるのはどうしようもない」という意見がいくつかありましたが、また退院された時点での病院とのつながりやボランティアが係わることが難しいときの行政(特に保健所)とのつながりが必要だという意見もありました。と同時に茶話会や体操など行事に参加したり、近所づきあいのある人は良いのだけれど、「そういう係わりのもてない方をどうするか」という問題も出されました。

このあと、孤独死をくり返さないために何かできるかという話に和りました。五社住宅では自治会で緊急に集まりがもたれ、役員や住民による安否確認を行い、月2回定期的に報告会を行うこと、また各戸の緊急連絡先を把握することなど具体的な重荷が出ています。また、五社住宅に係わる人の棟のつながりを密にするためにできるだけ早いうちに住民、保健婦、生活支援アドバイザー、ふれあい交番相談員、ボランティアなどが一堂に会して、話し合いをもつことになりました。

ボランティアでも、住民の方がどう思っているかわからないと具体的な係わりはできないということ
とで、アンケートをとり、住民の方に訪問を希望されるかどうか、今困っておられることはないかなど、
いくつかおたずねしました。住民の方もこういうことがあった後なので、協力的の方が多く、半数以
上(P100)
い回答を得ることができました。乾さんがアンケートの結果をていねいにまとめて報告してくださり、
(参照)
2回目の話し合いではアンケートの結果をかなり細かく検討することができました。その中にはかなり
詳しく書き込んでくださった方もあり、私たちが訪問した方が良いと思える回答もいくつかありました。

さきほどの問題提起にもありましたし、今回の出来事もそうなのですが、「40～50代のおひとり暮らし
の方の安否をどう確認するか」というのが一番切実な問題として出てきました。60代以上の高齢
の方や病気がちの方には、私たちもふだんから声かけや訪問をしやすいのですが、40～50代の方とな
ると、ご本人も私たちもあまり立ち入りすぎると、わずらわしく思われたり、またプライバシーという面からも
難しい部分があり、この年代の方との係わり方に改めて真摯さを感じました。その中で「お元気カード」
月 日
のようなものを作って、毎週ホストに入れて、カードがなくなっているか
どうかで、安否の確認をしてはどうかという提案がありました。
連続してカードがなくなっていけば、ご近所の方にたずねてみた
りして、その方の安否を確認しようというもので、さっそく滋野さんに
カードの原稿を作ってもらうことになり、しばらくは様子を見ながら

継続してみようということになりました。また、この問題は私たちが係わっているほかの5つの住宅で
も共通する問題であるということで、ほかの住宅でも「お元気カード」を実施することになりました。
五社住宅と同様におひとり暮らしの多い有馬住宅と比較的戸数の多い有野台第2住宅でもアンケートを
実施することになりました。散会のあと帰り際に伊藤さんが「もう1度、一からやり直してすかね」
と言われましたが、私も「地道にやっていくしかないと思います」と答えました。

(田辺)

有野台仮設住宅 アンケート報告（五社住宅）

調査の目的： ①仮設住宅の人々が現在どのような問題を持っているかを調査
 ②結果をもとに、今後のボランティアの在り方を考えていく
 （援助される側とする側のコミュニケーションを円滑に進める目的）

調査方法： アンケート用紙による調査
 配布日：1997年8月20日（水） 配布数：90
 回収日：1997年8月24日（日） 回答数：41（回収率45% 8月24日現在）

調査結果：

①引越し年数

	1年6ヵ月未満	2年	2年3ヵ月未満 (震災か3ヵ月)	2年半 (震災直後)
人数	2	27	6	4
%	(0.05%)	(0.68%)	(0.15%)	(0.1%)

※
 無回答数 2。
 2年と答えた人は
 2年前後とみられる

希望訪問回数

	2週間おき	一ヵ月おき	一週間おき	不要
人数	9	7	4	3

② 訪問の時刻をしてほしいか（回答数は約半数）

話相手になってほしい (7)
 お年寄り、病気がちの人の相談 (2)
 弁当や果物をもって来てほしい（以下各1件）
 買い物、仕事の情報が欲しい、ニュースが聞きたい、訪問のみ

③ 困ったとき来てくれる人は（複数回答）

家族	近所の人	ボランティア	友人	ヘルパー	親戚	誰も来ない
20	11	5	5	1	1	2

④ どんな行事を増やしてほしいか（複数回答）

茶話会	炊き出し	カラオケ	お花見	体操
11	10	6	6	4

その他：（各一件）講演会、話し合いの会、バザー、朝の体操、編み物教室
 お金をかけずに皆が集まれる行事（安否確認のため）

⑤ 仮設住宅について困ったことは何か

台風が怖い (4)
 自然災害 (3) （大雨、、山崩れ、落雷）
 病気が不安 (2)
 交通の便 (2)
 仕事がない (2) その他：近所のうわさ話、孤独死の件

9月2日、ストレッチ体操の8回目。参加者は久保さん、平井さん、本宮さん、田辺さん、松田さん、高木。八月より参加されるようになった平井さんが一番乗りで部屋を冷房して下さる。九月というのに暑さが厳しく、おかげで暑さを忘れて体操することが出来た。レギュラーメンバーの佐藤さんは珍しく欠席。仮設の方は久保さん一人で少し淋しかったが寺坂さんのにこやかで楽しく、又力強いご指導で、手足伸び伸び、体ホキホキ、皆一生懸命、たのしいひと時を過ごした。何て体の固いこと、イタタタ…と痛みに耐えて、健康とスタイルのよくなるのを夢見ながら、あ、という間に一時間が過ぎてしまいました。ご苦勞までした。(高木)

9月10日、第26回ミーティング。参加者6名。まず大正琴の演奏会の最終的な打ち合わせ。お茶菓子とくだもの購入は平瀬さんと清水さんが担当となり、また9/20を申し込みのメトリックとして皆さんにお知らせすることになりました。今回は次の行事日程が目白押しで、大正琴の演奏会のあとは五社住宅のバス旅行、有野台ふれあいまちづくり協議会主催のいもほりハイキング、国際祭シンポジウム「災害とトラウマ」など、ボランティアとして分担して可能な行事に参加するように話し合いました。そのあとは各グループの活動状況。各住宅とも入居者の数が少しずつ減少傾向にあり、五社住宅約80戸、第1住宅6戸、第2住宅約30戸、第3住宅5戸、東有野台住宅3戸、有馬住宅約25戸という状況。小住宅では隣近所づきあいのむづかしさやコミュニティを作る

こと自体の難しさも問題になってくるように思います。(田辺)



9月16日、ストレッチ体操の9回目。参加者は五社住宅からは高田さん夫婦、久保さん、佐藤さん、前本さん、里野さん。仮設住宅以外の方では平井さん、大森さん、林さん、ボランティアからは平田さん、田辺さん、高木。いつもの11時に部屋がとれなかったため、午後1

なった為か、人数がたく楽しさがふくらんだ。案じられた台風もそれ、丁度いい涼い



で気持ちがいい。野口さんも皆と一緒によくなっている。感心してし

まった。(私は後で体が痛く — 普段は2・3日して出るのに — 次の

日、野口さんにお目にかかった時、痛くないかうかがったら、「いいや、私時々

やってるから」…と答えて返って来て、本当にすごいと思った。)今日は寺坂さんも喜んでおら

れた。(高木)

9月17日、北海道の知人、高田菜穂子さんから1万円のカンパがありました。仲の良い5人の友人(井原明美さん、加藤晴世さん、神山ひとみさん、白戸千春さん、西田純子さん)とフリーマーケットなどでドライフラワーのリースやシャドーボックスなどを販売された売り上げを送ってくださったとのこと。心あたまる支援に感謝の気持ちでいっぱいです。(田辺)

9月24日、午後1時より、有野台地域福祉センターで大正琴の演奏会と茶話会が行われました。参加されたのは、五社住宅から久保さん、野口さん、森田さん、佐藤さん、第1住宅から住田さん、福さん、第2住宅から谷口さん、井原さん、森口さん、第3住宅から川添さん。ほかに有野台の公団住宅にお住まいで藤原台から来られた田中さん、岩山奇さん、中央区から来られた鳥さんも参加されました。演奏してくださったのは、大池から来られた琴山峰会という大正琴の会の石幾田さん、竹内さん、田藤さん、浜岡さんの4名の方々です。琴山峰会の方々はいくまでも仮設住宅や病院、老人ホームなどで

演奏会をたびたびやってこられた方々です。私の方は大正琴の演

奏会を聞くのは初めてで、どんな形の会になるのかと思っていました

が、石幾田さんがあらかじめ歌詞カードを送ってくださり、それを歌のしおり



として当日、皆さんにお配りして、会は始まりました。はじめから石幾田さんが「(演奏と)いっしょに歌ってください」と言われたのですが、迫力のある演奏の中で1曲目の「赤トンボ」では、皆さん

少し遠慮気味。それでも1曲ごとに石幾田さんの声かけがあり、2曲目の「木まっり」、3曲目の「影を慕いて」と次第に盛り上がってきました。「波浮の港」のあとの「ここに幸あり」では本当に大合唱となり、森口さんが大きく口を開けて歌われているのが印象的でした。そのあとも「船頭小唄」「荒城の月」「屋景のワルツ」と続く曲は、悲しい歌やしみじみとした曲調のものがタタいのですが、そういう曲調の歌を皆で

大合唱するというのは、何か不思議とよい気持ちなのです。

「五木の子守唄」「島唄」の演奏を聞いたあとはアンコールです。「赤トンボ」「影を慕いて」「ここに幸あり」「波浮の港」と次々にリクエストがあり、高木さんがマイクをもって川添さんや住田さん

福さんと演奏の迫力に負けない声で歌われました。特に

住田さんのよく通る声には後ろで聞いていた私たちもびっくりしました。1日時間^{楽しい}ほどの演奏会が終わったあとは茶話会です。ケーキと大福をお茶菓子におしゃべりに花がさきます。第2住宅の谷口さんは(もう引越された)小野さんが大正琴が好きで、カセットテープに録音して聞かせてあげればよかった」と盛んに残念がっておられました。夫有野団地にお住まいの田中さんは演奏会がとても楽しかったようで、何度もお礼を言われていました。琴山峯会の方々をお送りしたあとは、皆さん三々五々家路に就かれました。最後に残ったのは、ボランティアと鳥さん。しほいはボランティアの交流会という枠でおしゃべりが続きました。鳥さんは最後の片付けまで手伝って下さり、本当にありがとうございました。ボランティアの参加者は上田さん、井上さん、平瀬夏さん、清水さん、松田さん、本宮さん、山崎さん、高木さん、田辺でした。

(田辺)

9月28日、今日は有馬住宅の人たちが楽しみにしておられた焼き肉の昼食会の日です。秋晴れにめぐまれて、日差しがちょっと強いかなと思いましたが、少し雲も広がって来て、



願ってもないお天気にめぐまれました。田辺さん、伊藤さんが有野台第2住宅の訪問を終えて到着すると、別行動で買物に行っていた宮本さん、佐伯さん、そして小学生の木下さん、甲斐田さんは先に来て、もうキャベツ、玉ねぎなど切っているところにいました。「おそい、おそいぞ」と待ちかねておられた



松原さんが何れによって助言(?)をしておられます。「何か手伝いましょうか」と田村さんが声を出されたので、キャベツを切るのを手伝ってもらいました。冷凍の工じがむきにくいと苦労している女の子たち、「水をかけた方がいい」と言う人がいると、「いや味が落ちるからいけない」と言う人もいたりで大変です。これは呉さんも手伝ってくれました。外では住宅と住宅の間の通路に食卓の準備が始まっています。ふゆあい交番の武平さんそして生活支援アドバイザーの3人の男性の方も来られていて、手伝って下さいました。田辺さんの教室から運び込まれた机と椅子が並べられ、きれいな花模様テーブルクロスがかけられました。そしてボランティア所有の野外用の大きな金鉄板と宮本さんが持ってきて下さったホットプレートがセットされて準備OK。「さあ、火をつけるぞ」の声にあわせて、お肉や野菜等が手渡しで部屋から運び出される。しかしコンロの火がなかなかつかない。「おかしいなあ」と妻二人の男がさわいているうちに、ボンベの中身が空っぽであることが判明し、ともかくもにぎやかな食事は始まった。早くから来て楽しみにしておられた松原さん、呉さんが席につかれ、続いて田辺さんの呼びかけで外原さん、岡部さんが出て来られる。そして平山さんも。みんながさわいている木黄の部屋の森さん、出たい出たいと思いつつも、言いかかろ呼びに行かないと出て来ないこの人も姿を現した。今日は集会所連絡会の代表の寛さんもお仕事がお休みで出て来られて、にぎ



やかになりました。そして森さん、平山さん、寛さん、松原さんの4人が同じテーブルに
ついたものだから、毒舌もとび出して、にぎやかなことこの上もない。ふさげて、お肉
のとりあいをしている人もいます。でもなかなか人の中に出て来られなかった平山さん
がこうして楽しそうにしていられしやるのを見ているとうれしくなる。続いて鈴蘭台の公営

住宅に移された小林さんと有馬の自宅を再建して帰った富谷さんも訪ねて来られ、沢山のみかんもいただきました。だいぶおくれて三谷さんも来られました。この人も近いうちに須磨の方に移されます。みんなで20人位になったのでしょうか。15人分用意した椅子が足りなくて、立っている人もいます。みんなとてもおいしいと喜んで下さる。集会所が出来て、こうして親しく度夏をおわせることが出来、そして少しでも栄養を補っていただく機会が持てるようになって良かったと思う。又、最近私たちのグループに来てくれた二人の小学生のボランティアは とてもかわいいと皆さんがかわいがって下さり、一見これそうな森田などはやまでいい度夏になって自分の部屋からぶどうなどを持ってきて二人にあげたりしています。でもさすがに女の子、料理の手伝いでも、何でも良く出来て助かります。お年寄りの多いここ有馬にお子さんがやって来たようで、とても明るくなりました。そして、今日の話題はやはりこれが最後と言われる募集が始まったばかりの公営住宅のことが多く、みんな色々と話しあっておられました。長い食事会もやっと終り、後かたづけをして、机等を田辺さん方に返して解散。実習を終えたばかりで寝不足の佐伯さん、そして宮本さんもお疲れでして。秋の日は短い。帰るころには太陽は西の空に傾いて、夕日の中、一人二人と別れて家路につきました。

(伊藤)



10月7日、ストレッチ体操の10回目。部屋が申し込まれていない(本当は渡邊さんがちゃんと電話で申し込んでくださっていたのですが...)というバグニングはありましたが、幸い部屋が空いていたので、その場で申し込んで、高木さんから1度帰った佐藤さんや野口さんにも声をかけて下さり、少し遅れて体操がはじまりました。五社住宅からは森田さんも参加されました。最近仮設住宅以外の方の参加も多く、平井さん、大森さん、赤松さん、大橋さん、林さんが来られ、前回ほどではありませんが、今回もにぎやかな集まりになりました。皆さんの交流の場になればなによりです。いつものように講師の寺坂さんの笛吹めのよいかけ声にあわせてみんな思い思いに身体をのびしていきます。バックにはいつもゆったりとした音楽が流れています。平井さんは「あの音楽が いいのよね」と言われています。

私は寝起きの身体にストレッチをしているので、まだ身体が半分ぬるんでいるような感じで、1時間が過ぎていきます。でも1時間のメニューが終ったあとは身体に心地よい疲れがあります。ボランティアは松田さん、高木さん、田辺が参加しました。

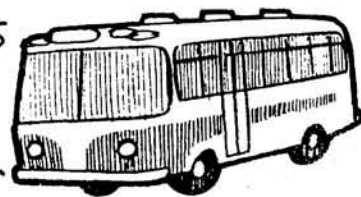
10月8日、五社住宅で8月に起こった孤死の出来事をうけて集まりがもたれました。参加したのは、五社住宅の会長、ふれあいセンター委員長、ふれあい推進員をはじめ住民の皆さん、保健婦さん、北こころのアサセンターの相談員さん、アドバンス病院のケースワーカーの方、ふれあい交番の相談員さん、地元の民生委員の方々、ボランティア。住宅募集の最中で多忙な生活支援アドバイザーの方以外は五社住宅にかかわる皆さんがほぼ顔をそろえました。お互いに自己紹介しながら、それぞれの活動状況の説明が行われたあと、各戸の訪問状況など具体的な情報交換もありました。今のところは住民の方々の声かけがしっかりできていて、特に1人暮らしの方は少ないようです。ただ内容がプライバシーにかかわる問題も多いため、これだけ多くのメンバーで同時に情報交換するのは少しおぼつかないところもあり、改めてその点の難しさを感じました。1人暮らしの方がおられるときに個別に対応しつつ連絡をとり合うのが一番自然な対応のように思いました。結果的にはお互いの顔見せと協力体制を確認することで会いは終わりました。

(田辺)



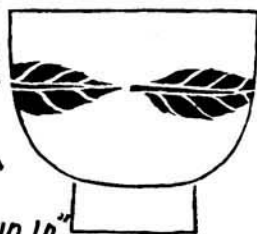
10月10日、五社住宅バスツアー。9時、五社を立杭焼き、東条湖、加西フラワーセンター行のバスが出発しました。五社の参加者は次の方々でした。(敬称略) 今田、高田(御夫妻)、竹田、糟谷、北尾、野口、鈴木、田中、喜多村、吉岡、関戸、森田(御夫妻)、橋詰、植田、大森、久保、佐藤(御夫妻)、小林、中村(御夫妻)、堀ノ内、梶山、前本、吉村さんで、ボランティアからは山崎、渡来谷(御家族)、平田、渡邊健、高木が参加しました。ふれあい交番の武平さんと総勢36人の大グループで、楽しみに待っていた一日の出発でした。初めにお世話役の高田さんが「やと念願かなってバスで行けることになりました」と挨拶されたのか

ジーンと心にひびき、本当に今日までの月日と、この日を覚えて下さった方
方の御苦労が心にしみました。大型の観光バスの中でゆたりと、秋の
景色を楽しみ、おしゃべりに余念のない皆さんのお顔は明るくはずで



見えました。祭日の渋滞もないようで車はスー・スーと時間通りに目的地に着きました。立杭
焼きでは、ろくろで陶器の作りを作るのを見学しました。くるくる回るろくろの争の中で、お茶めん、
花びん、湯呑み等が魔法のように生まれて来るその争はぎく、ため息と拍手がわきました。
その後、おたのしみの絵付けです。準備されていた素焼きの湯呑みに筆をとり、さあ何を画に

か… あちこちで筆が重なり出し、いろんな絵が出来始め、湯呑みに表情
が出て来ました。花、文字、山、木、等々。森田さんの御主人は昔とた柿
柄きぬと思わせる筆の使い方で細い細い糸糸きぬ（私などホテッとしてしか画けない
のに）でこまかい絵をかいておられ感じました。夕刻の方が“五社 平9.10.10”



と入れておられます。本当に今の時の大事な記念になることでしょう。出来よりは遅くのに8日程
かかるそうで“五社に着くのはいつ頃でしょう、どんな風になるのかしら… 楽しみ!!”です! 庭の美
いコスモスと山を背景に記念写真を撮りました。昼食は東条湖でと聞いて、私はお弁当を
想像していたのですが、何とお座敷ですてきな膳が用意されていました。え、あんな会費(1000
円)で私達までよかったのかしら?! 少しは酔いになりましたが、自費払いのビールまでご馳走にな
りながら、おいしいおいしい連発で“夕食は知らない”と云いながら全部いただいてしまいました。
あちらこちらでパチリパチリ、幸せな昼食風景がきっとセンターの木の上ののるでしょう。“あ、
ここから湖が見えたのね”、花よりだんごを満喫した後で、やっと眼下に広がる景色に気が
付きました。(何とまあ!と云われそうですね。)それにしても、空と山と水の三拍子そろって美しい

~~~~~ ♪ ♪ ♪ ♪ ~~~~~



こと… 本当に“ごちそうさま!!”心も体も充たされた思いで  
した。最後の目的地、加西フラワーセンターでは約2時間、



温室観賞や散策、買物など、森林浴の中、思い思いのグループでゆっくり過すことが出来  
ました。暑くもなく、寒くもなく、色鮮やかに咲いている花をゆっくり味わうのに最適な時でした。  
赤や黄のハイズカス、真赤と紫のカビアなど10月の半ばでもきれいに咲いているのに驚きま  
した。波来谷さんのお子さん達は虫を食べる植物(名前?)に興味があるようで私もつり  
まわっていました。本当にいろいろな木植物があるものですね。「ソーセージの木」には全くソー  
セージのような大小の円柱がぶら下がっています。池のほとりのバラ園も何種類  
ものバラが目を楽しませてくれました。80を過ぎておられる橋本さんのお元気な  
こと、「わたし、まだ歩けるわよ」と背中をポンと伸ばし笑いかこぼれるようでした。  
広いお庭で、皆さんどこに行かれたのかと思う位でしたが、集合時間にはピッタリ!!  
座席は満杯になりました。「僕らお行儀いいから」と誰かが云いました。本当に車内禁  
酒の高田さんが遠慮げに云われた約束ことも厳守(本当?)され、定刻の4時半には  
もう五社を走っていました。お天気もよく、気候もよく、すばらしい企画の楽しい一日、温かい思  
い出と言念になる一日でした。参加された方はきっと皆さんがそう思われたでしょう。参加出  
来なかった方は残念でしたが、世話役の方が心をこめて選ばれた立杭・焚きのおみやげを  
きっと楽しんでおられると思います。本当に素敵な秋の一日、交わりの場に招いていただいた  
ことを心から感謝しながらお別れしました。お一人お一人のお顔が、もっと近くに、心に焼き  
ついた思いがしました。本当にありがとうございました。(高木)



**10月15日、第27回ミー  
ティング。**参加者は5名。初参加

は井上さん。部屋に入って来られるとすぐ草子さんから Cさんが亡くなったことを聞く。五社住  
宅から姫路の特別養護老人ホームに入居してまだ数ヶ月。4月にはお花見に元気な姿を見せら  
れていたのに何とも言えない気持ちになる。そのあと、きょうは参加者が少なかったこともあり、お互い

に日頃思っていることを語り合う形で会をすすめました。話題

の一番の中心は最後の一円募集となる 災害復興住宅の

募集について。このあと数千人の募集があるそうだが、これ

だけ大規模(約1万7千戸)でまとめた形での募集は今回が最後。高木さん、本宮さんはどちらも

「12月の抽選発表が来るのがイヤだ」とおっしゃる。12月になって当落が決まって、落選された

方のことを考えると本当になくさめる言葉もない。私はお会いするごとに倍率状況を見てざり

ざりまで待つて申し込むようにお話ししている。12月に皆さんの笑顔をみれるように祈るしかない。

また、「現在の自分がボランティアとしてかかっているのはなぜか」ということが話に上がり、本宮さんは

「相手からいただくものがタタから続いている」、高木さんは「ボランティアをする側とかさめる側という

関係でないながらがでている」という話をしました。最後に、依然 仮設住宅に入居され

ている方々の厳しい生活は続いているという話が出て、その中で「本当に“自立を助ける”活動をして

いなくては」という意見が出ました。「自立を助ける活動」と口で言うのはかんたんだけれど、実

際にするのはかなり難しい」と私が発言すると、高木さんが「何度も失敗をくり返しなが

ら少しずつできるようになっていくもの」と言われました。その言葉には私も十分納得できました。(田辺)



**10月26日**、有野台第2住宅での食事会。11時少し前、私が第

2住宅に金鍋などの道具を持ていくと、もうふれあいセンターは空いていて、会長の西田さんの顔が見える。ふれあいセンターのすぐ横では荒川さんご主人がかす汁の金鍋にまきをくべておられる。道具の運

び込みを斉藤さんご主人が手伝って下さる。私の家は道具だけ置くと有馬住宅へ。その間、宮本さん、

筒井さん、甲斐田さん、木下さんは西山スーパーへ買い出し。きょうはお好み焼きを作る。12時半すぎに

私がもどてくると、もう皆さん お好み焼きに舌づみをつけておられる。入口のテーブルには第1住宅の豊富

さん、若井さん、奥谷さん、住田さん、永井さん。久しぶりに皆さんごいっしょの顔が見れてうれしい。右奥の

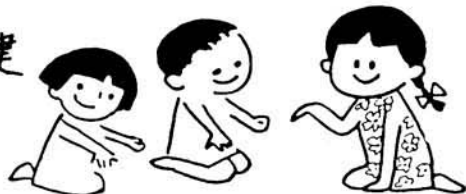
テーブルには東有野台住宅の船倉さん、第2住宅の井原さんと息子さん。船倉さんとも久しぶりのおしゃべり。

もうひよどり台に住宅が決まった舟倉さんと漢江区に申し込まれた井原さんといざくは住宅の話をする。

中央のテーブルでは第2住宅の新屋敷さんとマーくん、みづほちゃんと健

太君、まなみちゃん、谷口さんがお好み焼きを口に運んでいる。きょう

のお好み焼きはえび入りで山いもの入ったもの。口もなかなかいける。



その横では、声かけやお好み焼きの西配達を卒えた木下さん、甲斐田さんも。中央、奥では筒井さん、宮

本さん、荒川さんの奥さんなどがお好み焼きを焼いている。次から次へお好み焼きが出来ていく。筒井

さんに声をかけると坂井さんのおばあちゃんはもう来られて食事されて帰られたとのこと。いっしょにおしゃべりで

きなくて残念。事務室の横を通ると、斉藤さんの奥さんと井原さんの娘さんが住宅の倍率が書かれ

たファックスをコピーし、整理されている。あと3日で最後の大規模な住宅募集

の申し込みも終かりなのだ。炊事場に行くとボランティアの高木さんがエプロン姿

で今伝ておられる。しばらくすると以前1棟に住んでおられた谷口さんも来られて、

食事の車輪に入られる。きょうは娘さんといっしょのようだ。なつかしい思いでごあいさつす

る。お好み焼きとともに、かす汁が皆さんにふるまわれる。魚を1本さばいて作られたとの



こと。こくのある味で身体があたたまる。本当にきょうはにぎやかな食事会だ。用事で先に帰る筒井さんと

入れかわるようにボランティアの山崎さんが笑顔で登場。こっそり会話の車輪に入られる。そのあとしばらく

すると第2住宅の森口さんも帰って来られる。この頃になるともう皆さんすっかりくつろいだ気分。荒川さんが

コーヒーを入れてくださり、おしゃべりしながらそれをいただく。話題はどうしても住宅の話に。奥谷さん、

住田さん、若井さんのようにもう申し込んだ住宅の倍率を気にかけている方、永井さんのようにX切りの

直前まで倍率を確認して、何とかもと住んでいた土地に帰りたいと思われる方など、色々。第1

住宅の方がこれだけ集まられるのは久しぶりなので、ボランティアの高木さん、宮本さん、山崎さん、私も

会話の中に入って本当ににぎやか。永井さんの話しぶりは特に快調で、皆を笑いのうずきに巻き込んでい

く。大爆笑の横で西田さんがすじとこんにやくの入ったぬき焼きを作ってください。これがまたうまい。皆

お腹いっぱいのはずなのに、もう1枚ござうになる。第1住宅の皆さんが「本当に楽しい1日が過ぎた」と言いつ帰られたあと、第2住宅の方々とボランティアとしてあと片付け。第2住宅の方は手慣れた方が多く、どんどんあと片付けが進んで行く。3時半には片付けも終わり、第2住宅の皆さんとお別れする。選挙の日と重なったのにたくさんの方々が来て下さり、楽しい1日が終わる。 (田 辺)

**10月28日**、ストレッチ体操の11回目。有野台の方が毎回ふえる。(大森さん、林さん、平井さん、市木さん、赤松さん、藤原さん)五社住宅からは今日は2人のみ。(前本さん、佐藤さん)私も11:45頃ギリギリかけつけるが、やはり(ボランティアか)言いかけた方がよいを感じる。寺坂さんから「今日は責任者が誰も見えないのかと思いました」と言われる。市木さんがボランティアに関心をもっておられ、紹介される。有野台の方にお掃除をお願いする為に来たが、云々前にも「交代に」と言いながら下された。平井さんに改めて交代をお願いする。

**11月4日**、ストレッチ体操の12回目。有野台の方々が毎回1人ずつふえる感じ、時間前に皆さん(大森さん、大橋さん、平井さん、赤松さん、藤原さん、秋山さん)と一緒に元気に来られる。五社住宅の佐藤さんが毎回来て下さりありがたい。久保さんはこのところお休み。少し運動がはげしいが、今日は請田さん、高田さんの御主人もみえて力強かった。ボランティアの参加は 松田、田辺、高木です。 (高木)





# 有野台ボランティア通信 No.13

'98. 6. 21

有野台ボランティア (981) 7511

編集 田辺 正則

7カ月ぶりの通信発行です。4月には出す予定にしていたのですが、編集者の自宅単居などがあり、大幅に遅れてしまいました。このNo. 13号だけで7カ月分を書き上げると、ページ数が多くなりすぎるので、2~3回に分けてできるだけ早いうちに発行していきたいと思います。

11月12日、第28回ミーティング。参加者は山崎さん、高木さん、本宮さん、田辺の4名。さびしいミーティング。今回の話し合いの中心は12月に行われる6つの住宅合同のクリスマス会。五軒の高田さん、第2住宅の西田さんとの事前の打ち合わせで、ボランティアはゲームを担当することになり、その内容を検討。アイデアウーマンの山崎さんの提案で風船割りゲームと王様ゲームを行うことになりました。その他、ストレッチ体操を継続するかどうかということも話題に上がる。

(田辺)



11月16日、有馬住宅での食事会。10時30分頃買い出しに行き、11時から集会所で下処理を始めました。今月は今までの昼食会で少し残ってしまった材料を使う目的でちらし寿司と煮麺を作りました。うすき卵は由希ちゃんと奈応ちゃんがカセットコンロを使って焼いてくれて、下処理はすぐ終わったのですが、肝心のご飯がなかなか炊けず、少々手持ちぶさたな事もありましたが、ご飯が炊けると同時に岡部さん、宮本さんでいなりを作って下さり、後に残った寿司飯でちらしを作りました。全部でき上がったのは2時前でした。この日は良い天気だったので、外に机を並べて、皆で食事をしました。今日参加したのは、外原さん、松原

さん、岡部さん、寛さん、森さん、呉さん。住宅が当たり北鈴蘭台に移られた小林さんもふじの差し入れを持て来てくださり、なごやかな雰囲気でした。



食事も終わり、コーヒーを飲む事になった時、呉さんに「ギターを一度聞かせて下さい」とお願いしたら、少し照れながらひき受けて下さいました。「アハハハの思い出」

「エリーゼのために」「景を慕いて」「ある愛の詩」… 次々に名曲の調べが呉の月夜から奏でられていきます。「何か趣味のある人はええな」と小林さんがひと言。皆しばらくはギターの音色に聞き入っていました。

(筒井)

11月18日、赤門塾 長谷川宏さんより 9万円のカンパの入金がありました。話を聞くと、子供たちがおこづかいを少しずつためたり、あまりお金に余裕のないはずの大学生の方がカンパしてくださったりしているとのこと。長谷川さんからお便りの中で「浄財」と言われていることが、本当に心暖まる支援をいつもありがとうございます。



11月18日、ストレッチ体操の13回目。有野台の方は今回も2名の方が新しく参加される。五社住宅の方は佐藤さん お一人で少しさびしい。佐藤さんにお話を伺うと、「少しストレッチの内容がきつくなっているから、腰や足の悪い人は少ししんどい」ということだった。講師の寺坂さんともストレッチの内容について少し相談する。寺坂さんはきょうは新しい曲を用意してくださって、体操の内容も新しいメニューが加わっている。日頃、運動不足の私にもかなりよい運動になった。

(田辺)

11月23日、今日は五社の方とボランティア合同の鍋大会。早朝、関戸さんが卸売市場に魚貝類を買出しに行き下さる。たらばがに8匹、かき6kg、車えび3kg、はまぐり8kg。それらを関戸さんを中心に中村さん、吉岡さんたち男の方がさばいて下さる。

野菜は前日、久保さん、北尾さん、大森さん、ボランティアでは高木さん、井上さん、本宮の6人でコープ西宮北に買いに行き、当日10時にすぐ食べられる状態で持ち寄ることにした。前日の買物は40人分だったので、当日追加の買物をして下さる。



10時過ぎに五社住宅に着くと、ふれあいセンターの荷物は運び出され、30人は中に入れる状態にして下されていた。11時になると早速、次々と取りに来られ、私達はホジションを決め、容器に入れて行くのに追われる。

早く来られた人が手伝ってもらった。1人分の鍋の材料があふれんばかりになった。取りに来られた人は皆さん満足そうな顔をして帰って行かれた。名前、人数のチェックもして下さったのでダブルこともなく、住民の方だけで70名になった。ほとんどの方が持参して帰られたので、ふれあいセンターで食事をしたのは、今田さん、高田さん、久保さん、大森さん、糟谷さん、竹田さん、北尾さん。

大塩さん(お二人)、武平さん、ボランティア3名でした。

最初の目的である、皆で鍋をつついて親睦をはかる...ということとは、ほど遠い結果になりましたが、70名もの人が同時にあんなご馳走をいただき、美味かったねという思いが出来たのは本当に良かったと思います。

当初の計画からとんとん離れて行き、材料もお持ち帰り可能となったときは、人数も読むことが出来なく、どうなるのかとハラハラして、中には前夜寝られない人もいました。しかし、皆さんに酉己り終え、お鍋をつついた時の、おいしかったこと!! 今回の催しで感じた事は男性の豪快さと女性の細かい所までの酉己り、そして五社の方のパワー。

食事も済み、洗い物も終わった頃、辛抱していた雨も降り始めました。皆様、お疲れ様でした。(本宮)



12月2日、ストレッチ体操の14回目。時間前より有野台より8人到着。五社住宅に佐藤さんに声をかけに行く。片腕が上げにくいと言われていたが、無理にお願ひして来て頂く。野口さん、森田さんもお尋ねしたが、お留守。体操の後、寺坂さんともお話しする。有野台からたぐみん来ても仮設の方がいっしょらなくなるなら、最初の趣旨と違っているので、「もうやめましょう」と言われる。「でも五月からさせて頂いてうれしかった」と。

次回が最後として次回に田辺さんからそれを説明して、やめることを言って下さいということになった。(高木)

12月10日、第29回ミーティング。参加者は高木さん、平瀬さん、本宮さん、田辺の4名。



今回もクリスマス会の打ち合わせ。王様ゲームはメンバーの方々に質問内容を考えてもらうように連絡をとっておいたが、残念ながら全く返信がなく、きょう来たメンバーで10個ずつ内容を考えることになる。ゲームの道具の準備はたいてい時間もかからないので、田辺が担当。風船ゲームの賞品は平瀬さんが買ってくれることになる。

また、年賀状は今年も6つの住宅にお配りすることになる。

ストレッチ体操は12月16日を以て終了することも確認する。本宮さん、高木さん、「落選された方々を考えると、住宅発表があるが、(田辺)憂うつになるとおっしゃる。

12月16日、ストレッチ体操の第15回。五社住宅の佐藤さん有野台より10名の方が参加され、いつものように楽しく1時間ストレッチ体操をする。

終わりに私の方から「仮設住宅の方の交流の場としてストレッチ体操をはじめて来ましたが、当初の目的は果たしたので、今回でストレッチ体操を終了します」と皆さんにお伝えする。佐藤さんが最後まで参加してくださってうれしかったし、また有野台の方々も皆さんの交流の場になったようです。寺坂さんが他の場所で行われているという情報を提供され、皆さんも続けたいとおっしゃっていました。講師の寺坂さんには長い間お付き合いいただきありがとうございました。

ストレッチ体操のあと、五社住宅に出かけると、辻さん、河上さん、竹田さんなど4の方が集まっておしゃべりしていました。声をおかけすると皆さん住宅に当選されたとのこと。そのあと佐藤さんや関戸さんから当選したと伝えられる。当選された方はやはり何とも言えないうれしそうな顔をされている。皆さん、うまくいけば良いかと願う。(田辺)

12月21日、6つの住宅合同のクリスマス会。10時に有野台会館に着くと、ちょうどエスメラルダ企画の皆さんと渡邊健さんが到着したところで、楽器や器材を積んだトラックも到着している。3Fのホール

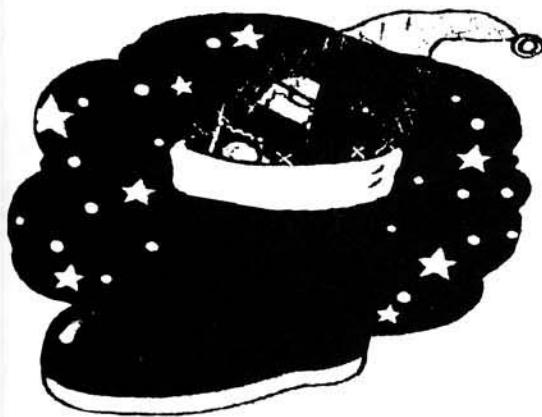




に上がって見ると、第2住宅の荒川さんご夫婦とけんた君、ひとみちゃん、谷口さんと多糸の太がりの君、井原さん、堀江さん、西田さん、斎藤まなみちゃん、小田もも子ちゃんとゆうだい君、ボランティアの甲斐田さん、木下さんがもうクリスマスの飾りつけを始めている。西田さんは飾りつけと平行して、机の配置を指示している。ボランティアの本宮さん、乾さん、宮本さん、伊藤さん、高木さん、平田さんがアドバイスを受けながら、机を並べている。その頃、五社住宅の皆さんが到着。米曹谷さん、森田さん、佐藤さん、大森さん、吉岡さん、今田さん、久保さん、高田さんは渡邊健さんが買ってきてくださったクリスマスプレゼントに番号札を張っていく。この番号と各自が手渡される番号札とでプレゼントを渡していくことになっている。五社の皆さんはそのあとは到着した弁当とケーキ、ジュース、みかんを1人ずつ手渡しできるように袋につめていかれる。私が司会の浮田さんとゲームの打ち合わせをしている間に、部屋の中はいつのまにか、クリスマスの風景に変わっている。天井からキラキラと光輝くモールがいくつもつるされ、その下にはクリスマスツリーが置かれている。プレゼントや昼食の準備もOK。12時前になると、東有野台の小林さんがやよいちゃん、かずと君と、五社の宮本さんも前後に来られる。プログラムと番号札を渡し、お弁当箱などの入った袋をもっていってもらう。そのあとは20〜30名の方が次々と来られて、開演の時間となる。



まず、司会の浮田さんがこのクリスマス会の協賛団体を紹介。有野台第2住宅、五社住宅、神戸元気村、有野台ボランティア、渡邊 健、北区まちづくり推進課、エスメラルダ企画、伊藤音楽教室、北浦運送株式会社、有野台ふれあいまちづくり協議会。実はこの会の発起人は渡邊 健さん。5月まで有野台第2住宅に住んでおられたが、その後も神戸元気村からのお米の配布など有野台・五社・有馬地区の仮設住宅とかわり続けている。これだけの協力が得られたのも、彼の人柄と人づき合いの広さのおかげ。五社住宅の高田さん、第2住宅の西田さん、エスメラルダ企画の伊藤さん、渡邊さん、私の5人で



1か月前ぐらい前から何度も打ち合わせをして、お互いに分担して行事や購入を担当することで、高田さんに言わせると「かなり楽をさせてもらって」(私も同意見)、会の準備を進めることができた、

また仮設住宅の人と色々なボランティアの人とがいっしょに作り上げていく会が準備できたように思います。

さて、前置きが長くなりましたが、いよいよ会のはじまりです。始めに全員で「ジングル・ベル」を合唱。まだ始まったばかりで少し皆さん緊張気味。味なのか、今ひとつ盛り上がりえない合唱でした。次に渡邊さんがサンタクロースの出で立ちで子供たちにプレゼントを配っていく。そのあとは時計が12時をまわっているので、先に昼食。入口から入ってすぐ左側の2列は五社と東有野台・第3住宅の皆さんが、右側の2列には第2住宅の皆さんが、入口から入ってすぐ右の列には有馬と第1住宅の皆さんが座われ、思い思いにおしゃべりしながら、昼食の海鮮ちらしずしを食べておられる。



お腹がひとまず満たされたあとは、本格的な演奏です。中島久恵さん、玉井友絵さん、鳥居希美さん、伊藤敦子さんが見るからに立派な電子オルガンやピアノを使って、一時間ほどの生演奏です。曲目は名曲コレクション(クラシックの名曲メドレー)、チャイコフスキーメドレー、ブルーソングメドレー(ジャズのメドレー)、マルタメドレー(サクソ奏者マルタのメドレー)、カーペンターズメドレー、ディズニー・ロマンティックメドレー、TV「料理の鉄人」オープニングテーマ、NHK連続テレビ小説「あぐり」のテーマ曲、映画「もののけ姫」の主題歌、NHK大河ドラマテーマ曲など、皆さん題名は知らなくても1度は聞いたことがある有名な

曲ばかり、大人でも子供でも楽しめる内容。お腹がひとこちつき、ゆったりと曲を楽しめる方、おしゃべりに興いながらBGMとして聞かれる方、思わず身体でリズムをとりながら聞かれる方など色々。カーペンターズメドレーでは、ボランティアの山崎さんが飛び入り参加され、中島さんや浮田さんといっしょに歌われるという一幕もありました。私は受付と席を行ったり来たりだったので、ゆくり聞けなくて残念。東有野台の船倉さんに「昼飯ぐらいゆべし食べよ」とつい、言われてしまいました。

そのあとはゲームのコーナー。まずは風船割り。残念ながら大人の参加はなく、子供だけの風船割りとなりました。参加者は第2住宅の荒川けんた君、ひとみちゃん、斉藤まなみちゃん、小田もも子ちゃん、ゆづい君、新屋敷文まどし君、山田ななみちゃん、せいや君、高野史世君、東有野台住宅の小林やよいちゃん、かすてる君。山田ななみちゃんは風船が割れるのがこわいのか、泣きながらの参加でした。ボランティアの甲斐田さん、木下さんは「私たちはいいよ」という表情で私の方を見ていましたが、それでも参加。足につけた風船をお互いに足で踏んで割っています。ときどき「ハーン」という甲高い音がして思わず耳をおさえる子もいます。いつのまにか残ったのはひとみちゃんともも子ちゃんとやよいちゃんの3人。2人には景品が出ることになっていて、最後はお互いにけん制し合いながら、ぐるぐるまわりはじめました。ボランティアの高木さん、平田さん、本宮さん、私が輪を作って、たまたま輪を小さくしていきます。3人とも勝負をかけるしかない。やよいちゃんがひとみちゃんの風船を割って、勝負あり。やよいちゃん、もも子ちゃんに賞品が手渡されました。



続いては王様ゲーム。あらかじめ用意された質問に答えたり、指示されたことを行うゲーム。ここから司会の浮田さんの腕の見せどころ。ボランティア4~5人が「ない知恵」をいまして考えたクイズをいかにおもしろく進めていくか。「さあ、あなたに出された指令はこれです」というさりげない言葉で あてられた人を上手にゲームに引っ掛けていきます。まず私が番号をひくと、18番。指名されたのは第2住宅の新屋敷弥生さん。正面に出て来てもらい、指令の紙をひいてもらうと、「クリスマスの歌を一曲大きな声で歌って下さい、さあ皆で!!」というもの。第2住宅の斉藤妙子さん、小田美世子さん、子供たち数人が登場。歌うのは「ジングルベル」。新屋敷さんが音楽の伴奏を求めると、伊藤さんがさりげなく伴奏をつけてくださり、開演のときよりずっと元気なジングルベルが合唱でできました。以下 おもしろかったのをいくつか紹介すると、五社住宅の高田幸典さん。質問は「もし、サンタクロースがプレゼントを持てきてくれたら、何がほしいですか」。高田さん、





さすが、「テニスコートつきの家！」司会者から「せいたくお願ひですね」と思わずつら込みが入りました。第2住宅 荒川博美さん、「山崎さんといっしょにダンスをおどってください」。山崎さんが登場し、荒川さんが「ゴゴゴ ならおどれるけど」と2人で相談しているところに、「フルーツ」のメロディーが流れ出し、2人は女生どうでフルーツのステップをふみはじめました。続いて五社住宅 堀ノ内さん。指令は「さあ、皆でラジオ体操をはじめましょう。貴方がリーダーですよ。」堀ノ内さんを中心に高田さんご夫婦、伊藤さん、今田さん、吉岡さん、大塩ちえさん、森田さんと五社住宅の面々も登場。ボランティアの高木さん、本宮さんも参加。ここでもさすが伊藤敦子さんがラジオ体操第1のメロディーを即興で。皆、車輪になってしばらく身体をほぐしました。はらはらしながら見たのは有馬住宅の外原さん。80歳になれた外原さんは少し耳が聞こえにくい。ボランティアの伊藤さんに手をひかれて、前に出て来られた。質問は「魚の名前を間をおかずに5つ言って下さい」というもの。「さかな」というのがなかなか伝わりにくくて、耳もとで大きな声で何度かお伝えして、伊藤さんが「たい、とか…」と言うと、「たい、ひらめ、さば、あじ、いわし」とひとつずつゆっくりと出て来て、5つ言い終わると皆さんから拍手。私もほんと月匈をおどろしました。

子どもへの質問では、「大人になったら何になりたいですか」という問いに、小田もも子さんが「何でも屋さん」とかわいい返答が返ってきました。また「うで立て伏せを10回してください」という指令に、まだ4歳くらいの新屋敷まさと君(マ君)は「できる」と言って、お腹をバッチリ床につけながら、10回腕立て伏せをやり終えました。

そうしているうちに閉会の時間です。3時前に司会者から閉会が告げられて、帰り際に出口のところで皆さんにささやかなプレゼントが手渡されます。すぐに帰って行かれる方とあと片付けを手伝ってくださる方いろいろですが、あと片付けも実にスムーズ。それぞれあらかじめ持ち場が与えられていたかのように、あっという間に片付いていきます。第2住宅の方が飾りつけを丁寧に取られて持ち帰り帰ったあとは、五社のオウガリ帰られ、最後にはたまた広い会場に





数名のボランティアが残りました。机の置き換えをして、階下に降りると 夕方は小雨が降りはじめ  
ています。少しずつ暗くなった中をそれぞれに別れていきました。(田 辺)

12月23日、第2住宅のもちつき会。朝9時に第2住宅に着くと、西田さんご夫婦、荒川  
さんご夫婦、斉藤 史朗さん、谷口信子さん、東有野台の船倉さんなどの姿が見える。もう釜から  
は湯気が出て、もち米を蒸しはじめている。西田さんご主人が薪を割っては 釜の中になく  
べられている。私は谷口信子さんと買い物。もちとり粉、きな粉、赤えび、よもぎ、うとんなど。

戻ってくると、蒸し上がったもち米を臼の中に入れて、荒川恵三さんが杵を巧みに使って、もち米の  
粒をつぶしている。このつぶし具合がうまくいかないと粘り気のあるもちができない。つぶし終わると、  
船倉さんが杵をもち、荒川さんが面とり役になり、2人でテンホ良く、もちをつき上げていく。横で  
斉藤まなみちゃんと前かけをかけた荒川ひとみちゃんが見物。谷口進さんも出て来  
れる。つき上がったもちにはすぐにもちとり粉がつけられ、ふれあいセンターの中へ。

西田房江さんがもちをひとにぎりずつにちぎって、それを荒川けんた君、ひとみちゃん、  
まなみちゃん、堀江さん、荒川博美さん、ボランティアの佐伯さんがていねい  
にまるめていく。良いもち米らしく、柔らかくて、すぐにきれいなもちができる。



10時頃には 第1住宅の奥谷さん、住田さん、永井さん、第3住宅の谷垣さんもふれあい  
センターに到着。第2住宅の井原さんも顔を出される。さっそくもちをまるめる作業に加わられる。外では  
谷口進さんも もちつきに加わられ、杵をふり上げておられる。西田さんの横では、ボランティアの高木  
さんもいっしょにまき割り。まきを火にくべておられる。私が高木さんに「薪を使って炊事した経験  
はありますか」とお尋ねすると、「子供の頃には 風呂も炊事も薪だった」と話しておられた。11時  
頃には 渡邊 健さんも漢方区からやって来られる。今年のもち米も渡邊さんが調達されたもの。今  
年はもちつきネットワークができ、もち米提供者、道具提供者、もちつきボランティアの登録者が協力  
し合って、各地でもちつきが行われている。

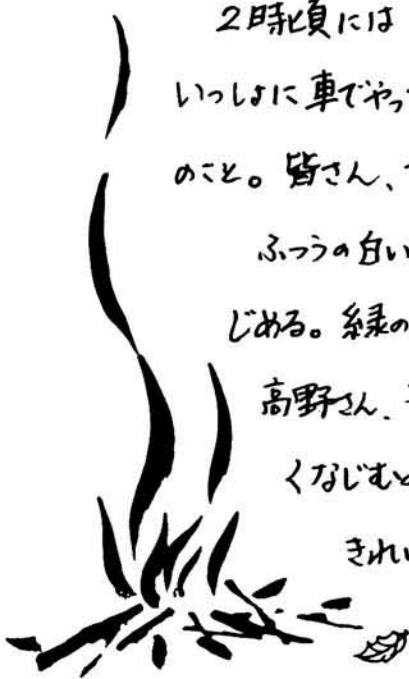
さて、昼を過ぎる頃には 高野智明さん、お枝さん、史也君 親子、新屋敷 健吾さん、弘生さん、まことし君、まなみちゃん一家、斎藤 妙子さん、井原ひろみさん、森口 さん、元1棟の谷口シ子さん、東有野台の小林明子さん、弘生ちゃん、和輝君一家、斎藤さんの友人のいかりさん、高田さん、渡辺さん、ボランティアの乾さん、山崎さんなど 次々にやって来られて、にぎやかな もちつきになりました。若い人が多いので、もちつきのテンポも実に軽快。かけ声をかけながら、2人でつくを見る間に もちが つき上がります。面とりはかなりの技術を必要とするのですが、荒川恵三さんと新屋敷 健吾さんが交代でその役をつめました。もちをまるめている中で 特異に目立っていたのが、高野史也君。手だけでなく、顔や服にも白いもちとり粉がつき、顔はほとんどまっ白。史也君、それが「ちこう」気に入っているようで、楽しそうにもちをまるめていました。



外では、もちつきをしたくて仕方がない子供たちが石うすの近くに集まりはじめました。まなみちゃんとひとみちゃんは何度も「つかせて！つかせて！」とせがんでいましたが、やっとその川原番がまわってきました。重い杵に腰をふらつかせながら、2人は何度かもちつきに挑戦。満足げな顔つきでした。そのあとは 史也くん、ちびっ子のまことし君、けんた君も挑戦。5人でひとつのおもちをつきあげました。

2時頃には 東有野台住宅におられた三宅さん一家と第2住宅におられた西川さん一家がいっしょに車でやって来られる。よく聞いてみると、引っ越しされた住宅が同じ住宅で同じ階とのこと。皆さん、さっそくもちをまるめる仕事に加わられる。

ふっつうの白いもちができあがったあとは、赤えびとよもぎを使って赤いもちと緑のもちをつきはじめ。緑のちはよもぎでつくとは知っていたが、赤えびがあの赤いもちに変わるとは知らず、高野さん、斎藤さん、新屋敷さん、荒川さんなど交代でつきあげていく。色がもちにうまくなじむのに時間がかかるので、少し骨の折れる作業。それでもつき上がったもちがきれいにまるめられると、赤と緑のもちがずらりと並んでいく。



4時頃には 渡邊さんと山崎さんが五社住宅へで上がったもちを運んでいく。午前中からずっとおぼろめ作業をしていた第1住宅の奥谷さん、住田さん、永井さん、第3住宅の谷垣さんもそれぞれの住宅に配るもちを持たれて、車へ。帰りの車中で「西田さんは本当に毎年よくやってくたさる。なかなかできへんことやわ」と皆さん、口々に言われている。私ももうなづくことしきり。

最後に佐伯さん、山崎さんといっしょに有馬住宅へ。1戸ずつ配って歩くと、開いたドアの向こうから思わず笑顔が返ってくる。有馬から帰ってくると、もうあたりは真っ暗。長い1日の終わりです。ふれあいセンターではまだしばらく宴が続くことでしょう。(田 辺)



#### <編集後記>

今号は1997年12月末までを記録しました。1998年1月以降は第14号に記載します。なお、1998年5月に編集者の自宅が下記の場所に転居しました。以降の連絡等は下記の住所にお願いたします。

<新しい住所> 〒651-1321

神戸市北区有野台2丁目1の7 東ビル105号

<Tel> <Fax>

981-7511 (今までと同じです)

# 有野台 ボランティア No.14 通信

'98.7.12

有野台 ボランティア TEL・FAX (981) 7511 編集 田辺 正則

今回は '98年1月から5月までの記録です。

1月14日、第30回ミーティング。参加者は 山崎さん、高木さん、本宮さん、田辺。第4次の災害復興住宅の一元募集の結果がわかり、やはり各住宅それぞれに明暗を分ける結果となりました。今回のミーティングはその話題が中心。また、2年半にも及ぶ仮設住宅の生活の中で体調をくずされる方も多く、そういう方々の状況報告もいくつかありました。高木さんは お正月に 路上生活者の方々の炊き出しボランティアに参加されたそうで、手に技術をくれた方にも職がないという現況を目の当たりにして来られたとのことでした。

ミーティングの参加者はこの数カ月は 4~5名と少なく、メンバーの皆さんにミーティングの日時などアンケートをとることになりました。返信されたはがきを読むと、皆さん お仕事や家事をこなされながら 時間を作っておられるので、活動に参加するだけでも大変なことがよくわかりました。また、「震災ボランティアの意欲が皆様にまだあるのでしょうか。私にはもうありません。」という率直なご意見もありました。活動が長期化してくれば、当然のことと思いつつも、何とか 継続したいという気持ちを改めて強く持ちました。

(田 辺)

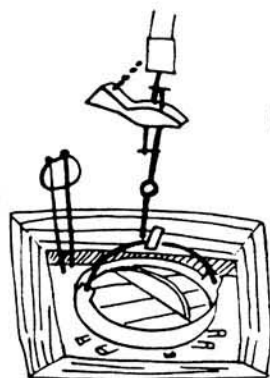
1月21日、五社住宅で 高齢の女性が亡くなるという悲しい出来事がありました。新聞には 孤独死 と報道がありましたが、数日家をあけられていた甥の方といっしょに住んでおられたこと、また 発見当日まで、役所・保健所・警察の方、自治会の役員さん、民生委員さん、ふれあい次相談員、生活支援アドバイザーの方、ボランティアなど 集まり、対策に知恵を出し合われた ことなど何度も 会合を重ねられ、できる限りの対応はされていた中での病死でした。ただふれあいセンター委員長の 高田さんが書かれた 記録録(「五社仮設の記録録」)のように「身近に生活している近所の人達や 役員の人達の 不安を役所はもっと重視すべきではなかったのだろうか。そして もっと他に 打つ手がなかったのか。何か 毅然としない 気持ちが残った」という言葉に、この女性の死に対する無念さが伝わる。



五社の自治会・ふれあいセンターでは 昨年8月に起こった孤独死以後、役員さんを中心に  
ふれあい喫茶(月2回)の開始、早朝体操、安否確認の会合(月1回)など色々な機会を設  
けて、住民どうしの交流や 安否の確認に力を注がれてきただけに、住民の方々の心情を思うと言  
葉もない。

ご冥福をお祈りします。

(田 辺)



1月25日、1週間程前から雪がちつく程の寒さが続き、当然ながらこの  
日も晴天に恵まれたものの、とても寒い日に“スキヤキ”の昼食会が有馬住宅  
で行われた。

9時30分集合のはずが、何を勘違いしたのか佐伯は9時に田辺方を訪  
ねてしまい迷惑をかける。集合時間 5分程前に伊藤、甲斐田、木下が  
来る。少し遅れて宮本が。15分程遅れて昨夜は、本日行われる新年会の下見に行っていたと言  
い張る筒井が。訪問日程を決め、買い出しの材料の確認をし、10時すぎに伊藤、甲斐  
田、木下、田辺、筒井、宮本、佐伯で西山ストアで材料を購入する。有馬に行く前に田辺の運  
転する車で伊藤、筒井が甲斐田、木下と共に土鍋を取りに家に帰る為、宮本、佐伯は先に  
有馬住宅へ。

この日を心持ちにしていた松原さんと話をしながら、台所で調理台の準備く押し入れに入  
っている折りたたみ式のテーブルを出しただけだが…>をしていると伊藤、甲斐田、木下、田辺、筒井  
が到着し、材料を車から降ろすとすぐ、伊藤と田辺は第2住宅に訪問へ。

宮本、筒井の指示に従い 玉葱の皮むきetcを行う。毎回思う事だがボールが足りない…  
<仕方なく今回も野菜の意に反して(?)お風呂場の水道で洗われたものタタ教有り>。

途中で、平山さんが来られ「昨夜の寒さで水道管がまた壊れた、今週に入  
って2回目だ。」とブツブツ言いながら部屋にもどらぬてしまう。



準備ができ、そろそろロビーにいかなくては...と思っていると、どこで匂いを嗅ぎつけたのか、いつの間にか、ふれあい交番の武平さん、平山さん、外原さん、田村さんが来られている。12時30分からの予定ではあったが、1時間程早く食事会を始める。コンロに火をつけ、鍋に野菜などを入れ始めていると、箕さん、食事会初参加の加藤さん、そして生活支援アドバイザーの男性3名、少し遅れて北鈴蘭台に転居された小林さんが来る。



4つあるテーブルを2つずつくっつけ、2つのテーブルを作る（お鍋は1つのテーブルに1つずつ置く）。1つのテーブルには、武平さん、生活支援アドバイザーの男性3名、外原さん、田村さん、平山さん、小林さん、松原さん、伊藤が座り、平山さんと松原さんは「お肉ばかり食べるな!」etcとみにくい(?)争いをし、小林さんと武平さんは料理酒で楽しそうにしている。もう1つのテーブルには箕さん、加藤さん、



さん、甲斐田、木下、田辺、筒井、宮本、佐伯が座り、筒井が甲斐田、木下のお皿に野菜やお肉を入れながら、箕さん、加藤さんの近況を尋ねながら食べる。途中で、松原さんが「野菜は沢山食べてもいいが、お肉はちゃんと残しといて!!」と言って、お母さんに食事介助をいし席をはずされる。30分程で戻ってこられ、もう1度食べ直しをし食後のコーヒーを飲みながら集会所の外の水道に大きなツララがきているなどと雑談される。

あっという間に楽しい一時間が過ぎ、みなさん満足そうな顔をしてくださる。

御飯が少し少なかったのか、大量に生野菜とお鍋の中に野菜とお肉が残ってしまう（やはりお肉は残らなかった...）。お鍋の中の野菜は平山さん、外原さん、松原さん、部屋に入るが食事会に出てこられなかった森さん、小澤さんに食べていただくことになる。それでも残ってしまった野菜はボランティアがいただくことになり、甲斐田、木下、伊藤が大量の生野菜も（メンバーに押し付けられた伊藤が）いただくことになった。く甲斐田さん、木下さん、伊藤さん、すみませんでした。...でも、おいしかったでしょ?>

片付け（皆持ち分(?)の仕事をしてはいますが、お皿洗いは宮本が、伊藤は掃除機をかけているくいつも有難うございます>)を終えるといっもの様に松原さんが「今日は楽しかったな〜。おいしかったな〜。ありがとう。」とねぎらいの言葉をかけてくださる。少し雑談をした後、有馬集会所を後にする。

出し忘れて使用しなかった、包丁やまな板etcを 田辺方に返して解散となる。

皆さん本当にお疲れ様でした。

(佐伯)

2月4日、五社住宅で 中年の男性が亡くなりました。住民の方も、私たちボランティアもお気な方との認識があり、ショックの大きい出来事でした。今となれば ご冥福をお祈りするよりほかありません。

(田 辺)

2月11日、五社住宅で お餅つき。参加者は五社の方、有野台ふれあいまちづくり協議会の尾本さん他10名、ボランティアは 平田さん、高木さん、伊藤さん、本宮。8時頃より準備開始。ふれまち協議会の方が道具一式、用意して下さる。毎年のことなので段取りよく非常にスムーズ。私が10時半に来た時は 40kgの餅米が 小餅、おろし餅に変わっていた。



一方のグループでは 一所帯当り かはぎ2匹、車えび2匹、はまぐり1つ、舌びらめ一匹、ぶりの切身、キス2匹を用意してくれていた。又もやゴージャス。

おぜんまいを作っている傍、有野台の他の仮設住宅の方へ配る餅の袋詰、又 五社住宅各戸への袋詰があっという間に出来る。何という 夕祭のいいこと。渡邊健さん、前本さん 達も遊びに来てくれて 小栗しいやら、小兎しいやら。楽しいひとときも あっという間に過ぎ、又皆で後片付け。前日、予定したより、はるかに早い時間に終わる。いつも、いつも頑張っている皆様、お疲れ様でした。

(本宮)

2月13日、第31回ミーティング。参加者は初参加の瀬井さん、高木さん、平瀬さん、本宮さん、田辺。今日からボランティアに加わることになった瀬井さんは 北鈴蘭台からの参加。仕事を

リタイヤされたあとは、ヘルパーの勉強をされたり、カー・ボランティアをされたりと充実した日々を過ごされているとのこと。お話ししているとこちらも元気をもらった気分になる。さっそく五社のグループに入いただき、きょうから活動が始まるようだ。

今回は各住宅の活動状況の報告が中心。第4次の災害復興住宅の一元募集の結果、5~6月には、各住宅ともかなり戸数が少なくなりそうだ。(田 辺)

2月22日、五社ふれあいセンター2周年パーティー。参加者は五社の方、民生委員の前田さん、ふれあい交番の武平さん、有馬警察の土井さん、有野台ふれまち協議会の尾本さん、ボランティアの高木さん、本宮。

11時より高田さんの司会で始まる。来賓の方々の挨拶。この1年を振り返り、様々な出来事、楽しいことや悲しいこと、又恒久住宅への転出後の、残った住民の方とのふれあいセンターでの私達のつき合い方、住民減少後の安全、安否確認など。人が少なくなればなるほど、ふれあいを密にしていきたいとの思い……。これからは仲良くして下さい。高田さんより山本周五郎の下町の世界がここにあるという意見、全く同感。皆様が恒久住宅に一日も早く転出される事を望みつつも、寂しい思いが募る。

さて、挨拶が終わると立食パーティー。お寿司、ジュースが用意され、色々な人と歓談。あ、という間の二時間が過ぎました。住民の方の全員が恒久住宅に一日も早く入居できる事を祈ります。(本 宮)



2月15日、第2住宅で豚汁とおにぎりの昼食会。参加者は第1住宅が若井さん、豊富さん、第3住宅が谷垣さん、川添さん、第2住宅が山田さん、峯吉さん、堀江さん、新屋敷弥生さん、まーくん、まみちゃん、斎藤妙子さん、おみさん、荒川博美さん、ひなみちゃん、健太くん、西田さん。ボランティアは田辺、佐伯、木下、甲斐田、伊藤。

9時30分、田辺さん方に集合して、ミーティングのあと、皆で西山ストアへ買い出しに行く。料理は





西田さんが主になって下さる。皆で大根、にんじん、ねぎなどをきざんだり、小芋を洗って皮をむいたり、手早く出来上がった。おにぎりは斉藤まなみちゃんも手伝ってくれた。その間、田辺さんは有馬の訪問に行き来される。来て下さった人たちは子供さんを入れて15人位。けっこうにぎやかで皆さん、おいしいと食べて下さる。子供たちが走りまわって、にぎやかだ。

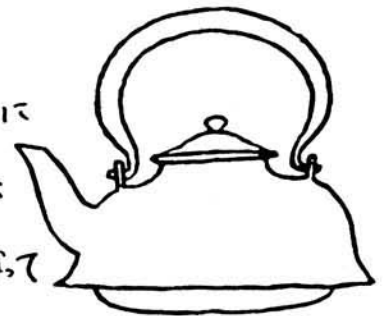
食事会が終わるころ、田辺さん、伊藤で安否の確認に出かける。谷口さんは来客のため、食事会に出られなかったと話される。森口さんは食事会が明日だと思っておられたそうで、来ていたけなかつた。今回、食事の前に声をかけてもらえなかった。申し訳ないことをしたと後悔している。

佐伯さんは最初から風邪でつらそうだったが、食事が出来上がると、食べることもなく帰られて、気の毒だった。元気になって下さい。食事後の後片付けは第2住宅の皆さん(主に斉藤さん、新屋敷さん、荒川さん)がして下さい。岩崎さんから、ボランティアにと、お花をいただく。せっかくですから、5人で分けて持ち帰り。 (伊藤)

3月8日、第2住宅昼食会。ボランティアは筒井、伊藤が参加。有馬住宅の訪問に少し時間がかかり、ふれあいセンターに到着したのは11時だった。近くのコープで急いで買い物をする。料理にかかったのは11:30ごろ。

いつものとおり西田さんが手伝って下さる。先月もそうだったが、斉藤まなみちゃんがお伝いを楽しみにやって来た。4年生位だろうが、つぶらな瞳のかわいい子だ。そして「何、切ろう」と言って待っている。筒井さんがこんにやくの切り方を教えると、ていねいに切っている。その次は青ねぎを切ってもらう。教える小生は料理と言えばインスタラーメン程度なので良くわからない。それで「このくらいで行ってみるか」等といいかげんである。

この辺で後は筒井さんにお手伝いして、私は住宅の方の安否の確認に出かける。その際、全戸にお声をかけて、食事会にお誘いし、2~3人のおに出来たら手伝って下さい、とお願ひする。12:30頃には皆さんお集りになって



お待ちかねだが、ご飯の方がなかなか炊けない。それでももうすぐお祭りになる復興住宅の話し等でにぎやかに過しておられる。しかし当選されていない方もいらっしゃるので複雑だ。子供たちはにぎやかに走り回っている。

さて、料理の方は森口さん、市原さんも手伝って下さって、1日過ぎにやと食べれるようになった。今日のごちそうは“山菜炊き込みごはん”と<sup>わかめ</sup>若布、とうふ、ねぎの“おみそ汁”、それにおけもの。皆で食べるとおいしい。皆さんもおいしいと言って下さる。

昨日は真冬のように寒かったのに、今日は快晴で、まるで春のよう。お天気もいいので、少し遠い住宅の人も来て下さって、楽しいひとときでした。

食事に来て下さったのは21名で、次のとおりです。  
第1住宅の住田さん、永井さん、第3住宅の谷垣

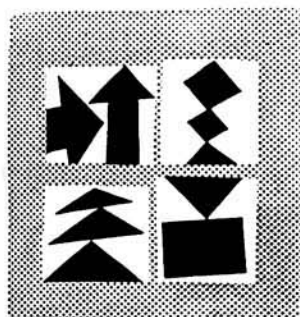
さん、川添さん、五社住宅の高田さん、新屋敷さん、東有野台住宅の船倉さん、第2住宅の西田さん、森口さん、市原さん、新屋敷さんご夫婦とまーくん、まみちゃん、山田さんとお孫さんのななみちゃん、せいやくん、斎藤史朗さん、まなみちゃん、ふれあい交番の武平さん。

(伊藤)

3月18日、第32回ミーティング。参加者は松田さん、道信さん、佐伯さん、瀬井さん、本宮さん、高木さん、田辺。今回のミーティングの話題の中心は4月5日に行われる有野台、五社、有馬の6住宅合同のお花見です。前日、五社住宅の高田さんと第2住宅の西田さんと私で集まり、今回のお花見も昨年のクリスマス会と同様に、分担を決めて行くことになり大まかな段取りを話し合いました。その結果、ボランティアの担当はビンゴゲームとそのプレゼントの購入。きょうミーティングに参加した者が1人8個ずつプレゼントを購入することになりました。最終的には、参加者が予想外に増え、プレゼントを買いたすといううれしい悲鳴を上げるようになりました。

もうひとつの話題の中には復興住宅への転居のやすや再募集の発表の結果などです。仮設

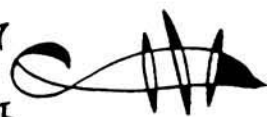
住宅から恒久住宅に転居される方の中で、転居先のボランティアにつないでいく必要のある方の確認なども話になりました。



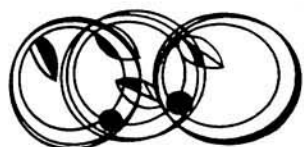
最後に就職のため、今回がミーティングの最後の参加になる佐伯さんにひと言しゃべってもらいました。彼女は有野台ボランティアの始まりのときからずっと活動にかかわってくれたのですが(その頃は高校生でした)、仮設訪問や茶話会・食事会などで住民の方と接することで「人に接すること、人とおしゃべりすることを学んだ」と言葉少なに語ってくれました。(田 辺)

3月29日、有馬住宅昼食会。9時30分に田辺の方に集合、10時30分まで“4～5月の行動のミーティング”。その後宮本・佐伯は第2住宅の訪問に。甲斐田・木下・田辺・伊藤は机や椅子を車に積み込んでから昼食の買い物をする。そして別々に有馬に向う。住宅に到着したら(夕飯? 寝坊? のため)現地直行の筒井が先に来ている。「私が一番だった」などとのたまいながら、準備にかかっていた。

部屋の中では、コーヒーを作ったりして、いつもの通り松原さんが今や遅しと待っておられた。この人は寛さんとともに、集会所の運営や住宅の人のために御尽力だった。そしてもう一人、筒井が叫んだのだろう、外原さんがコーヒーを飲んでおられる。この人は私たちのお茶会を本当に楽しみにしておられた人だ。



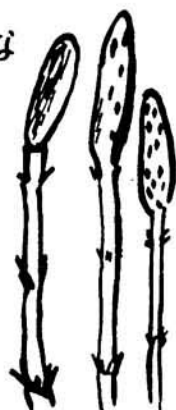
さて、今日の昼食は買って来た“にぎり寿司”である。4月になると、ほとんどの人が次々とこの有馬住宅を後にされる。そのため、この住宅の昼食会も今回が事実上の“打ち上げ”になると思われる。それで少し上等のお寿司でと言うことになった。それに“おみそ汁”。さっそく女性陣に準備にかかってもらい、岡部さんも手伝って下さる。この人も住宅が決まり、とても嬉しそうだ。



男どもは松原さん、呉さんと外にテーブルのセットをする。そして間もなく、みそ汁も出来上がり、皆でテーブルに着く。住宅の方は上に書いた松原

さん、寛さん、外原さん、岡部さん、呉さん、それに吉村さん、平山さんの7人です。出て来られなかった田村さん、大山さんにはお届けすることになりました。

お寿司にも皆さん、色々とお好みがあって、「私はこれはため」とか「じゃあこれと交換しようか」等と楽しい食事会が始まった。だが、別れる日が迫ったと言う思いが胸の中にあり、「みんな散り散りになるんだな」と誰かが言う、言葉が繋がらない。3年にもなる仮の住いの生活、長く辛かったが、今となっては一抹の愛着もあるでしょう。複雑なお気持ちが出て来る。



今日はここでひとつの報告があります。発足当初から有野台ボランティアの中であって、長い間、頑張ってくれた佐伯しおり君が就職のため、いったんボランティア活動をやめられます。専門的な知識を身につけて「特別養護老人ホーム」の職員という道に進まれることになりました。本当にご苦労までした。今後の御活躍を祈ります。(伊藤)

4月5日、切畑公園で6住宅合同のお花見が行われました。今回も昨年末のクリスマス会と同じように、有野台第2住宅、五社住宅、有野台ボランティアの共同で催されました。

ボランティアの集合時間は開始時間の30分前の午前10時半。切畑公園に着くと、もう五社住宅の数名の方が来られていました。今田さんが「来るのが遅いかな。場所が違うかと思って、ほかの所にも行って来たで!」と私に声をかけられる。五社住宅の皆さんの気合の入りが違う。今回はこの4月、5月に仮設住宅を出られ、小恒久住宅に移られる方も多く、また小恒久住宅に入居された方が小裏にもあてもどって来られ参加されたという方も多い。それで参加者の合計が90名以上。こんな盛大な会はこれまでも初めてです。参加者の多さにお弁当とプレゼントが足りなくなり、お弁当は五社の高田さんが、プレゼントはボランティアの道信さんが買いに走って下さいました。

11時過ぎには皆さんそろわれて、思い思いに車輪になられ、お弁当を食べ、ビールやジュースを飲みながら、別れを惜しみたり、また小裏の人々と会話をしながら、







あちこちから笑い声やにぎやかな声が聞こえてきます。ここに参加された方々の名前を記しておきたいと思います。何人か抜け落ちた方がおられたら申し訳ないと思いますが、できるだけ書きとめて見ます。

第1住宅は永井さん、第2住宅は森口さん、谷口さんご一家、山田さんご一家、荒川さんご一家、堀江さん、西田さんご夫婦、新屋敷さんご一家、岡田さんご夫婦、西川さんご一家、小田さんご一家、本田さんご一家、渡邊健さん、東有野台住宅は松倉さん、三宅さんご一家、五社住宅は喜多村さん、請田さん、大塩さんご夫婦、今田さん、岡井さん、森田さん、大森さん、久保さん、佐藤さんご夫婦、野口さん、加藤さん、関戸さん、岩瀬さん、中村さんご夫婦、吉岡さん、畔本さん、木尾山さん、橋本さん、高田さんご夫婦、西岡さん、中西さん、堀内さん、竹田さん、前本さん、有馬住宅は松原さん、呉さん、外原さん、第3住宅は谷垣さん、川添さん、藤田さんご一家、有野団地からは鳥さん、岩崎さん、田中さん、ボランティアは松田さん、道信さん、平瀬さん、山崎さん、平田さん、向井さん、波来谷さんご一家、本宮さん、高木さん、宮本さん、伊藤さん、筒井さん、田辺、ふれあ交番の武平さん。

宴もたけなめ、ビンゴゲームが始まりました。まだ飲み足りないという方もおられましたが、ゲームが始まるとけいこう盛り上がり、私と山崎さんが交代で番号を読み上げ、それを筒井さんが模造紙に書きとります。1回1回の番号の声に一喜一憂される方が多く、五社の畔本さんなどはなかなかビンゴにならないので、どんどん前に出て来られて、私のすぐ目の前まで来られました。そんな中、どんどんビンゴになる人が出て来て、賞品はなくなっていきます。賞品の中で一番人気があったのがプラスチック製で引き出しのついた小物入れ。ボランティアのたれが「買われたものかわかりませんか」、あの値段でよく買ったなあと感じ。それはネカメの方でビンゴになった方が持て行かれ、あっという間になくなってしまいました。ビンゴになって一番喜んでいたのは五社の西岡さん。両手を挙げて全身で喜びを



あらわしておられました。1時間もしないうちに全員ビゴになって、皆さん賞品を手にとられました。包装された包みの中にはどんなものが入っていたでしょうか。開けてのお楽しみというところです。

そのあとは皆さんに温かいお茶をお配りしました。途中で今日引っ越しされる第2住宅の斉藤さんご一家がトラックを公園のそばにつけられて、第2住宅の皆さんとしばらく別れを惜しんでおられました。

2時をまわった頃、そろそろお開きにしようということになり、片付けもはじまりました。皆さん、別れを惜しまれる方、ほろ酔い気分になって帰られる方など色々でした。五社のヤケ田さん、堀江さんなど何名かの方があと片付けを手伝って下さいました。本当にすばらしい天気と満開の桜の下で楽しいひとときを過ごすことができました。行く春を小昔むん々集いナリ。

(田辺)

4月15日、第33回ミーティング。参加者は松田さん、平田さん、本宮さん、清水さん、平瀬さん、伊藤さん、高木さん、田辺。

各仮設住宅に入居されている方が減少する中で、これまで各住宅で個別に行われていた茶話会や食事会を6住宅合同で行うことになりました。暖かい間は2か月に1回のペースで有野台の公園での食事会を予定しています。第1回目は5月24日に湯谷川公園で行うことになりました。

各グループの活動状況では、各住宅とも次々に転居される方の報告がありました。また新年度のボランティア保険の登録や1年間の活動費の請求のことも話題になりました。(田辺)

5月4日、埼玉県所沢市の赤門塾のさつき祭に出かけてきました。ホールは毎回凝った素敵な装飾が施されるのですが、今年の装飾はまたすごい。田宮さんご夫婦が前日から夜遅くまで準備されたもので、田宮俊和さんの話では、「塾の中を全部おおってしまて全く違う空間にしたい」というとてしたが、不思議な素材の紙でおおわれ、抽象的な緑や黒の糸でおおわれた素敵な空間ができ上がっていて、これを1日でなくしてしまうのはもったいないと思うほどの素敵でした。この中で

話をさせてもらえるのですから、本当に幸せなことです。

まず私の方から震災ボランティアの活動報告をさせていただきました。2年前の赤門  
塾さつき祭のときは活動を始めて1年間の仮設住宅とのかかわりを話しましたが、今回は  
その後を中心に2年目以降、現在に至るまでの活動のようすを話しました。

第1に 私たちがかかわっている6つの住宅での住民の方どうしの交流がどのようにになっているか  
ということ、ふれあいセンターや集会所での取り組みやその交流の中で住宅ごとに核になる  
役割をもつ人が出てきたこと、その人たちを中心に自ら助け合う生活が送られていることや逆に  
人間関係の難しさからいい関係が保てなくなったことなどを話しました。

次に仮設住宅で起こった問題として アルコール依存のこと、老人性痴呆のこと、孤独死の  
ことなどを報告しました。最後に各仮設住宅で、恒久住宅への転居に伴い、住民の数が減  
少する中で、私たちに今後どういう活動が必要になるかということで、ふれあいセンターでのふれあい  
喫茶などの援助や、残された方へのケア、恒久住宅へ移られる方でフォローの必要な方を  
その地元のボランティアにつないでいくことなどを話しました。

そのあと質疑応答も行われ、桂川さんからは人間関係の難しいときにボランティア  
はその中に入ってどう対応するかということ、また3年間の長い間 ボランティア活動を続けて  
いけるエネルギーの源は何かという質問があり、又重さんからは学校で震災後の子供たち  
に対するバのケアはどのように行われているのかという質問も出されました。

重たい話のあとは長谷川 摂子さんによる語りです。今昔物語から観音さまのお話  
を2話してくださいました。特に2話目は出雲弁による語りで、あっちこちの家から田植えを頼  
まれた娘が困ってしまって観音さまに助けを求めると、田植えの日には観音さまが自ら田植えをし  
て、娘を助けてやる話なのですが、その語り口が実に楽しく会場を爆笑のうずみに誘いました。

3人目は<sup>うらびの</sup>藤野 勉さんのピアノ演奏です。曲目はドビュッシーの「二つのアラベスク」と「ベルガ」



マスク組曲」で、プロの演奏を目の前で聞けるのですから、もう何も言うことはありません。

しなやかな指の動きに圧倒されて、聞き入っていました。そのあと桂川潤さんのリコーダーとのデュエットでバロックの音楽が演奏されましたが、その和やかな演奏にうっとりとしてしまって、私はいつの間にか浅い眠りの中にいました。



続いて震災チャリティーバザーが行われました。出品されたのは千葉晴彦さんのステンドグラス、松本義三さんの水彩画、中川猛さんの立体作品、遠山小吾さん、石毛孝友さん、咲山さんの焼きもの、桂川潤さんの木製パズル、川瀬範子さんの草花アクセサリー、赤門塾の子供たち



が桜の木を使って作った色えんぴつのブローチなど。いずれもすばらしい作品ばかりで、この作品群が室内装飾をほどにしたホールの中に並ぶわけですから、室内は展覧会会場のよう。眺めるだけでも十分に心が満たされていきます。1時間ほどの間、参加者が作品を見て回りながら、目ぼしいものには自分の名前を書いた紙を置いていく。競合した場合は抽選で購入者が決まるという形です。決して安い品物ばかりではないのですが、最終的には完売。売り上げ金額は私たち有野台ボランティアに活動費として振り込まれることになります。こういう楽しい催しの中で皆さんが自然な形で資金援助をしてくださることはありがたいかぎりです。また活動していくときのエネルギーになるようにも思えます。本当にありがとうございました。

最後は句会です。参加者が2句ずつ投句したものを皆で採点し、選んでいくもので、ここでは多くの得票を得た句を何句か紹介しておきたいと思います。「うかれ猫 昨日のことは 知りません」「花びらの 消えゆく先に 闇よどみ」「ウロウロと フジニまわる 春の夜」「<sup>あじ</sup>主なき 仮設の窓に 春の月。

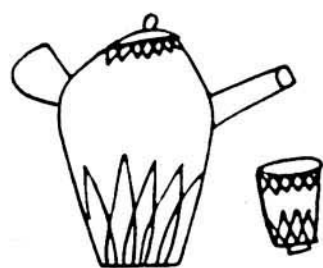
このあとはごちそうを前にして盛大な宴会が催されました。楽しい1日は果てるともなく続いていきました。

(田 辺)



5月8日、五社住宅茶話会。これまでも五社住宅の方々が月2回のふれ





あい口契茶を行っておりましたが、小恒久住宅への転居で住民数が減少したこともあり、住民主催、ボランティアの協力という形で毎月第2・第4金曜日に午後1時～3時まで行われることになりました。毎回15名～20名ほどの方が参加され、和気あいあいとした雰囲気です。

楽しいひとときを過ごしています。日頃活動に参加されるのが難しい方も、飛び入りでもけっこうです。ぜひ一度、ご参加下さい。

(田 辺)

5月18日、赤門塾長谷川宏さんより28万3200円の入金がありました。先日のつき祭のバザーの売り上げとカンパがその内容です。本当にありがとうございました。(この入金は'98年度分に含まれるので、今回の会計報告<'97年度分>には入っていません。)

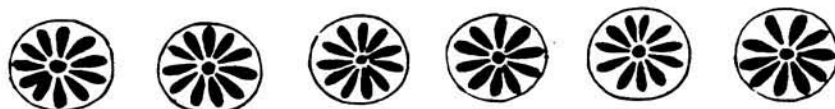
5月21日、第34回ミーティング。参加者は瀬井さん、平瀬さん、松田さん、本宮さん、田辺。5月24日に行われる食事会の打ち合わせと人数の確認などの話をする。各グループの活動状況は前回に続き、小恒久住宅への転居の状況が中心。第3住宅では残った住民の方の話し合いで、4月末をもって集会所を閉めることになりました。住民の方の戸数が4戸となり、維持管理していくのが難しくなったためです。

(田 辺)

### <編集後記>

会計報告が遅くなり申し訳ありません。'97年5月から'98年4月までの会計報告です。P15をご覧ください。

次号(15号)は9月には発行の予定です。次回は'98年9月までの記録をレポートするつもりです。



# 会計報告書

平成9年5月1日～10年4月30日

## <収入の部>

| 項 目    | 金 額     | 備 考              |
|--------|---------|------------------|
| 助成金収入  | 100,000 | 兵庫県社会福祉協議会.      |
| 寄付金収入  | 162,000 | 長谷川宏(152,000) 高田 |
| 受 取 利息 | 310     |                  |
|        |         |                  |
|        |         |                  |
| 合 計    | 262,310 |                  |

## <支出の部>

| 項 目     | 金 額     | 備 考                |
|---------|---------|--------------------|
| 支援活動費   | 282,088 | 茶話会開催の諸費用 花見他      |
| 消 耗 品 費 | 84,940  | コピー代(77,077) 文房具他  |
| 通 信 費   | 71,820  | 電話代, 切手代           |
| 旅費交通費   | 72,388  | 米運搬費, ガソリン代, 通行料他, |
| 備品購入費   | —       |                    |
| 保 險 料   | 24,000  | ボランティア用自動車保険 災害保険  |
| 寄 付     | 5,000   | 野いちごの会             |
| 合 計     | 540,236 |                    |

ボランティア28名

前期繰越 414,361  
 総 収 入 262,310  
 総 支 出 540,236  
 次期繰越 136,435

会 計

船 引 典 子



上記の決算について出金伝票、領収書などを照合した結果公正なものと認めます。

監 査

宮 本 民 恵



# 有野台ボランティア No.15 通信

'98.10.18

有野台 ボランティア TEL・FAX (981) 7511 編集 田辺 正則

5月24日、6住宅合同の昼食会。11時20分、平瀬さんと私がほぼ同時に湯谷川公園に到着すると、もう五社住宅の中口さん、中西さん、竹田さん、岡井さんが来ておられる。昨日までは真夏をおもわせる天気だったが、きょうは空がくもって、時々小雨がぱらついたりしている。幸い湯谷川公園には大きな屋根が2つあるので、その下に6人でビニールシートを敷く。敷き終わってあたりを見回すと、なかなか緑の豊かな公園だ。中央を清らかな小川が流れている。でもこの公園も2日前までは雑草がおい茂り、暑苦しい公園だった。4日ほど前に第2住宅の西田さんが雑草のことを教えてくださり、5月22日に本宮さんご夫婦、津瀬井さん、田辺の4人で1時間かけて雑草刈りをしたのだ。暑苦しい公園での昼食会にならずにホッとしている。雑草刈りをして下さった方には感謝。

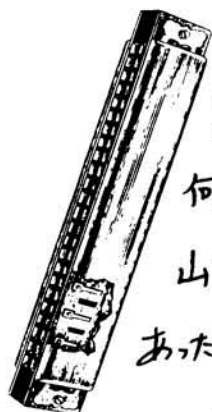
シートを敷き終わると高木さんが来られる。そのあとは第3住宅の藤田さんご一家と川添さん、第2住宅の森口さん、久米さん、堀江さん、田中さんが来られる。田中さんは食事会初参加。藤田さんのお子さんたちはさっそくブランコやすべり台へ。11時半には本宮さんがお弁当を買って登場。宮本さんは来るとすぐ有馬の平山さんを迎えに出かけていく。続いて第2住宅の西田さん、新屋敷さんご一家、市原さん、ふれあい交番の武平さんが車で到着。市原さんは食事会が今回が初参加。第1住宅からは永井さんが、有野台の団地からは岩崎さん、第1住宅におられた沼本さん親子が参加。

12時過ぎには昼食会が始まる。小雨もやみ、少し晴れ間が見えている。皆さん全体で1つの輪になるようにすわって思い思いにおしゃべりしながら食事をされている。食べはじめて少しは東有野台住宅の船倉さんが来られていないことに気がつき、私が車で船倉さん方へ。

そのとき、ひとりの男性が「飛び入りです」と言って、やって来られた。あとからわかったのだが、この方はボランティアの山下さん。ハーモニカを吹くのが特技ということで、一度お電話



でお話したことがあったが、会うのは忘れて。時間を調節して参加して下さったとのこと。さて、船倉さんをお訪ねするがおられず、途中地域福祉センターにも寄るが、そこにもおられない。松田さんとそこで出会い、湯谷川公園に戻る。戻って車を止めようとする、鳥さんが向こうから歩いて来られる。目がご不自由なので、ここまで来られるのは大変だったろう。よく来てくださった。鳥さんといっしょに席につくが、船倉さんがまだ来られていない。西田さん、高木さんが探しに行ってくたさる。しばらくすると、船倉さん、顔に汗のつぶを浮かべて登場。場所がわからなくて何度もぐるぐると回られ、もう帰ろうとしていたところに高木さんと出会われたとのこと。



船倉さんも食事をされて、ひと段落したところで、山下さんのハーモニカの演奏を聴く。「夏は来ぬ」「みかんの花咲く丘」「赤い靴」など、なつかしい曲を数曲。何人かの方はいっしょに口づさんでおられる。沼本さんがしっかり歌われているのが印象的。山下さんは震災後に有野台に引っ越して来られて、ハーモニカを習いはじめたとのこと。あたたかい演奏をしばらく聴いて、最後に「ふるさと」と「浜べの歌」を合唱。

ハーモニカの演奏のあともおしゃべりは続く。まだ恒久住宅に当選されていない方もおられるので、自然と今回の住宅募集の話も話題にのぼる。空がくもりはじめたので、雨が降る前に散会となる。

(田辺)

6月9日、五社住宅で中年の男性が亡くなりました。住民の方もボランティアもお元気な方との認識があり、悲しい出来事でした。五社の役員の方が集まられて話をされている中で、「仮設に来てからひと晩もぐらうすり眠れぬはないのよ」と言われると、他の方々も「私も同じよ」と言われたとのこと。そのとき、その場に居合わせたボランティアのひとりから「私たち、本当に(仮設に住んでおられる)皆さんのことが何もわかっていなかったね」という言葉を聞いて、納得するしかない自分がいました。

(田辺)

6月14日、有馬住宅で食事会。久しぶりに材料を買い出しに行き、焼きそばとたこ焼き



を作って食べようということが、急に決まり、宮本さん、木下さん、甲斐田さんの3人で買い出しに出かけました。きょうはもう恒久住宅に入居され、仮設を出られた小林さん、森さん、松原さんにも声をかけましたが、小林さんとは連絡がとれず、森さんは来られると言われていましたが、きょうの激しい雨のため来られず、松原さんだけが参加されました。有馬住宅からは平山さん、呉さんが参加されましたが、常連の寛さんはお仕事で不参加。少しさびしい昼食会となりました。



買い出しに行った3人のボランティアに平山さんが加わり、たき焼きの下準備。4人で水加減を調整しながら、粉をとがていきます。平山さんが「もう少し水が足りないかな」と言いながら、水を注いで、ますますの加減になったところで一度焼いてみることにしました。焼いて味見をしてみると、ホクホクとしてなかなかうまい。そのあとは宮本さんと平山さんがもっぱら焼く係り。おふたりとも小慣れたもので、巧みにたき焼きをひっくり返していく。中学生の2人も細々とした仕事を手際よくこなしている。活動に参加して1年もたつと、その成長のようすも実感できる。松原さんが「2人とも頼りになる子になってきた」と感じている。

焼きそばを焼くのは今回は田辺の係。日頃、あまり労働をせず、住民の方とおしゃべりを楽しんでいる私にしてはきょうはよく働いた。宮本さんの「材料は手でつかんで豪快にやってください」というアドバイスとともに盛大に焼きあげる。皆、お腹いっぱいになったところで4-7の中尾さんと6-7の加藤さんに昼食を中学生2人が配達。2人ともまだ休まれていた(寝ておられた)ようで、申し訳ないことをする。次回からは注意しなければ。

食後はコーヒー。コーヒー好きの平山さんと松原さんが絶妙な会話のやりとりをしている。冗談半分の松原さんの会話に以前はやうめっはなしたうた平山さんも最近では負けてはいない。



上手に松原さんの毒舌をかわして、うまく応対している。しほし 2人の会話を聞きながら笑いこける。有馬住宅はもう常時住んでおられるお宅が7軒子になったが、

それでもにぎやかな会話が聞けるのはうれしいことだ。帰りかたに箕川が来られて、メロンをくださる。片付けをすませ、鹿の子台の県営住宅に帰られる松原さんとお別れして、有馬住宅をあとにする。

(田辺)



6月18日、第35回ミーティング。参加者は高木さん、本宮さん、田辺の3名。まず7月の6住宅合同の食事会の打ち合わせ。5月の食事会でハーモニカの演奏があり、良かったということで、次回も食事会だけでなく、他の企画も組み合わせ、仮設住宅の方もボランティアも元気が出るものにしようということになる。大正琴、和太鼓、獅子舞などいくつか候補に上がり、交渉することになる。2つ目は暑中見舞いのはがきについて。今年も各住宅にお配りすることになり、滋野さんにおお願いすることになる。小豆久住宅に転居された方にも出すことになる。続いて、「ゆうめ会」(北区精神障害者を支える市民の会)の賛助会員として、5000円の寄付をすることが決まる。

各グループの活動状況では、東有野台住宅が常時居住されている方が7軒になったこと、扶有馬が7軒、第2住宅が13軒、五社住宅が35軒など各住宅の入居者が減少していることが報告されました。

(田辺)

7月3日、2時よりこころケアセンターの石井例会。今回は精神障害者の作業所「野いちごの会」とグループホーム「れんげ荘」の見学会でした。参加者は20名ほど。有野台ボランティアからは高木さんと田辺が参加。五社住宅の訪問を終えられた津貝さんも途中から加わられました。「野いちごの会」はまだ五社にあるとき1度訪ねただけで、田尾寺に移動して行かせていただくのは初めて。

作業所に通うメンバーと見学者が直接に触れ合う場をということで、牛乳パックからはがきを作る作業工程をいっしょに体験させてもらうことになりました。牛乳パックを30分

暑中お見舞い申し上げます。



平成10年盛夏

有野台ボランティア

湯にかけて、そのあと表裏のコーティングをはがして、紙の原料を作る工程、

ミキサーで紙を細かくする工程、紙をすく工程、すいた紙から水分をとり

イロンをかける工程といくつかの工程を実際に体験することになりました。メン

バーの方が細かくアドバイスしてくださり、細かくなった紙が1枚のはがきに

出来上がっていく過程というのは何とも楽しいものでした。また作業所のメンバーの方々と

作業のやり方など具体的な会話の中で自然に触れ合うことができ、ほんわかとした作業所の雰

囲気を体験することができました。瀬井さんはもうここの常連のようで、気軽にメンバーの方に声を

かけられ、高木さんに言わせると「よいお父さん」といった感じです。

最後に作業所の職員の高野さんからお話がありました。高野さんの話では作業所の運営は経済的には決して楽な状態とはいえませんが、作業を通してメンバーどうしの交流をはかること、自分たちの作った作品が売れることの喜びを大切にしていきたいということ、作業所が地域に根ざしたものになりたいということ、また こうやってお互いに自然な形で触れ合うことによって共同作業所のことやメンバーの方たちのことを理解してもらい、世間の偏見をなくしていきたいということも話されました。2階のグループホーム「れんげ荘」も見学させていただき、充実したひとときを過ごすことができました。

(田 辺)

7月16日、第36回ミーティング。参加者は  
高木さん、本宮さん、瀬井さん、松田さん、平瀬さん、



田 辺。7月19日の5住宅合同の食事会の打ち合わせ。昨年に続き2度目の大正琴の演奏会も行われることになりました。また、各グループの活動状況では、災害復興住宅の抽選発表が話題の中心になりました。当選者が多数あった住宅もあれば、当選者なしという住宅もあり、毎回のことながら、当落をお尋ねしてよいのか迷うこともありました。

(田 辺)

7月19日、午後12時30分より 有野台地域福祉センターで5住宅合同の食事会と大正琴の演



奏会が行われました。昨年9月に続く、2回目の大正琴の演奏会で、  
今回も 琴山峯会の石幾田さん、ケケ内さん、田藤さん、浜岡さんが演奏して  
くださいました。

参加されたのは、五社住宅からは橋本さん、植田さん、梶山さん、  
中口さん、野口さん、斉藤さん、大森さん、大塩さん、請田さん、久保さん、鈴木さん、第1住宅から  
は転居のため、これが最後の参加となる永井さん、第2住宅は堀江さん、久米さん、田中さん、市  
原さん、西田さん、第3住宅は川添さん、有馬住宅からは初参加の福島さん、有野台周辺の  
公園、小恒久住宅に参加された方では岩崎さん、田中さん、鳥さん、糟谷さん、竹本さん、松原さん、ふれ  
あい交番の武平さん。

きょうははじめに昼食。テーブルを囲んでそれぞれ おしゃべりをしながらの食事です。竹本さんと福島  
さんがお知り合いで、こういう場で出会われて お互いに驚かれていました。食事が終わったところで、  
何人か帰られたのですが、そのあとが大正琴の演奏会です。皆さんに歌詞カードをお配りして、演奏  
のはじまりです。今回の曲目は「われは海の子」「海」「まりと殿様」「上を向いて歩こう」「古城」  
「<sup>めおと</sup>夫婦みち」「ああ人生に涙あり」。石幾田さんのかけ声に合わせて、皆 歌いはじめます。皆さん  
タタ少 照れもあるのか、人数のタたい割には 少し 小さな合唱のときもありましたが、30分ほどの  
演奏と合唱を楽しみました。リクエストも今年は少なかったのですが、糟谷さん  
が「夫婦みち」をリクエスト。「私はこの歌が好きだから、きょうは何とか覚  
えて帰りたい」と言われて、2~3度 リクエストをくり返されました。なかなか  
難しい歌なので、音低がとりにくいのですが、何度もチャレンジには感じは  
した。リクエストが少なかった分、「大正琴を直接さわらせてほしい」という希  
望が何人かの方からあり、皆 楽器を囲んで、しばらく説明をうけたり、実際に弾いてみたりしました。  
大塩さんは「キラキラ星」を楽しそうに演奏されていたし、野口さんは「波浮の港」をおさやかに弾か

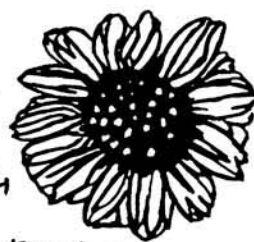




れていました。実際緊に音を出して見ると、その音色はなかなか良い響きで、しばらくは心地良いひとときを過ごしました。

そのあと時間のある人はお菓子を食べながら、お茶とおしゃべり。残っていた方も少しずり帰られて、ボランティアのメンバーで後片付けし、散会となりました。ボランティアの参加者は宮本さん、高木さん、本宮さん、清水さん、平瀬さん、伊藤さん、田辺でした。(田 辺)

8月30日、有野台第2住宅で食事会。その前に有馬住宅を訪問。住宅の外まわりは市の方が草刈りをして明るくなったが、住宅の付近は草が高く伸びていて、この住宅も終わりが近づいたことを感じる。最近までおられた吳さん、平山さんもおなくなり、すっかりさびしくなった。寛さんが引っ越しの準備をされていた。例によって差し入れをいただく。第2住宅の食事会の時間が迫っているため、ゆっくりすることもなく、集会所の壁の写真を外したりして、早々と引き上げる。9月末をもって、この集会所は閉ざされることになった。(その後、10月末までは集会所を使えなくなる。)



お弁当などを買って、約束の時間少し前に第2住宅ふれあいセンターに到着。数人の方が連れ立ってやって来られるところでした。皆さんが来られるまで安否の確認のカードのチェックをしながら、全戸にお声をかける。そして予想される人たちが集まったところで食事を始めました。食事会に来て下さった方は西田さん、田中さん、久米さん、森口さん、市原さん、坂井さん、新屋敷さん、まきまみちゃん、高野さん、ふみや君。話題はやはり復興住宅のこと。今回新たに市原さん、高木さんが当選されました。しかし当選はしたものの、これから行く所はどんなところだろう。お店などあるのだろうか」と市原さんは聞いておられました。又 当選されなかった方は本当にお気の毒です。市の方は<sup>あき</sup>幹旋と言う手段に出て来ますが、「今まで待たされたからご希望の所にお帰りになられるようがんばり下さい」とお励ましする。ボランティアの参加は宮本、木下、甲斐田、田辺、伊藤でした。第2住宅の食事会のあと、鹿の子台の松原さんをお訪ねする。「もう会えないかもしれない

と思っていた」と話されて、とても喜んで下さった。

(伊藤)



9月17日、第37回ミーティング。参加者は滋野さん、瀬井さん、松田さん、本宮さん、高木さん、田辺。まず9月20日のはたっ太鼓と食事会の打ち合わせ。そのあと11月の合同食事会の話し合い。有馬で紅葉狩りをするようになるが、滋野さんから「瑞宝寺も良いが、鼓ヶ滝の紅葉も良い」と聞いて、次回のミーティングのあと下見に出かけることになる。続いて合同食事会の費用にフェニックス活動助成金を申請したことを皆さんにお伝えする。最後に各グループの活動状況の報告。第1住宅と第3住宅に住んでいる方がゼロになる。皆さん、恒久住宅に引っ越されていく方がほとんどなのだから、喜ばなくてはならないのだが、何か寂しい感もあり複雑な心境である。私たちが関わる仮設住宅も有馬住宅、五社住宅、有野台第2住宅の3ヶ所となった。

(田辺)



9月20日、はたっ太鼓の演奏会と食事会です。11時に有野台地域福祉センターの前まで来ると、ボランティアの高木さんが出て来られて、もうはたっ太鼓の皆さんが到着されているとのこと。急いでセンターの中に入る。太鼓など道具の搬入がはじまっている。太鼓の種類だけでも4〜5種類はある。それを小学校2年生から小学校6年生までの子供たち12人と大人の方4人でホールの中にセッティング。ボランティアの方は本宮さんがお弁当を買いに行かれ、平瀬さんが仮設藤原台第2住宅に引っ越された川添さんを迎えに行かれ、残った高木さん、清水さん、伊藤さん、宮本さん、甲斐田さん、木下さん、筒井さん、田辺の8名と新屋敷まきみちゃんといっしょに来られた第2住宅の西田さんとで、イスを出したり、お湯を沸かしたりして、会場の準備と食事会の準備をする。参加者も少しずつ集まって来られる。第2住宅の堀江さん、久米さん、田中さんがいっしょに、少し遅れて



森口さんとふれあい交番の武平さん。そのあと有野団地から岩山奇さん、鳥さん。有野団地の田中さんは1番早く来られていたのだが、待ちくたびれて「用事がある」と言って帰られ、申し訳ないことをした。仮設藤原台第2住宅に引っ越された西本

んは「有野台会館と場所を間違えて帰ろうかと思った」と言われながら、入って来られる。五社住宅の方が遅いので、高木さんが車でようすを見に行ってください。じきに請田さん、野口さんが来られ、それからしばらくして久保さん、橋本さん、梶山さん、中口さん。ほぼ参加者もそろったので、演奏をはじめてもらうことにする。



初めに代表の中尾さんがあいさつをされて、子供たちは週1回3時間の練習をしているということ、練習がつらくて涙を流すこともあるが、皆楽しく太鼓の演奏をやっていること、聞いてくださる皆さんを少しでも元気づけることができればよいということなど、力強い言葉で話されました。12人の子供たちは背中にはたっぴ太鼓と書かれた黄色いTシャツに黒い短パン、白い足袋をはき、手首には金のリストバンド、頭には赤や青や金色に輝くはちまきといういでたち。両手には2本のばちが握られています。

1曲目は「ほうねん太鼓」。10個近い太鼓を使って出だしから全員で力いっぱいのはちまき。その音のすごさにいきなり目を覚まされたような気分になりました。左右の高学年の男の子2人は肩から大きな太鼓をかけ、全体をリードする役目。真ん中の2つの太鼓は3人ずつが交代で打っています。太鼓の音の迫力と「やっさー」という合いの手が入って実に小気味よい演奏です。10分近い演奏が終わった瞬間、場内からいっせいに拍手。しばらく拍手が鳴りやみませんでした。

2曲目は「祭太鼓」。これは前に出た低学年の子4人が花笠をもって祭花笠という踊りをおどる演奏です。さっきよりは少しゆたかりとしたテンポ。低学年の子供たちの踊りもかわいいのですが、太鼓の音は相変わらずお腹の底にしみわたってきます。

3曲目は「屋台ばやし」。これは全員がすわって行う打ち込み太鼓の演奏で、魂入れというしめ太鼓を前の2人がたたいて、こちらに背中を向けた7人が大小の太鼓をたたきます。真ん中で女の子が合いの手の鐘を打つという光景です。すわって太鼓を打ち込むのは腹筋を使うので大変なことですが、この演奏もすばらしいものでした。とにかく子供たちが



一生懸命太鼓に向かっている姿とその響きの両方がこちらに伝わってくるので、そのお腹の底から突き上げてくるような力はいつの間にか、日頃の私たちのもやもやを身体から解き放ってくれるように感じられるのです。最後の演奏が終わったあと、子供たちに小昔みない拍手が送られたのは言うまでもありません。



演奏会のあとは昼食会です。演奏の途中に入って来られた鹿の子台の松原さんが一足先に帰られました。ホールには机が並べられ、はたして太鼓の皆さんと参加者の皆さんが向かい合わせになるように座席が並べられました。子供たちの前にすわった五社の梶山さん、「太鼓たたいたら、たいまん手にもめがてきるやろ」と子供たちに話しかけています。子供たちもそれにうなづいたりしながら、お弁当を口に運んでいます。きょうのお弁当は大人はまつたけ弁当、子供はチキン弁当。心地良い演奏のあとの食事はまた格別のものがあります。

1時半頃、はたして太鼓の皆さんを拍手で送り出したあとは片付けです。第2住宅の皆さん、それからきょうは始めから終わりまでお付き合いくださった震災復興総合相談センター・県民運動推進専門員の角田さんも手伝ってくださって、あという間に片付けは終わりました。太鼓の響きの余韻を身体に感じながら、帰路につきました。(田辺)

10月15日、第38回ミーティング。参加者は平瀬さん、高木さん、本宮さん、田辺。まず11月の合同食事会の打ち合わせ。



今度の食事会は有馬にて紅葉狩りをする事になりました。集合場所は五社ふれあいセンター前と有野台第2住宅ふれあいセンター前の2カ所。車で送迎することになりました。今年は季節の進み具合が遅いので、きれいに紅葉していればよいが…というのが唯一の心配です。そのあとは各グループの活動状況の報告です。五社住宅と有野台第2住宅では仮設住宅の入居期限などについての説明会がありました。入居期限は3月までだが、6月までは引越え期間として考慮することなどの話があ



りました。

きょうはミーティングを早めに切り上げて、紅葉狩りの下見に出かけました。  
先月のミーティングで滋野さんに教えてもらっていた 鼓ヶ滝へ。この所 不慣れた  
天候が多く、きょうも午前中は雨が降っていたのですが、鼓ヶ滝に着くと 晴れ間も見えて来て、  
しばらくは 糸緑いっぱいの 有馬の山を 4人で 散策しました。川沿いに まだ 緑の色が美しい 木々が  
たくさん見えて来ました。この葉が 色づけば さぞ美しく紅葉するでしょう。4人とも 文句なしにここに  
しようということで 意見が一致しました。さらに 川沿いを歩いていくと、滝に到着。この2~3日の  
雨で 滝から 流れ落ちる 水の勢いは なかなか 迫力があり、しばらくは 滝の流れに見とれていた  
した。久しぶりの 森林浴に 皆 満足して、有馬をあとにしました。



※ 高木さんの知人の 浦和有志の方から 2万円のカンパがありました。貴重なカンパをどう  
もありがとうございました。



# 有野台ボランティア通信 No.16

'99.5.3

有野台 ボランティア TEL・FAX (981) 7511 編集 田辺 正則

10月25日、有馬住宅でお別かれ会を行いました。有馬住宅も残された方が2軒となり、2軒とも小垣久住宅に当選されていること、もう集会所でお茶会を開いても出て来る方がおられないこともあり、集会所を閉め、お元気カードを入れ安否を確認するだけの活動になりました。そこで最後に仮設住宅を出られた方に集まっていたさ、お別かれ会を催すことになりました。

10月は天候が不順で、雨の日も多く、当日の天気を一番心配していたのですが、参加された皆さんの日頃の行いが良いのか、久しぶりの晴天。戸外に机を出して外での食事会になりました。

宮本さん、山崎さんがお汁の具の買い出し、残った筒井さん、木下さん、甲斐田さん、田辺が机やイスを車に積み込んで、11時過ぎには有馬住宅に着きました。お汁を作るためにガスをつけようとする、火がつかないというハプニングが発生。何度試みてもダメなので、カセット・コンロを取りに帰ることになりました。

さて、11時半頃には吉村さんが到着。早く来すぎたので、有馬温泉に入ってきたそう。吉村さんは小垣久住宅に移られてから5ヵ月。「すっかり新しい住宅にも慣れました」とおっしゃっていました。そのあと生活支援アドバイザーの方、3名。やや遅れてふれあい交番の武平さんが到着。机やイスを並べたり、タープを張ったりするのを手伝っていただきました。12時前にはボランティアの佐伯さんが久しぶりにやって来ました。就職後は仕事が多忙で活動ができなくなったので、7ヵ月ぶりに顔を見ました。集会所の中では宮本さん、筒井さん、山崎さん、甲斐田さん、木下さんがお汁を作る準備をしています。12時を過ぎた頃、6棟におられた森さんがやって来る。森さんは兵庫区の小垣

久住宅に移られて7ヵ月。このところ体調がおもたしくないとお聞きしていたので、心配していましたが、元気にやって来て、お顔が見れてうれしい。「よく来てくれました」と声をかける。そのあと、柚木さん、三谷さんご夫婦、呉さん、松原さんと続々と登場。





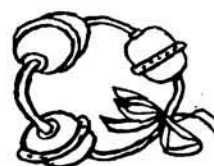
もう、12時半を過ぎたので、まだ来られてない方もあるが会を始めることにする。松原さんが音頭を取って、ビールとジュースで乾杯です。乾杯の直後に箕さんが登場。テーブルの輪の中に入られる。お寿司を食べながら、おしゃべりの花が咲く。漢住区に新居を建てられてもう1年10カ月がたつ木村さんとは本当に久しぶりの再会。とてもお元気そうで、先日も旅行をされて来たとのこと。「久しぶりに皆さんに会えてうれしい」とおっしゃる。三谷ナダ子さんは新しい住宅で自治会づくりをされているとのことだが、役員のなり手が少なくて困っていること、役所が自治会づくりに協力的でないことなどいくつかの悩みを話されていた。その話から小恒久住宅に移ったあとの人間関係を作っていくことの難しさを考えさせられました。三谷さんはシルバーハイツ(高齢者用の住宅)に入られているのですが、引っ越しされて1年の間に同じ住宅の方が4人も亡くなったとおっしゃっていました。ついの住みかに落ち着いてホッとするとそれまでの疲れが出るのが、いまでも亡くなった方のことを聞くことがあります。この食事会のテーブルの中に姿があるはずの S さんも亡くなって、さびしい思いです。

1時にはボランティアの伊藤さんが登場。かわいいガヤガヤとおしゃべりが続くうちに2時になりました。<sup>平山さんが</sup>娘さん、お孫さん2人といっしょに須磨区の名谷からやって来られました。8月に引っ越しされて2カ月で、「まだ新しい環境になかなかなじめない」と言われていた平山さんですが、来てくださって良かった。あまりゆっくり話はありませんでしたが、平山さんも「たくさん集まるとやっぱりいいね」と言われていました。

全員そろったところで記念写真を撮ろということになり、テーブルのところに勢ぞろい。甲斐田さんと木下さんがたのしい絵をたく



さん書いてくれた有馬住宅お別れ会の模造紙を持って、伊藤さんが数回シャッターを切りました。写真がでさがるのが楽しみです。記念撮影のあとは帰る方もおうけ、生活支援アドバイザーの方3名と武平さん、箕さんが最初に集会所をあとにされました。そのあと、吉村さん、平山さん、松原さん、呉さんと次々と帰られました。帰り際には皆さんには記念品の湯のみ茶わんと木下さん・甲斐田さん手づくりのキーホルダーや小物が手渡されました。残った森さん、柚木さん、三谷さん夫婦とはコーヒーを飲みながら、ひとしきりおしゃべり。三谷雅睦さんは戦争中の話をさかんに聞かせてくださいました。



3時半には皆さん帰途に就かれて、ボランティアであと片付け。何かあわただしく1日が過ぎた感があり、もう少しゆっくり皆さんとお話したかったという気分があとに残りました。4時には片付けを終え、私たちも集会所をあとにしました。

なお、当日は出席されませんでした。當谷さん、米田さん、大山さん、岡田さん、外原さんから丁寧なご返事をいただきました。ここに書きそえておきたいと思います。(田辺)

11月13日、金曜日、晴天、有馬・鼓ヶ滝公園へ紅葉狩り。暖かいとの予報に喜びが倍加する。もう、有野台第1住宅・第3住宅・東有野台住宅は引っ越してしまわれ、有馬住宅もお二人が残っておられるが、参加されないのので、有野台第2住宅と五社住宅のふれあいセンター11時集合ということになった。

第2住宅には田辺さん、宮本さん、山崎さんが行って下さり、五社には本宮さん、瀬井さん、平瀬さん、高木がお迎えに行った。少し早い目に五社に着いたら、今大森さんが引越して行かれたと聞き、お別れ出来ずとても残念だった。又、いつも大森さんと一緒にお世話役をして下さっていた久保さんも数日前に引越され、今日の紅葉狩りに参加されるはずだった岩瀬さんも引越してしまわれたとのこと、何と急テンポに次々と引越してしまわれ、喜ばしいことなのだが、淋しさを禁じ得ない。でも今日は引越して





て行かれた森田さん御夫妻、高田さん御夫妻、竹田さん、吉岡さんが近く遠くから来て下さり、懐かしい再会の場面もあった。参加予定の中口さん、宮本さんはお仕事の都合で欠席、結局五社からは三原さん、野口さん、請田さん、橋詰さん、植田さん、北尾さん、大塩さんが参加される。有野台第1から藤原台の仮設に暫定居住され、現在はアドベント病院に入院中の西本さんも外出許可が出て、参加されることになった。



瀬井さんの大きな車、鹿の子台から乗って来られた高田さんの車、お弁当の入っている本宮さんの車、おやつが入っている高木の車に分乗し、瀬井さんを先頭に一路、鼓ヶ滝に出発。よく道を知っておられる瀬井さんが有馬の宿場街の細いくねくね道ではない大きな道を通って下さったので大助かり、それでも迷子にならないようにして行った。

鼓ヶ滝に近付くにつれ、人がふえる。瀬井さんの車は大きいので入口で止め、そこから皆さんに降りて頂いて滝まで歩いて頂く。少し距離があるかな? と思ったが、仮設の買物等で金銭えられた足で軽々と楽しく話しながら歩いて行かれる。本宮さんと私は食料を積んでいるので、もっと奥へ。少々厚かましいと思いながら、止めてある車の列と人の波の間を縫うように通り抜けながら、下見の時に見た一番奥のスペースを思い浮かべて車を進める。本宮さんの偵察で奥には小さな車1台分しか空いてないとのこと、本宮さんはそこに車を止め、丁度下から上って来られた五社の方々にお弁当を持って頂いた。ミニカは私は奥へ。もうすでに第2住宅の方は着いておられ、田辺さん、西田さん、宮本さんの車の間に入れさせて頂いた。

鼓ヶ滝は下を流れる川沿いの小道の両側の太木がトンネルのようになって正面の滝まで続いている。谷間のような場所で影がたくひやりとする。下見に来た時、有馬の紅葉の名所瑞宝寺公園とどうするか話し合ったが、瑞宝寺は行きやすく皆が行くし、この方が自然が大きいということでここに決めた。



今日も水がたく、滝は美しく、小高い響きを伝えてくれるが、紅葉は今ひとつ、今年は暖かったせいもあるだろう。それでも緑の間に赤くなりかけたもみじがあちらこちらにそよいでいる。前を向いたり、横を向いたりして紅葉が楽しめる。

陽が差してくる平地を選んで田辺さんが持ってきて下さった超大きいブルーシートを敷くと20畳程のお座敷になった。皆さんに周囲に座って頂く。お互いにすっかり親しくなっておられるので、自然に住宅ごとのかたまりになるが楽しい雰囲気になっていく。第2住宅からの西田さん、新屋敷さんのママと2才のまみちゃん、森口さん、田中さん、久米さん、有野団地の鳥さん、田中さん、岩山崎さん、糟谷さんが一足早く来て待っていて下さったので、「お待たせしました。サー お弁当にしましょう」の感じだった。



丁度 ふれあい交番の武平さん、生活支援アドバイザーの福田さん、玉木さん、岡さん、井上さんも有馬仮設に車を止めて歩いて来られ到着されたところだった。お弁当を配って頂いている間におやつのお袋詰めを流れ作業でポテンティアと高田さん、大塩さんに手伝って頂く。今日のお弁当はホカ弁ではなく、本宮さんが奔走して下さり、お年寄りを考えて、油ものを控えた特注品。炊きこみご飯と煮物を主としたもので量も丁度よくおいしかった。ほとんどの方が残さずきれいに食べて下さった。鹿の子台から松原さんが御病気の奥様のお世話の合間にとんて来られ丁度食事を一緒に出来てよかった。

シートに座ると冷たい！土の冷たさが体に伝わってくる。皆さん楽しそうにしておられるので分からなかったが、「あ、座布団持参にすればよかった!!」平瀬さんが新聞紙を厚目にたたんでお年寄りの方から配って下さる。そうするとだいぶ冷たさが遮られた。宮本さんが熱いお茶をついでせせと運んで下さる。田辺さんが歩き回って皆をパチリ、パチリ（後日出来て来た写真は皆さんすてきな笑顔で笑



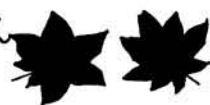
つておられ、紅葉も結構きれいだうた)。山崎さんも あの方、この方、声をかけて 皆さん出会いを楽しんでおられた。途中、ボランティアの草乞さんが授業を抜けてお友達と一緒に来られ、これもうれしい出会いだうた。

昼食後、第2住宅の西田さんは新屋敷さんの子供さんのゆめ幼稚園のお迎えがあるので一緒に車で帰られた。武平さん、アドバイザーさんもお仕事に、吉岡さんも一足先に帰られた。片付けのあと「ちょっと歩きましょう」ということで、散歩をすることになる。1グループが先に滝のそばに上って歩いていかれた。後になって私達も追いつくつもりで歩いたが、どこに行かれたのか姿が見えない。何と早いにと。土坂をよると景色が変わり上から見る紅葉もまた美しかった。山壁に小さなほこら(?)があり、本宮さんから「ここ開けて、へびよ!へびよ!」といたずらほい。高田さんのご



主人がのぞき、「ほんと」と言われると、高田さんの奥さん、大土塩さんが小布いもの見たまのようにのぞかれる。キャーワーと笑いが上る。先のグループとはとうとう会えず、下の初めの車を降りた所で待っていて下った。橋詰さんは80代、野口さんは70代後半、他の方々も何とお元気なのだろう!!...

折角だから王端宝寺公園にも行ってみようということになった。有馬の南の端から東の端へ車で移動し行ってみると、さすがもみじの名所、紅葉が進み、お日様に照り映えて、ぐっと美しい。太陽が当たり暖かく、温度差が大きいので紅葉が進みきれいなのではないかと平瀬さん。「成程!」と糸内得する。下に落ちている葉を森口さん、北尾さん、高田さん... たくさんの方が拾っておられた。又真赤なもみじを背景に皆で記念撮影。きっと楽しい思い出になるでしょう。ここはさすがに人出も多い。迷子になりそう。そういえば、さっき一緒にいられたはずの西本さんの姿が見えなくなった。皆で探したが見当たらない。高田さんが「巾着子を被った人が車の所に立ってはるよ」と教えて下さり行ってみると、本当に入口の所に止めた私の車の所に西本さんが待っておられた。



鹿の子台の方は高田さんの奥さんの車に、五社や有野台の方は田辺さん、津真井さん、本宮さんの車に、病院に帰られる西本さんは高木の車に分乗して解散となった。少し寒かったが、事故もなく、お年を召した方々も元気に参加して下さり、転居された方々も来て下さり、写真が物語るように交友を温め、紅葉と交わりを楽しみ1日となった。本当にすてきな日、ほのぼのとした感謝が心に湧いた。

(高木)

11月19日、第39回ミーティング。参加者は津真井さん、本宮さん、平瀬さん、高木さん、田辺。途中から有馬警察の仮設住宅担当の



永徳さんにも加わっていただき、仮設住宅の入居者の減少に伴ない、入居者の方々が不安(治安面など)をもたれているので、定期的な巡回をさせていただくようにお願いをする。その他ではフェニックス活動助成金が12万円おりたことが報告されました。また、仮設住宅での活動もあと1年ほどになり、仮設住宅での活動が終わったあと、引き継ぎ活動を継続していくかということも話題になりました。

11月27日、北海道の十勝岳山ろく野菜村よりじゃがいもが届きました。北海道の大地のかけをいっぱい吸いこんだような大きなじゃがいもで、さっそく五社・有野台第2・有馬の各住宅にお配りしました。仕分けは五社住宅の皆さんが手伝って下さいました。

お礼もかね、十勝岳山ろく野菜村の小玉さんにお電話をしましたところ、11月初旬に垂水区の小恒久住宅に来られて、住民の方とじゃがいもとかぼちゃの炊き出しをされたとのことです。小恒久住宅が空いているのに、個々の事情で小恒久住宅に移り住むことができず仮設住宅に住んでおられる方がまだあること、小恒久住宅に移ってから新しい人間関係や自治会作りなど困難なことが多いことなど、小玉さんの方から次々に阪神・淡路の復興の中で私たちが気





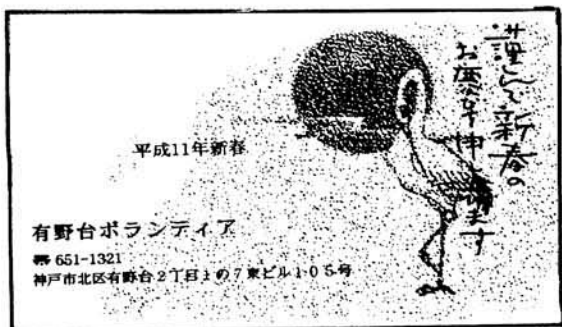
にかけている点の指摘がありました。小玉さんたちの震災支援の活動ももう4年になろうとしているとおっしゃっていましたが、仮設住宅がなくなるまでは支援を続けていきたいと、またこの101円株主運動が北海道内だけでなく、今では関東地方まで伝わり、そういう方々の支援の中でこのじゃがいもは送られているのだということを教えてくださいました。(101円株主運動というのは100円分のじゃがいもを買われた方が1円分を寄付することで、またその積み重ねによって被災地にじゃがいもを送ろうという運動です。)活動が3年半を越えた私たちボランティアにとっても こういう遠くからの支援は何より元気づけられるものです。本当にありがとうございました。

12月1日、有野台第2住宅で60代の男性が亡くなりました。同居されていたご友人が朝仕事に出られるときには、あいづちをかかされたそうですが、帰って来られたときにはもう息をひきとられていたそうです。最近はいふれあセンターで開かれる茶話会にも毎週のように出て来られ、また小巨久住宅の転居も決まり、サザン渡しも終わり、転居先の部屋の下見もされていたとのこと、何とも残念でなりません。翌日は第2住宅のご自宅で葬儀が行われ、親族の方、住民の方、ボランティアなど皆さんで最期のお別れをしました。



12月17日、第40回ミーティング。参加者は松田さん、渡辺さん、高木さん、本宮さん、田辺。1月の合同食事会ではアンサンブル神戸の矢野さん、宮崎さん、高橋さんによるフルートトリオの演奏会が行われることになりました。また今年も年賀状を仮設住宅の皆さんにお渡しすることになりましたが、小巨久住宅に転居された方で住所が変わる方には皆さんお送りすることになりました。

今回も滋野さんが素敵な年賀状を作ってくださいました。活動のあり方ではこれまでの活動(訪問活動、茶話会、2か月に1度の食事会)をうまく継続していくことが一番大切であるということを確認しました。



12月23日、有野台第2住宅でもちつき大会。午前8時に、第2住宅に着くと、ふれあいセンター前で西田さんご夫婦、漢缶区から帰て来られた西川弘重さんがせいの釜2つとぶた汁用のかまどに木をくべられている。そのあとすぐに有野台ふれあいまちづくり協議会の尾本さん、山口さん、中西さんの3人がやて来られる。せいろうに入ったもち米がまだ蒸し上がってないようで、しばらく待つことになる。そうしていると、第2住宅の田中さんご夫婦、27日には引越される久米さん、それから堀江さんと次々に出て来られる。9時にはボランティアの山崎さんも登場。いよいよもちつき開始です。

尾本さん、中西さん、山口さんが手際よくせいろうから蒸したもち米を臼の所まで運び、杵で米粒をつぶします。このつぶしの作業がけっこう大変で、これが上手につぶされっていると、あとがつくときに粒がとび散ったりせず、うまくつき上げることができます。杵をとるのは西川さん、田中さん、尾本さん、私の4人。交代で杵をふり下ろしますが、慣れない私などは力の入れ具合が下手ですぐに手が棒のようになってしまいます。一番見事な杵でばきたのは、田中さんご主人。力の入れ方に無駄がなく、つくたびに小気味のいい音が響いてきます。特に田中さんご夫婦のもちとりと杵つきの息のあっていること。あっという間にもちがつき上がっていきます。何でも毎年のようにもちつきをされているとのこと。奥さんのもちのとり方も上手でいっしょについて本当にタイミングよくつくことができました。

でき上がったもちはいふれあいセンターの中にもち込まれます。中央区からもどって来た斉藤さんとまなみちゃん、久米さん、堀江さん、ボランティアの松田さん、高木さん、山崎さんが次々にきれいなもちにまらめていきます。しばらくすると、漢缶区から帰て来られた西川美千子さん、さやかちゃん、みずほちゃん、井原光江さん、ひろみちゃんもカマドでまた第2住宅の新屋敷弥生さん、マーくん、まみちゃんもカマドわり、にぎやかにもちをまらめています。

並行して、できたてのもちをきな粉につけたり、だい



こんおろしをかけたりにしています。こちらはずぐに皆さんにふるまわれました。つきたてのもちのおいしいこと、何個でも口の中に入っていきます。お昼前になると 須磨区から谷口さん一家も到着。その他にも 有野台に転居された小林さん、仕事帰りの新屋敷健吾さん、その友人で去年ももちつきで活躍された いかりさんも加わり、つき手の人数も増え、40kgの もち米もお昼過ぎにはつきあがりました。去年 すごいパワーを出してもちをついていた新屋敷健吾さんは 今年はその片りんは見たものの仕事帰りのためか、少し疲れ気味でした。でき上がったおちは 第2住宅の方分、五社住宅に持っていく20袋、仮設住宅から有野台の団地や住宅に転居された方分、今日参加された方分など1袋に10個ずつめて、仕分けも終りました。

そのあとは4時間、煮込んだぶた汁を野外でおいしくいただきました。バーベキューなども準備されていて、炭火で焼いた 焼鳥のおいしいこと。身体もあたたかくなり、お腹も十分に満たされました。ボランティアの面々はここでお暇することにしました。高木さんが五社へのもちを積みこんで出られ、松田さん、山崎さんとお別れされると、私も有野団地の方のもちを取りにふれあいセンターの中へ。昨日から来て今朝は5時に起きられたという西川弘重さん。とても幸せそうな顔をして いびきをかいて眠っています。その顔に思わず吹き出してしまいました。その幸せな顔をあとにして、ふれあいセンターを出ました。

(田 辺)

12月25日、今日はクリスマス会。五社住宅だけでは初めてのクリスマス会。人数が少なくなつて、寂しくなった分だけ 賑やかにやろうと計画。そのための準備は18日より始まる。

18日の訪問活動の時、ふれあいセンターをクリスマス用に食料つける。リースやラモールを津

井さんが大活躍して取りつけてくれる。出来上りはとても華やか。大塩さんお製のモールを私の足が かつてに踏みつけて へチャンコにしまったが、そこは紙、無事、



復元 ヤレヤレ。梅詰さん、「こんなクリスマス出来るの最初で最後や」と喜んでくれる。すると、皆、「最後、てことはないやろ、これから何ほどもあるで」となにやらうきうき。さて明日19日の買物のリストを作る。お寿司、お菓子、ケーキ、サンドウィッチ、果物、飲み物 etc. に決定。



19日 土曜日、北尾さん、大塩さん、高木さん、本宮の4人、ふれあいセンターで待合わせ買物に行く。まずはメインディッシュのお寿司をパントリーで注文。手で取り易いように中巻を中心に。次にコープでお菓子 etc.。ニャトレゼでショートケーキ25コ、クリスマス用の飾り1つ10円で付けてもらう。又いっしょお茶会で女の人がお接待しているので、クリスマス立は誰も動かなくていいようにジュース、コーヒー、紅茶 etc も缶入りを買う。次はサンドウィッチと思ったのだが予算が足りなくなり、ふれあい交番の武平さん 推せんのパンプキンはお店見学ということになる。パンプキンと道路を隔てて、二郎いちごのジャム工場があり、ついでにジャムも買おうと行ったのだが、誰もいなくて、大塩さん、高木さん、工場の中を探検。(勿論、お店の人を捜すつもりで)「あ〜面白かった」と帰ってきた。その間、私も北尾さんもいろいろ。これで25日の準備は終了。あとは私がクラッカーを忘れずに買うことのみ。

それから一週間後の今日 25日。11時よりセッティング。カメラを忘れていたので高田さんが買ってきてくれる。12時すぎ、ばらばらと集まり、その中に引越されたばかりの小林さんがケンタッキーフライドチキンを持て来てくれていた。大塩さんの「メリー・クリスマス」の掛け声と共にパンパン、パン…とクラッカーの音。しばらくはしゃべる、食べるのみ。そしてもうすぐ引越される吉村さんが立ち上がり、「お世話になりました」と挨拶、退座される。



なごやかに歓談している姿を渡邊健さんが写真撮影してくれる。又、健さんと一緒に漢方の方でボランティア活動をされている稲垣さんがプレゼントがあるので、じゃんけんして



と言われる。プレゼントまで用意出来なかった私達は大喜び。それで一番勝ったのは森田さんのご主人、次に小林さん、請田さん、森田さんの奥さん、高田さんの奥さん、私。プレゼントを渡す時、皆さんハイポーズ。写真を非常にいやがっていた高田さんの奥さんもう仕方なく、ハイポーズ。でも ニッゴリ。その他の方は参加賞をいただく。



そうこうしていると、津賀井さん、松田さん、宮本さんも遅れて出席。しばらくして渡邊さん、稲垣さん、次の予定があるので帰られる。皆さん、お腹いっぱい、口もくたびれたところで一同そろって、記念撮影。3時30分すぎ解散。とても楽しいクリスマス会でした。

参加された方は 北尾さん、大塩さん、宮本さん、木高話さん、植田さん、清水さん、吉村さん、請田さん、高田さんご夫妻、森田さんご夫妻、小林さん、ふれあい交番の武平さん。ボランティアは 高木さん、津賀井さん、松田さん、渡邊さん、稲垣さん、本宮。(本宮)

1月21日、第41回ミーティング。参加者は松田さん、平津賀さん、高木さん、本宮さん、田辺。まず24日の演奏会と食事会の最終的な打ち合わせをしました。そのあと活動資金の報告。12/28 長谷川宏さんよりカンパ 11万3000円、12/30 兵庫県社会福祉協議会より ボランティア助成金 10万円の入金がありました。「ほかの震災ボランティアでは活動資金がなくて困っていると聞か、私たちは活動資金に困ることがなくて幸せですね」と松田さんもおっしゃっていましたが、本当に震災から4年がたち、世間では忘れられてしまったこの時期月にこれだけのカンパがあるというのは幸せなこと、いつも支援してくださる方々に感謝の言葉がありません。本宮さんから「引っ越しされた方へのお便り(年賀状)は返信があたり、電話があたり、皆さんなっかしく思っておられるよう。ときどきお便りするのも大切なことなんだな」という話がありました。そのあとは各グループの活動状況の中では、有馬住宅の入居者がゼロになったということが報告されました。有野台第2住宅では現在8軒の方が、五社住宅では

16軒の方が住まれています。それから五社住宅の入口に下記のような張り紙がありました。

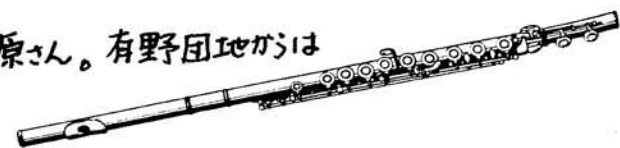
もと五社住宅のある場所はグラウンドで地元の中学生在がクラブ活動に利用していました。彼らは今は狭い校庭や別の遠いグラウンドでクラブ活動をしているので、その気持ちはわからないではないのですが、それにしてもかなりショックな張り紙でした。特に「なぜ今も

仮設住宅の方へ  
もう私達カー杯  
クラブ活動したいです。  
グラウンドを返して  
お願いします。

仮設住宅で生活せざるをえないのか」ということが理解されてないのにショックを受けました。住民の方もやるせない気持ちでこの張り紙を見られたことでしょう。

1月24日、フルートトリオの演奏会と食事会。久しぶりの演奏会と食事会だというのに、きょうは朝から雨。私が有野台地域福祉センターに着くと、演奏をしてくださるバイオリンの宮崎さんとチェロの高橋さんはもう来られて楽器の準備をされている。先に来ていたボランティアの宮本さん、甲斐田さん、木下さん、伊藤さんも机を並べたり、お茶の用意をしたりしている。そのあとすぐにフルートの矢野さんも到着。さっそく3人で音合わせ。曲の<sup>じゅ</sup>触りの部分だけを軽く合わせているだけなのに、生の迫力はすごい。ホールにバイオリンとチェロとフルートの音のハーモニーが響いている。そうしていると、ボランティアの山崎さんが登場。準備に加わる。そのあと第1住宅におられた奥谷さんが鹿の子台からやって来られる。お互いに久しぶりで「お元気ですか。もう新居にはお引越しされましたか」とあいさつをかわす。

今回の演奏会と食事会は本宮さん、高木さん、平瀬さん、松田さんが年賀状にお誘いを書かれたそうで、小垣久住宅にいられた方になつかしく思ってもらって来られる方が多い。第1住宅からは奥谷さんのほかに、鹿の子台に行かれた豊富さん、須磨からは若井さん、名谷からは福さん、漢区からは住田さん。第3住宅は名谷に行かれた谷垣さんと藤原台第2住宅の川添さん。東有野台住宅ではひよどり台に行かれた船倉さん。五社住宅では兵庫区から小林さん、漢区から佐藤さん、鹿の子台から森田さん、高田さん。有馬住宅では鹿の子台から松原さん。有野団地からは



もう常連になられた鳥さんと岩崎さん。もちろん 現在 仮設住宅に入居されている方も来られました。第2住宅からは田中さん、西田さんと新屋敷まみちゃん、五社住宅からは清田さん。それからいつも食事会に参加して下さるふれあい交番の武平さん。

雨のためか出足が鈍く、集まられる方を待って、11時半ごろにコンサートが始まる。アンサンブル神戸の矢野さんのあいさつのおと、1曲目はハイドンの「ロンドン・トリオ」第1番。フルートとバイオリンとチェロによる三重奏。音が出た瞬間にホールの中はこれまでに違う空間になり、ホールの中を美しい音が漂っていく。2曲目の前に矢野さんからバイオリンなどの楽器の説明。弓は馬の皮を使っていること、弦には松やにを塗って響きを良くすることなどわかりやすい解説をして下さる。矢野さんはこれまでに仮設住宅や復興住宅を何度もまわられ、ふれあいセンターや集会所でミニコンサートをつづけているとのこと。そのあとの曲も1曲ずつわかりやすい言葉で説明してくださり、生のコンサートをあまり目にしたことがない私たちにもその心遣いがうれしい。



2曲目はクロイツェルのソナタでこれはバイオリンとチェロの二重奏。そのあと モーツァルトの「魔笛」からアリアによるデュエットを「鳥刺し」の場面など数曲きかせて下さる。これはフルートとバイオリンによる二重奏。聞いていると、「あ、これは今までに聞いたことがあるな」と思う曲も何曲もある。4曲目はハイドンの「ロンドン・トリオ」第2番。再びフルート・バイオリン・チェロによる



三重奏だが、この曲のはじめのアンダンテのところ。とてもゆったりと包み込んでくれるような演奏に心癒されるような気分になる。5曲目はハイドンの「ロンドン・トリオ」第3番。この曲で終わりだが、アンコール用の曲もちゃんと用意してくださって、もう一曲余分に演奏してくださる。最後はハイドンのセレナード。これはバイオリンとチェロが弓を使わず指ではじいて演奏するピチカートという奏法で演奏される。

とても軽快な曲でこれも「あ、聞いたことがある」という曲の1つ。



れて、ふれあい喫茶など催されているとのこと。そのとなりの一角はコンサートで演奏してくださった矢野さん、高橋さん、宮崎さんとボランティアの伊藤さん、山崎

2月18日、第42回ミーティング。参加者は平瀬さん、本宮さん、~~＊＊＊＊＊~~  
瀬井さん、高木さん、松田さん、田辺。この何回かのミーティングは皆さんが集まってくる初めの1時間  
ほどは活動に関する事、それ以外の事も含めて雑談。これがけっこう楽しいひとときで、また同  
時に長く続いてきた活動の中ではお互いの癒しのひとときにもなっているようです。さて今回のミーテ  
ィングでは次回のコト食事会について話し合いましたのですが、3月中にうまく日程が組めそうにないで、  
4月に毎年恒例のお花見をすることになりました。仮設住宅の居住期限が3月末ということもあり、



(実際には 住宅建設や入居あせんなどで6月頃まで) 今回が最後の合同食事会となるため、有野台・五社・有馬地区合同の仮設住宅のお別かれ会と同窓会を兼ねて行うことになりました。それで現在仮設住宅に住んでおられる方には どうてご案内をし、小恒久住宅に移られた方には 郵送で返信をもらう形で お知らせすることになりました。住所がわかる方には 皆さんに声をかけようと思っています。

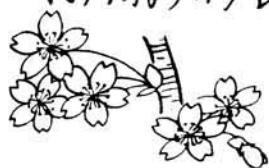


3月18日、第43回ミーティング。参加者は松田さん、平瀬さん、津賀井さん、本宮さん、高木さん、田辺<sup>ますい</sup>。4月11日に行われるお花見の会(仮設住宅のお別かれ会と同窓会)の打ち合わせ。実は有野台ふれあいまちづくり協議会の尾本さんから、仮設住宅のお別かれ会・同窓会を地域を上げて行いたいというお話しがあり、主催団体のひとつとして金銭的にも費用の半分を超えるバックアップをしていただくことになりました。それで今回のお花見は有野台第2住宅、五社住宅、有野台ふれあいまちづくり協議会、有野台ボランティアの共催で行うことになりました。

また今後の活動については、仮設住宅と関わる活動は居住者がゼロになるまで続け、活動終了時にボランティアの打ち上げ会(終りの会)を行うこと(現在のところ 9月12日を予定)、仮設住宅と関わる活動が終わったあとも、地域との関わりをもつ活動をしようという意見も出ました。(具体的には月1回の茶話会を行うこと)

4月11日、6住宅合同のお花見。合同のお花見は今回で3回目ですが、今回は仮設住宅のお別かれ会と小恒久住宅に移られた方の同窓会を兼ねて行われました。また今回は有野台の地域をあげて、仮設住宅のお別かれ会と同窓会を行うことになり、尾本さんをはじめ有野台ふれあいまちづくり協議会の方々のご協力での会が催されました。

昨日までの雷や雨がうそのようにすっきりと晴れわたった青空。これがお花見に参加した皆さんへの何れのプレゼントでした。集合時間の11時にはもうかなりの方が切畑公園に集まって来られ、なつかしい顔を見かけてはあいさつを交わしたり、おしゃべりに興じたりしてい

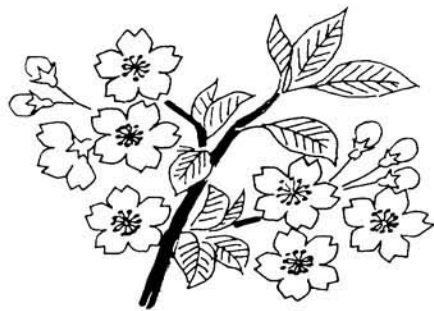


ます。11時半には弁当も届き、それぞれ弁当とお菓子とビール・ジュースを手に入れて、思い思いの場所に月夜をおろされます。今日の会の主催者を代表して有野台連合自治会長の下陸さんが簡単なあいさつ。尾本さんの音頭で乾杯をして、いよいよお花見の始まりです。初めのうちに全員で写真をとろうということになり、桜の花の下に100人ほどの人が集まって、記念撮影。伊藤さんが何枚かカメラのシャッターを切りました。カメラにおさめた方々は次の通り。遅れて来て残念ながらフィルムに入れなかった方もおられますが、今回の参加者を書きとめておきたいと思います。

第1住宅は永井さん、豊富さん、奥谷さん、若井さん、住田さん、福さん、第2住宅は安井さんご一家、小田さんご一家、西田さんご夫婦、新屋敷さんご一家、斉藤さんご一家、渡邊さん、山田さんご夫婦、井上さんご夫婦、高野さんご一家、若水さん、堀江さん、森口さん、田中さんご夫婦、樽谷さん、小林さん、高山崎さんご夫婦、西川さんご一家、井原さんご一家、谷口進さん



ご家、谷口トシコさんご家。第3住宅は谷垣さん、大前さん、浜田さんご夫婦、柳原さん。五社住宅は中村さんご夫婦、田中本さん、工藤の内さん、関戸さんご家、島野さん、森田さんご夫婦、



前本さん、植田さん、佐藤さんご夫婦、吉田さん、島山奇さん、今田さん、宮本さん、橋詰さん。有馬住宅は松原さん、米田さんご夫婦、森さん。有野団地より田中さんと鳥さん。ふれあい交番の武平さん。有野台ふれあいまちづくり協議会は下陸さん、尾中さん、尾本さん、吉

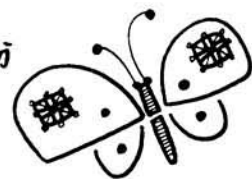
川さん、天野さん、矢内さん、清水さん。有野台ボランティアは宮本さん、森田さん、平田さん、山崎さん、大野くん、甲斐田さん、山下さん、伊藤さん、本宮さん、平瀬真さん、高木さん、木田さん、瀬井さん、船引さん、筒井さん、田辺。以上 115名の参加がありました。

記念撮影のあとは本格的な食事会になりました。皆さん久しぶりに会った方も多く話題は尽きないようで「あちらでもこちらでも話の輪が回っています。ボランティアの山下さん、得意のハーモニカを持ち出してBGM。なつかしい童謡から「鉄腕アトム」のようなマンガの主題歌まで、ハーモニカの響きが空に広がっていきます。

天気はこの上なくよくて、飲み物もどんどんなくなっていきます。太陽の日ざしが暑いくらいなので上着を1枚脱いだり、裾をまくり上げたリしながら談笑は続きます。第1住宅におられた豊富さん、この日のためにセーターを編まれたそうで、その色はさくら色。桜の色とよく合っていて、すてき。暑さの中でも豊富さんはこのセーターを脱がれなかったとのこと。

第2住宅の山田さん、にこやかに「この日本酒、本当においしいなあ」と言われ、「また来年もここでお花見がしたいね」とおっしゃいました。ほかにも何人かの方から「また来年も!」という言葉  
(2000年4月9日、90名ほどの参加で仮設同窓お花見が実現しました)

2時近くなると、そろそろ皆さんお話の方もお腹の方も満ちた気分になられたようで何人かずつ、お帰りになられるようです。最後に記念品(一



閑張り(ティッシュ・ケース)とタオルをお一人ずつ手渡ししました。記念品は精神障害者の作業所・野いちごの会で作られたもので、たくさんの注文を引き受けて下さいました。ティッシュ・ケースは 藍色の布に白い糸で模様が描かれたもの、一閑張り(小物入れ)は竹と紙でできていて1つ1つちがう糸会が描かれ、糸の横には矢豆いことばが書かれています。「かんしゃ」「ふくらむしあわせ」「何よりも無事な春を」「そんなに背のびしなくていいのにね」などなど。皆さん帰って包みをあけられて、色々な思いをもたれることでしょう。タオルは尾本さんが区役所からの品物としてもらってくださったものです。



2時半、10名ほどの方が残られ、まだ宴は続いています。ボランティアもおしゃべりをしたり、記念写真を撮ったりと楽しく過ごしました。平田さん、大野くん、山下さん、森田さん、船引さんとは久しぶりにお会いでき、うれしかったです。残られた方も席を立たれ、あと片付け。五社の堀の内さん、前本さん、島崎さんが残って片付けを手伝って下さいました。感謝!

参加者が少なかったため、準備の買い出しは大変でした。特におやつに係りを担当してくださった本宮さんと松田さん、130人分(参加予定者)のお菓子の買い出しはさぞ大変だったと思います。また、大人の記念品を担当してくださった瀬井さんと高木さん、子供たちの記念品を担当してくださった甲斐田さんと木下さん、本当にありがとうございました。お花見の前日には宮本さん、瀬井さん、松田さん、本宮さん、田辺で130人分のお菓子の仕分けを行いました。ご参加下さった皆さん、ご苦労さまでした。

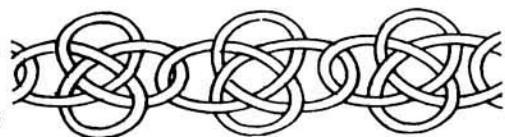
最後に残念ながらお花見に参加できなかった方のメッセージをいくつか紹介しておきたいと思います。「仮設もこめれる日も近づいて何とも言いがたい気持ちで一杯です。」「新しい住



宅に入ってもう7か月になりますが、この棟にも自治会が出来て、ふれ合い喫茶とか、カラオケ



とか、それぞれ楽しく過して居ります。でもまだ仮設に残された方達の事を考えると、1日も早く入居出来ますようにばかり祈っています。人も少なくなり心細い事でしょうが、暫くの辛抱、頑張ってくださいね。」「仮設暮らしの時は何かとお世話になりました。有難うございました。私共も懸命に頑張っております。お花見のおさそいですが、ありがたいことですが、仕事がありまして、休む事が出来ません。皆様で楽しんで下さい。」「いつもご苦勞様です。毎回、参加したいと思いながら、日々のくらしに追われ、欠席となるのが残念です。今迄本当にありがとうございました。感謝しています。」「いつもお心使い有りがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。四ヶ月たちましたが今だにこの町に馴染めません。私だけでしょうか？やっぱり仮設暮らしが良かったです。なつかしいわ……。」「知らない所に来て余り友達がないのがさみしいと思えます。有野台がなつかしいです。出来れば帰りたい気持ちです。又皆様に逢えるのを楽しみにしています。」「又仮設に帰りたいです。ありがとうございます。本当に五社住宅にいる時がなつかしいです。人生のある生活ができて良かったです。」「有馬に在住してました折には、ボランティアの方々に人間のふれ合いの大切さを体感させていただき、大きな私の財産となりました。本当にありがとう存じます。出席出来ない事は残念ですが、私の心の中では大きな思い出としていつまでも忘れないでしょう。」「昨年11月に女房がなくなり、子供達とも別れ、一人生活します。足の具合が良くないので出席できません。悪しからず。御免下さい。」「わずか1年で家を再建することができ、私たち家族は幸せでした。仮設に半年間 っらくとも、苦しみを共有する方々と時折楽しい時をもて良かったと思います。焼肉パーティーやもちつき大会を思い出します。皆様の明るさを忘れません。」「住めば都、仮設の有野台にも都があったんですね。参加者の皆様、ゆかいにやして下さい。」



4月15日、第44回ミーティング。参加者は本宮さん、高木さん、松田さん、平瀬さん、田辺。今回は各グループの活動状況が中心。藤原台第2住宅の仮設に

一時入居されていた西本さんと川添さんはお二人とも小巨久住宅に転居されました。有野台第2住宅・五社住宅とも数軒の転居があり、現在有野台第2住宅は6軒、五社住宅は9軒のものが住んでおられます。また居住者の減少にともない、五社ふれあいセンターは3月14日に、有野台第2住宅のふれあいセンターは4月11日にそれぞれ閉鎖されました。会計ではフェニックス且力成金の会計報告、船引さんが丁寧な書類を作ってくださり、無事終了しました。今後の活動のあり方では、ボランティアの打ち上げ会のおと、「有野台ボランティアの4年間をふりかえって」座談会を行おうという意見が出ました。2～3回の予定で話し合いの機会がもてればと思っています。

（田辺）



有野台

'99.12.31

## ボランティア

No.17

通信

有野台 ボランティア TEL・FAX (981) 7511 編集 田辺 正則

5月20日、第45回ミーティング。参加者は平瀬さん、瀬井さん、高木さん、本宮さん、田辺。有野台第2住宅と五社住宅の訪問活動の報告が中心です。両住宅とも次々に引っ越し、引っ越し予定、かぎ渡しが決まっているようです。現在、お住まいの方は有野台第2住宅が5軒、五社住宅が8軒となりました。また、10月以降の有野台ボランティアの活動(地域茶話会)について、ボランティアの募集やお知らせの内容の検討、資金面のことなど意見交換が行われました。

 6月17日、第46回ミーティング。参加者は山崎さん、松田さん、高木さん、本宮さん、平瀬さん、瀬井さん、田辺。まずは有野台ボランティア打ち上げ会の打ち合わせ。9月2日に有野台地域福祉センターで食事会の形で行うことになりました。次に「ふれあい喫茶」について。日時や対象、参加費のことなど話し合いました。そのあと「有野台ボランティアの活動をふり返して」のアンケートの内容のこと、98年5月から99年6月までの活動費の請求のことなど。最後に訪問活動の報告。有野台第2住宅で1軒、五社住宅で3軒の転居があり、現在 お住まいの方は有野台第2住宅で4軒、五社住宅で5軒となりました。有野台第2住宅ではこの1か月の間に団地内からの車の駐車が目立ち、仮設内に驚くほど車が駐車されています。またネコの数もかなり増えたように思えます。仮設に住む住民の住環境はかなり悪くなっているようです。五社住宅も165戸の住宅に5軒となり、心細田の暮る日々ではないかと思えます。



7月15日、第47回ミーティング。参加者は伊藤さん、清水さん、高木さん、本宮さん、平瀬さん、田辺。まず訪問活動の報告から。五社住宅では7月3日をもって全戸の転居が終わりました。五社グループのメンバーの皆さん、長い間の活動で苦労までした。有野台第2住宅も2軒の方が転居され、現在 お住まいの方は3軒となりました。

続いて、「ふれあい喫茶」のこと。11月から活動することとなり、有野台ふれあいまちづくり協議会に企画書を出し、助成などの希望を伝えることになりました。また、「有野台ボランティア打

ち上げ会」は 今月中に、  
メンバーや 関わってくだ  
った皆さんに 案内を送  
送することになりました。

7月25日、真夏の太  
陽が照りつける五社住宅  
に集まったのは、元住民の  
高田さん夫妻、吉岡さん、前本  
さん、佐藤さん夫妻、今田さん、  
中村さん、野口さん、北尾さん、  
大森さん、ボランティアの  
渡邊健さん、本宮さん、三  
浦さん、清水さん、瀬戸井

### 有野台ボランティア打ち上げ会のお知らせ

前略、梅雨も終わりを迎え、夏本番の季節となりましたが、皆さんいかがお過ごしですか。  
さて、4年余りにわたる有野台ボランティアの仮設住宅に関わる活動もそろそろ  
終わりを迎えようとしています。6月末で五社住宅の入居者もおられなくなり、あとは有  
野台第2住宅の3軒のお宅だけとなりました。その活動も8月末にはほぼメドがつく  
予定です。

そこで仮設住宅に関わる活動にひとまず幕をおろすことになり、その打ち上  
げ会を行うことになりました。思いおこしてみますと、4年余りの長い間に直接活動に  
関わられた方や後方で支援に加わってくださった方など、本当にたくさんの人と人の  
つながりができました。そして未知の人々との出会いが大きな力を生みました。1日だけ  
活動に参加してくださった方、色々な事情で途中で活動を退かざるをえなかった方、逆に  
2年目・3年目から活動に参加された方、また遠くから支援してくださった方など色々な関  
わりがありました。おそろくその多くの方々のどなたか1人でもおられなければ、私たちの活  
動が今日の日を迎えることはできなかったらと思います。

こうして全体で会することはこれで最初で最後になると思います。皆さんご多忙と  
は思いますが、ぜひご参加下さい。そして、久しぶりのおしゃべりと語らいをお楽しみ  
下さい。

さん、田辺の17名。手には花束や線香、水などをもっている。五社住宅も入居者がおら  
れなくなり、間もなく取りこわしが始まる。その前に この住宅でせくなされた方への 供養をし  
ようと 皆さん集まって来られた。高田さん、吉岡さん、前本さん、中村さんたちが、さくく花だん  
の横のテーブルに花を置き、祭壇を作られている。花入れは だれか見つけて来られたのか、



プロパンガスのふたのようなものをひっくり返して、そこに花を生けて水を注いでいく。  
線香も立てられ 臨時の祭壇ができる。このあたりの手順の良さはさすが、  
とつい感心してしまう。今田さんが最初に拝み、あとは順番に祭壇の前  
で手を合わせる。そのあとはせくなされた方のお宅の前に花と線香を手向  
けて、両手を合わせる。皆で1軒ずつまわっていく。途中、大森さんが「B



さんのおばあちゃんが枕元に立っていた」と話される。「供養にあげないといわないと思った」と。4軒のお宅をまわる。皆さんそれぞれの思いをもちめて、供養に来られたことだろう。口数は少ないが、住民の方々の思いがこちらにも伝わってくるようだ。



8月19日、第48回ミーティング。参加者は 木下さん、甲斐田さん

有吉くん、乾さん、本宮さん、高木さん、平瀬さん、松田さん、山崎さん、田辺。まず、訪問活動の報告。有野台第2住宅にお住まいの方3軒は いずれも 8月中旬に転居されることになりました。皆さん、転居されることが決まり、仮設住宅に関わる活動を終えることになりました。続いて 9月12日の打ち上げ会の打ち合わせ、ふれあい喫茶のことなど話し合いました。また、有野台ボランティアをふり返り、「ふり返りの会」を 10月31日と 11月21日に行うことになりました。

きょうはこのあと、ボランティアのメンバーの伊藤さんの写真展に出かけることになりました。筒井さんも合流し、車で三宮のフェニックスプラザへ。震災直後から4年間、被災地や仮設住宅を歩いて写した伊藤さんの常作です。がけきの間から出て力強く咲くすすずんの花、焼けあとから出て来た観音像の美しい姿など印象に残る作品がいくつもありました。会場に来られた方の中には、写真の前にたずんで涙を流していた方もおられたと聞きます。ノートには たくさん感想やメッセージも寄せられたそうです。震災の体感便が風化しないように願うばかりです。最終日のきょうは皆で片付けと搬出のお手伝いをして、帰路に着きました。



9月12日、午後12時より有野台地域福祉センターで有野台ボランティア打ち上げ会が行われました。参加者は35名、にぎやかな会となりました。

はじめに '98年5月から'99年7年までの会計報告(P196)が行われ、承認されました。また繰り越し金の使い途については、10月と11月に行う振り返りの会をまとめて冊子にするその費用にあてることと、引き続き行う地域のふれあい喫茶の活動費にすることも承認されました。

さあ、いよいよ会の始まりです。ここからは参加者の皆さんの生の声をお聞き下さい。

田辺 「我々の関わってきた仮設住宅は有野台第1住宅・第2住宅・第3住宅、東有野台住宅、五社住宅、有馬住宅と6ヶ所ありまして、8月24日に有野台第2住宅の最後の入居者の方が無事、引っ越しをされました。ボランティアとしての活動も8月いっぱいまで終わりにすることになりましたので、まずそれをご報告しておきたいと思います。



これから皆さんにもお話をうかがっていただこうと思いますが、まず最初に私の方から一言、話をさせていただきます。

有野台ボランティアが始まりましたのが、95年の5月14日なんです。きょう来られておられますが、鹿の子台ボランティア連絡会の西野さんとメンバーの方々にお手伝いいただきまして、有野台全戸にビラを配りました。その翌日から問い合わせがありました。1カ月ほどの間に20名ぐらいのボランティア登録がありました。最終的には60名を超えるボランティアの登録がありました。

少し個人的な話になりますが、私は有野台に10年以上も住んでいて、ひとり暮らしで、ほとんど近所づきあいもなく、しがない塾の教師をしていました。そういう人間が声をかけて果たして何人の方が集まってくるのだろかと思っていたのですが、本当に驚くほどたくさんの方から声をかけていただきました。もう4年4カ月になるんですが、これだけ長い間、活動ができたのも、皆さんが集まってくれたその力のおかげだと今しみじみと思っています。活動自体は楽しいこともあったし、そうばかりも言えないこともありましたが、非常に充実した毎日を過ごせたように思います。

そして、こういう人間関係が作れたことっていうのは、今あまりいいことのない時代の中では、新しい社会に向かっては明るい希望ではなかったかと、そういうふうに今思っています。」



このあと乾杯。食事と歓談に移る。久しぶりに再会された方もありたいそうにぎやかな食事会になる。

### ＜支援者＞

田辺 「きょう参加された方に1人ずつお話ししていただきます。まず最初は我々の活動にもかなり協

かしていただきまして、今年の4月のお花見やおもちつき大会など後押しをしてくださいました。これからはふれあい喫茶でも協力していただくことになっています。有野台ふれあいまちづくり協議会の尾本さんにお話しいただきます。」



**尾本** 「有野台ボランティアの皆さん、4年間大変ご苦勞さまでバからお礼申し上げたいと思います。

実は地震が起こった直後、有野台の自治連合会でも何かさくく震災に対応しないといけないということで、同じようにボランティアの募集をしようかと考えていたんです。ところが田辺さんの方がビラを配ってボランティアの募集を実施されておられますし、せっかく有志の方がそういう活動をされているのであれば、競合した形で仮設の皆さんのお世話をすることにも慎重に考えないといかんということで、側面的なご支援をさせていただこうということで、有野台のふつの仮設住宅ではもちつきとか芋掘りとかの行事をさせていただきました。

いずれにしても本当に長い間、ボランティアの皆さんに助けをいただきまして、自治連合会としても、またふれあいまちづくり協議会としても、大変ありがたいことだったとばかり改めてお礼を申し上げたいと思います。

さきほど田辺さんも少し触れられましたか、せっかく今日まで色々、地域で苦勞ねがい、ご尽力をいただきましたボランティアの皆さん方に改めて、この地域の中で住民のふれあいあるいは福祉の活動にお力添えをいただけないだろうかというふうに私は考えております。たまたま田辺さんの方からこの地域福祉センターでふれあい喫茶をやたらどうかというご提案がございました。このふれあい喫茶に文ずるご支援もボランティアの皆さんの中でできたら協力いただけたらありがたいなと思います。どうもありがとうございました。」



**田辺** 「続いて橘さんお原真いします。橘さんは済生

会病院の特別養護老人ホーム・ふじの里のソーシャル・ワーカーをされておられまして、今は本多間の介護支援センターにおられます。実は有野台ボランティアの立ち上げのときに北神地区のボランティアグルー

ア間の調整にかかわってくださっていて、色々お世話になりました。」

**橘** 「はじめましてという方のほうがタかいと思うんですが、ふじの里にいたんですが、今転職しまして、垂水の高齢者介護支援センターで仕事をしております。それまでは兵庫区の高齢者障害者向けの仮設の御旅仮設という所で2年半ほど相談員としてやってきました。震災後、生活援助員という仕事ができまして、そのときのまとめた話を本(『21世紀高齢者住宅へのヒント』)にしました。その後復興住宅ができたこともあり、兵庫区での活動を役立てることを残したいということで作った本です。

ボランティアさんも色々活動されたと思うんですが、福祉の職員にとっても地震ということで色々なことがありまして、それを残しておきたいという気持ちが入っています。少し専門的なことが書いてあるかもしれませんが、読んでいただければ、理解していただけるのではないかと思います。」



**田辺** 「さきほど少しお話したんですが、私が有野台ボランティアの活動を始める前に鹿の子台でボランティア活動をさせていただいてました。そのとき『実は有野台でも仮設住宅ができるから、有野台でも活動したいんだ』とお話ししましたら、『じゃあ有野台ボランティアを立ち上げてみたらどうか』という助言をいただきました。それでビラ配りなどを手伝っていただきまして、有野台ボランティアが始まるきっかけを作ってくださいました。鹿の子台ボランティア連絡会の西野さんと夫妻です。代表して西野貴美子さんにお話を伺います。」

**西野** 「鹿の子台から来ました西野です。すぐ近くなんですけど、鹿の子台で行き当たりばうたりで一生懸命やっている間に、結局、立ち上げの時のビラ配り以来初めてここに来ることになりました。

さきほどのお話でたくさんの方が参加されたということを知り、非常に良かったなあと思います。これからふれあい喫茶をなさるということで、鹿の子台でもやっているの、いっしょに情報交換をしながら、地域で長く続けていければいいなと今、思っています。

ふれあい喫茶をしていて今思うことですが、最初是被災者と被災者を助ける立場として始まった



ボランティア活動なんですけれども、皆で助け合っていくっていうことを口で言い続けながら、自分自身も実感として心の底からそういうことを感じるのが最近できるようになりました。そういった意味でふれあい喫茶は色々な人がひとつの場の中で色々な小情報交換をしながら自分を生かしていく道を探したり、また自分が困っていることを助けてくれる人を見つけたりするいい場所になるんじゃないかと思います。これからも近くですて、仲良くよろしくお願いします。」

このあと尾本さん、橘さん、西野さんご夫妻、それからふれあい交番相談員の武平さんが帰られる。武平さんが早めに帰られるのがわからず、お話をしもうえなくて残念だった。歓談はさらにぎやかになる。



### 〈ボランティア（1年目から2年目を中心に）〉

田辺 「では、ボランティアのメンバーの皆さんにひとりずつお話ししたいと思います。初期の頃に活動に関わられた方から順番にお願いしたいと思います。まず最初に山崎さんをお願いします。」

山崎 「山崎のり子でございます。お久しぶりの方もしょっちゅうお会いしている方もおられます。長い間本当にご苦労様でございました。震災から4年半苦しいこと、楽しいこと、いろんな失敗もありました。皆さんとともにいろんな体験をしたことを本当に感謝しております。この場を借りまして本当に皆さんありがとうございました。」

それから9月20日なんですけれども、有野台第2住宅のUさんの命日なんです。引っ越しで、自宅を再建されたんですけど、すぐに亡くなってしまいました。また、五社住宅でもたくさんの方が亡くなっておられますので、この場を借りて、公営住宅に行き幸せになった方、残念ながら亡くなった方、皆さんのご冥福と幸せをお祈りしたいと思います。

それと、この会場に写真のパネルがありますが、伊藤さんが震災後撮っておられたもので、8月にすばらしい写真展ができました。伊藤さん、長い間ご苦労様でした。拍手で労をねぎらいたいです。（拍手）これからも皆さんといっしょに楽しく有野台の地域に協力していきたいです。

どうも長い間 ありがとうございます。」

~~\*\*\*\*\*~~

田辺 「今度は 我々のボランティアでは 最年長の川田さんにお話しをいただきたいと思います。」

川田 「83才の川田芳子でございます。震災に遭いましたあと、仮設住宅を一軒一軒歩いたことを思い出して、今残っている仮設をこの頃また健康のために歩いております。本当に皆さん4年間のあいだ、お互いに祈りあいながら、助けあいながら、ここまで来て、お役に立てたことをお互いに喜ぶたいと思います。」

このおばあちゃんの言いたいことは本当にありがとうございました、ご苦労様でした、でございます。」

~~\*\*\*\*\*~~ 田辺 「続きまして、今度は最年少のお子さんとお母さんをお願いしたいと思います。向井真弓さんと木風奈ちゃんです。木風奈ちゃんはちょうど震災の年に生まれまして、その年にお母さんといっしょにボランティア活動をしてくださいました。」

向井 「こんにちは、お久しぶりです。この子が生まれたのが震災まだひと月たたないときでした。この子の数を数えながら、ああ今年は震災から何年目かなというのを おそらくこの子が成人しても思い出すんじゃないかなと思います。」

私がボランティアに参加させていただいたのは、本当に半年ほどだったと思います。またこの子が生まれて小さい間、仕事を休んでおりましたので、その間だけでもと思って、参加させていただきました。

今、復職しまして、鹿の谷の小学校におります。鹿の谷の大きな仮設もどんどん壊されていっております。代わりに復興住宅が今、大きなものが建っています。直接ボランティア活動に参加できなくなっていますが、私は今の自分の場所がいっぱいしなければならないことがあるなと今感じています。今1年生をもらっていますけれど、その子たちはもう震災のことをほとんど覚えていません。で、覚えていない子供たちにこれからどうやって伝えていったらいいのか、それから今復興住宅に入っている子供たち、やはり色々なものをまだ背負っています。ですから今度はまた違う立場で色々と ボランティアの方に教えていただいたのを もとにしてやっていきたいなと思っております。どうも

失礼しました。」



田辺 「続いて今度は熊本からわざわざ帰って来てくれた有吉君にお原稿したいと思います。」

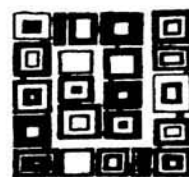
有吉 「はじめまして、有吉直文と申します。熊本に行って、熊本の人に『震災どうやった』と聞かれたんですけど、『ああ、大変でした』と答えました。熊本の人には自分が歯が痛かったら、自分の歯の治療を先にするって言いました。それを聞いて、ああ被災地から遠かったらそんなもんなんかなあと思いました。だから近くにいる僕らがとないかせないかなと思って、先生にボランティアの活動をするというのを聞いて始めたんですけど。」

初めてやって一番大変だなあと思ったのは、お互いに知らないどうして、仮設を訪問して、何をしゃべっていいのかなということでした。だからそういうところからいろんな勉強をして、いろんな人に伝えていきたいなと思いました。

ちょっと今、緊張してるんですけど(爆笑)、今自分が何をしゃべっているのかあんまりわからないうです。(爆笑)」

田辺 「ちゃんとしゃべってるよ。」

ここで伊藤さん、ビールをもって登場。



伊藤 「とりあえず一杯。(爆笑) つらからたでしょう、あのときは。まだバカが通わないときで。僕らはだいぶたって、楽になって入らせてもらったから…」

有吉 「やっぱり最初、見知らぬどうして何をどこまで話していいのかなあっていうのが、僕はまだ高校生だったということもあってわからなかったんですけど。あまり長くしゃべってたう、こつこつ汗も出て来たんで、これぐらいにしておきます。」



田辺 「続きまして、波来谷さんをお願いします。波来谷さんはご家でボランティア活動をしていただきました。」

波来谷 「本当にご無沙汰しております。向井さんのあとでどうしようかなと思ってたら、有吉君

かうまいにと 間をあけてくれてありがとうございました。(爆笑)

私も五社で活動させていただいたんですけど、何井さんが自治会を作るのを一生懸命なされて、そのあと『産休が終わるんであとをお願いします』って言われたとき、本当にどうしようと思ったんですけど、他の皆さんに且けていただきました。

今思ったらこっちがしたことよりももらったことの方がタカったなあって思います。いろんな人と友だちになれて、今でも電話をもらったりするし、本当に生活は大変やったろうけど... 心のきれいな人ばかりやったなと思います。私、ここに入って来たとき 渡邊(健)さんの顔を見て、うるうるしてしまって...

本当に皆さんから いっぱいものをもらって私の方がお礼を言いたいぐらいです。どうもありがとうございました。」



田辺 「今度は伊勢島さんお預りできますか。きょうは篠山市からわざわざお越しいただきました。」

伊勢島 「皆さんご無沙汰しております。また初めての方もいらっしゃると思います。」

私が活動に参加させていただいたのは、有野台ボランティアが活動を始めて4か月後くらいからなんです。1年間ごいっしょさせていただいて、そのあとに篠山市に引っ越ししました。何か連絡しないといけない、いけないと思いつつ、3年がたちました。今までがんばって来られた皆さんには本当に会わず顔がないほど申し訳なく、ありがたく思っております。

私の近況としては、老人ホームに勤務しております。それと、まだ始めたばかりなのですが、有野台ボランティアと形は違いますが、知的障害者の施設の方と関わりがありまして、そちらで無理のないように参加しようとして始めたところです。本当に皆さん、今までありがとうございました。」

田辺 「続いて三浦さん お願いできますか。波来谷さんとともに五社でがんばられました。」

三浦 「私は有野台ボランティアが発足し、何井さん・波来谷さんのあとを継いで、ただお伝えだけ



という感じで活動させていただいたんですけど、3人目の子ができて、結局2年ほどボランティアのお手伝いをさせていただいたんです。

人の話を聞いて相談にのってあげられるタイプだと思ってたんですけど、実際に仮設をお手伝いみると、地震を目の当たりに見たわけでもないし、自分やこの地域もそれほど被害にあったわけじゃないので、実感としてわがなくて、その中でどれだけ人の心の中に入っていったのか、どれだけ人の気持ちをくんであげられたのかということが一番、課題として残ってしまいました。ただお茶のお手伝いをしたり、催しものお手伝いをするだけだったんで、ああ自分は何もできなかったなあという気持ちが残っています。

でも教えていただいた点は多くて、逆に笑顔をもったりして、お手伝いが続けてくれたのかなということはありません。だから、これで終わるんじゃないくて、また自分のできる範囲でお手伝いさせていただけたらと思います。またよろしくお願ひします。ご苦労様でした。」 

田辺 「続きまして、コスモスのメンバーで、コスモスというのは有野台第1、第3、東有野台住宅を担当されたんですけど、会計もずっと担当してくださいました船引さん、お願ひできますか。」

船引 「こんにちは、船引典子です。初期の頃から活動してたんですけど、人としゃべるのがあまり上品にしゃべれないもんで、最初、震災に遭われた方の訪問をしても何をしゃべっていいやら、何って戸を開けていいやらわからなくて、気持ちとか色々勉強させていただきました。

1年半ぐらいで活動はやめてしまったんですけど、会計だけは何とか系売してくることができました。

皆さん本当に長い間ご苦労様でした。」 

田辺 「同じくコスモスの道信さん、お願ひできますか。」

道信 「もう2年半近く、何もしてなくて、きょう来るのも敷居が高くて高くて…。反省することの方が多くて、これからまた何かされるみたいで、できるだけそういうこともがんばって協力させていたいただきたいなと思います。」 

田辺 「次は有吉君と同学年で高校3年生のときから活動してくれました佐伯しおりさんをお願いします。」

佐伯 「佐伯です。私も今、老人ホームの方に勤めていまして活動の方はいないんですけど、こういう場に呼んでいただいたことをすごくありがたいと思っています。人と接することをすごく勉強させていただけたんで、今の仕事にもすごく役立っている部分がたくさんあるので、こういう人との出会いの場をくださった先生に、ありがとうございます。」

仕事も休みの日があったら、またボランティアの活動の方をさせていただきたいと思っていますので、また声をかけてください。ありがとうございます。」



田辺 「今、初其月の、特に1年目・2年目に活動された方の話を

お聞きしました。さきほど謙遜されていましたが、本当に初めに活動された方の力が次への原動力になって、2年目・3年目につながっていると思うんですよ。ですから、そんなに肩身の狭い思いをされずに堂堂とおしゃべりして下さい。ではしばらくご歓談下さい。」

皆さん 席を移動されたらしながら、にぎやかにおしゃべりは続く。

### ＜ボラ ン テ ィ ア（2年目以降を中心に）＞

田辺 「では2年目以降に活動に参加された方をご紹介しながら、ごあいさつをいただきます。今、この会場にも写真が展示されていますが、写真と有馬・有野台第2住宅に主に関わってくださいました伊藤さんをお願いしたいと思います。」

伊藤 「いつもちょろちょろとカメラを持ってまわって非常にご迷惑ばかりかかってきました。小さくなくてシャッターを押していましたけど……。こういうグループに参加させていただいて、最終的には写真展を皆さんに支えていただいたということで、感謝しています。有吉君じゃないけどちょっと上がっています。」

すかさず渡来谷さん立ち上がり、伊藤さんのコップにビールをつぐ。伊藤さん、それを飲み干す。

伊藤 「そういうことで、どうもお世話になりました。」



「良かった」という声があちこちから上がる。

田辺 「続きまして、やはり有馬と第2住宅を担当されまして、特に最後の方では第2住宅を一番親身になって見ていただきました宮本さんにお願ひしたいと思ひます。」

宮本 「宮本です。最初、田辺さんや佐伯さんの関わりでおられた有馬仮設をまわらせていただきまして、皆さんとふれあいをさせていただきました。第1仮設では高木さんとごいっしょさせていただきました。高木さんに大変助けていただきまして、ありがとうございました。最後は第2仮設をまわらせていただきまして、皆さんと楽しく会話させていただきました、本当に良かったなあと思っております。仮設におられた皆さんもそれぞれいい所に引っ越されて、いい所で良かったけど、ご近所の方とまだふれあうことができなくて、とても寂しいという、皆さんちよくちよくお電話いただいているようなこの頃です。

ボランティアの皆さんとも仲良くさせていただき、仮設の皆さんとも仲良くさせていただき、本当にボランティアに入って良かったなあと今つくづく思っております。またこれからもどうぞよろしくお願ひします。」

田辺 「続きまして、小学校6年生のときからもう3年目になるんですが、活動をいっしょにやってくれました。やはり有馬と第2住宅を担当してくれました甲斐田さんと木下さんにお願ひしたいと思ひます。」

筒井さんから由希ちゃんに「あんたイヤそうな顔をしたらあかん」と一言

甲斐田 「甲斐田です。ありがとうございました。」

木下 「木下です。楽しい思い出がいっぱいできました。ありがとうございました。」 

田辺 「きょうは2次会の主役になると思うんですが、有馬と第2住宅を担当しました筒井さんにお願ひしたいと思ひます。」

筒井 「筒井です。先に2次会のご案内の方をさせていただきます。(笑)このあと終わりましたら、先生の家で会費500円で2次会を準備しますので、ピザとかお寿司とか取ろうと思ってるんで、時間のある方はお願ひします。ありがとうございました。」

田辺 「続きまして、第3住宅で主に活動された方をご紹介したいと思ひます。まず、平瀬夏さん、

お願いしていきますか。」

平瀬 「平瀬です、よろしくお願いします。私は震災直後は関わりませんで、2年目から永原さんといっしょに参加しました。たまたま世話人の方が同じ団地に住んでいらして、これは近くていいなということで参加させていただきました。田辺さんがホヤホヤとしたような(爆笑)いい雰囲気がありまして、あまり<sup>いたげきれい</sup>ロロ宅<sup>ロロ宅</sup>敷<sup>敷</sup>力の<sup>力</sup>開<sup>開</sup>てはないので私も長く続いたような気がします。

最後はどうか皆さんが引っ越しされたのを見届けて良かったという感想が一番です。ありがとうございました。」

田辺 「今、お名前にあがりましたが、同じく第3住宅を担当されました永原さん、お願いしていきます。永原さんにはフラワーアレンジメントもやっていただきました。」

永原 「私は4年ほど間にボランティアを<sup>実質</sup>やったのが、1年半あるかないかではないかと思うんです。

私は田辺さんの上の階に住んでいて、ちょうど震災の日に地震があって外に出て、田辺さんが『大変ですね、僕の車で情報を聞きましょう』ということで、すぐに田辺さんの車に飛び込んで、ラジオをかけて、情報を聞いて、あっこれは大変だと思いました。

私の仕事の後輩の看護婦が向かいの棟に住んでおりまして、ちょうどそのときご主人が夜勤で、2才と生まれたばかりの子供がいました。4階に住んでいたんですが、これはご主人がいないので大変だと思って、自分の所はほっておいて4階に走って行きましたら、案の上、おふとんの上に食器がばらまかれた山の中に親と2人の子が震えておりました。

そのときおふとんをバツとめくって、1人の子はお母さんに背負わせ、もう1人は私が背負って、足にかく、おむつを用意せい! 何してるんだ。余震が来るからおむつを入れて、牛乳びんを準備しなさい』と言って。ガスも止まっていたのでね、前の日に沸かしてたお湯があって、ミルクの準備をして、それからご主人が帰ってくるまで待つとういうことになりました。『それまでは私がちゃんとしてあげるから』と言って、ついておりました。ご主人と入れ代わりに帰ったら、その間に平瀬さんが家がどうなって



いるかと思って入って来て、かぎは開いているは、だれもいないはで、『もう死んだんではないかな』と彼女がバ酉己してくれたということがありました。

それから何ヶ月かたちまして、田辺さんがビラを出されて、ちょうどその当時は60才で定年になってパートで働いておりましたので、これやたらボランティアかできるんとかうかなということ入って、しばらくして『平瀬さん、いっしょにやってみませんか』ということ平瀬さんにも呼びかけました。私、不幸にして62才にして病院側が保険証を持って来まして、『きょうから職員になってくれ』と言われまして、この年になって本採用になってがんばってくれと言われることは<sup>おれ</sup>稀にないだろうと思って、それが本職になって、老人病棟で働き出したけれど、なかなかボランティアに出れない結果につながって現在に至っています。

今からね、また神戸・阪神間は2040年までに大きな内陸部の地震が石確実にあると言われておりますので、決してこのボランティアをね、捨てることなく、もっと石確実なものに今からしていく必要があるとこの辺つくづく考えております。私もできるだけ参加させていただくようにいたします。今後ともよろしくお願いいたします。」



田辺 「続きまして、五社と第1住宅で主に活動されたんですが、

鹿の子台や藤原台でも活動されてまして、各方面で活動された高木さんにお話を伺いたいと思います。」

高木 「こんにちは、高木です。きょうは小震かしい方々のお顔とお目にかかれて、さっきからいい雰囲気だなあと思って、本当にすてきなボランティアグループに入れていただいたことを感謝しております。それも平瀬さんがおっしゃるように田辺さんのホヤホヤとしたお人柄のおかげかなと思っています。このグループ、本当にすてきなグループなので…、いいですね、皆さん このグループ、ねえ。(笑)

この4月から私は幸か不幸か灘区の方に引っ越してしまいまして、こちらの方に来ることも少なくなりましたんですけれども…。

あの、仮設におられた方の近況であまりうれしくないお知らせなんですけれども、最近 第1住宅にお

られたVさん、交通事故でなくなられたんです。それからNさんのご主人も少し前にがんで亡くなりました。時々、皆さんの心の中で思い起こして下さいませ。そのほかの方が皆さん、お元気でお幸せに  
と思っております。きょうは本当にありがとうございました。またよろしくお願ひします。」 

**田辺** 「続いて、東有野台そして途中からは高木さんといっしょに第1住宅をまわっていただきました  
松田さん、お願ひします。」

**松田** 「こんにちは、松田でございます。私の場合は実家が全壊しまして、避難場所とか仮設で  
何にうの方のボランティアさんにすぐお世話いただいて、その年の暮れに家も新築しましたので、今度は私  
がこちらの方でお手伝いできたらと思って入れていただいたんです。」

仮設を訪問させていただいて、皆さんがすごく力強く生きておられる姿を拝見して、いろんなものを  
私もいただきました。それで、ボランティアのこのグループに入れていただいたことも本当に感謝しています。そして  
先にレールを敷いてくださった先輩の方たち、本当にありがとうございました。それに赤門塾の方にはご支援い  
ただいて感謝していますし、田辺さんも本当にご苦労様でした。今後ともよろしくお願ひします。」



**田辺** 「続いて、五社で波来谷さんのおちに連絡係りをして  
おられました本宮さんにお願ひします。」

**本宮** 「こんにちは、五社を担当させて頂きました本宮と申します。あの、会も長いので、ひと言  
だけ。私はこの会に参加させて頂くまで、有野台をほとんど知らなかったんです。でも3年余り活動  
させて頂いたことで、有野台を隈なく、抜け道まで知ることができました。」

本当にこのボランティアに参加させて頂くことで、いろんな方たちといっぱい出会えて、友人・知人が  
いっぱいできたこと、本当にうれしく思っています。家族の協力もいっぱいあったこと、家族と皆さんに  
感謝します。ありがとうございます。」 

**田辺** 「同じく五社を担当していただきました渡邊雅子さんにお願ひしたいと思います。」

**渡邊** 「渡邊雅子です。私はやはり母が震災で自宅が全壊しました。私は足が悪いので、

こういう会に入っているのはすぐ反対されたんですけど、私は何らかの形で「皆さんの役に立てば」と思って入らせていただいたんです。ですけど、何か気持ちばかりで、かえって私の方が皆さんにお世話やて心配をかけている次第なんです。でも何らかの形で何かしないといけないといううちに終わりになったんですが、皆さんには色々とお世話になりました。でも、また何らかの形で私も力になればいいと思っています。どうもありがとうございました。」



田辺 「続きまして、同じく五社で活動されました平田さん、お願いいたしますか。平田さんとはお花見のときよくお会いしてその印象が強いですけど。」

平田 「人にちは。私は震災のときは済生会病院の消化器内科で仕事をしておりました。ちょうど点滴をしているときに震れ出して、『もうこのまま死ぬのかな』と思いました。若い娘と2人で夜勤してて、重症の方もいまして、皆大丈夫かなと思って、ずっと廊下をまわってまわって、皆さんけがはなくて、花びんや急須<sup>きゅうす</sup>が落ちたぐらいでした。そのときは火事場の底力<sup>そこちから</sup>みたいなもので乗り切れたと思います。

夜勤が終わってテレビを見たら、市街地の方のいろんな状況が見えて、こっちは何にもなかったのに、向こうはすごいことになっているということで、そのときに地震のすごさがわかったんです。そのあと済生会病院は野戦病院のようになりました。廊下にも患者さんや家族があふれていました。生きるか死ぬかのようにして運ばれて来て、助かった方もおられました。本当に野戦病院はこんなふうな感じだなあと思いました。

必死で仕事をしてふと気がついたら、漢姓の友だちはどうしているんだろうと思って、それで友だちのことが何もできなかった何かしたいと思って、ふとホストを見たらボランティア募集のビラが入っていたので、自分も何かしようと思って参加しました。ボランティアではいろんなことをされていて、高本さんとか本宮さんとか田辺さんとか、一生懸命されているのに、自分で何もできなかった。もっと何かしようと思って、気持ちだけは焦ったんですけど、何か本当にできることは自分の職業の中にもあるんだと思って、もう済生会

はやめて、今は住吉の老人ホームで働かれています。お年寄りでそこに入所されている方が一生懸命がんばっている姿を見て、ああ自分もやらなければと思って、今はすごく仕事に燃えているというが、お年寄りに元気をもらっているという気がします。

もう51になったけど、『人生 まだこれからなんだ』と自分にいい聞かせて、ちょっと元気がなくなっていた自分が老人ホームに行って元気になりました。皆さんに色々と元気をもらって、私もがんばろうという気になりました。長くなりましたが、ありがとうございました。」



**田辺** 「続きまして、五社のメンバーの中では一番最後のほうで

来られた方になると思うんですが、五社には男性メンバーがいなくて、本宮さんはじめ皆さんが非常に頼りにされて、頼りがいのあるお父さんなんですが、瀬井さんお願いします。」

**瀬井** 「瀬井と申します。去年(98年)の2月、一番最後のほうになって参加させていただきました。平成9年(97年)の12月まで現役で働いておりました。ちょうど地震のあったときは西神南の商業ビルの設備管理のほうにおりまして、地震の直後、朝6時過ぎに会社に行きまして、商業ビルなもんですから、電気設備とか、冷暖房設備とか、全部壊れておりましてね、1回出勤すると3日ぐらい帰れない状況が続いておりました。

平成9年の12月で現役を引退して、何か今まで自分で会得した技術とか人脈とか、そういうことを生かして、役に立つことがあるかないか模索しているときにちょうど、ボランティアセンターに有野台ボランティアのビラがありまして、グループに入れてもらいました。本当に一番おいしいと取りをした人間ではないかなと思います。

12月が来たら、62になるんですが、自分のため込んだエネルギーを使い果たしてしまって、今あるエネルギーは仮設に住んでおられた方とか、いっしょに活動させてもらったボランティアのメンバーの方にちょっとずつ分けてもらって、そのエネルギーを今生かしてるというところですよ。これからちょっとずついいですから、エネルギーを分けていただいて、あと何年やれるかわかりませんが、これからもひとつで指導



のほど、また仲間のひとりとして使っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。」

 田辺 「ボランティアとしては一番最後になったんですけど、実は有野台第2住宅に住んでおられまして、そのあと漢住区の公営住宅に移られたんですが、そのあともクリスマス会とかおもちゃつきとかお米の配達とか、本当に獅子奮迅の働きをさせていただきまして、少し体言周を悪くされて、それがバツイチなんですけど、渡邊さんにお願ひします。」

渡邊 「おっす、渡邊健です。僕はボランティアに参加する前に初めてこの北区の有野台に来たときに、『わあー、すごい田舎に来たな』と思いました。でも僕も田舎ですよ、広島の上島と云われた男やからね…。

ボランティアに言われた人じゃないですけど、自分からできたら参加したいなと思ひまして、やってきました人やけどもね。メンバーの皆さんは主婦をやりながらボランティアをして大変やなと思ひましたが、僕みたいに言ひたいことを言ひて…、本当はバツイチやけどもね。でもこのボランティアの経馬舎がね、今住んでる住宅で、去年は会長してました、今年は相談役をしています、けっこういい勉強になってね。いろんなことをまだまだ勉強していかねばならぬけど、病院の入退院の繰り返しては何もできません。ここにるときからボランティアの皆さんには、足引っ張りとおしてね、たいしたことはできなかった人やけども、これから小さな親切をやりたいと思ひています。よろしくお願いいたします。」



## ＜出席できなかった方からのお便り＞

田辺 「遠方から来られた方にお話しをお伺ひしたいんですが、その前にお葉書で出席できなかった方のお話を何枚かご紹介したいと思ひます。

ここに何で顔を見せられてないのかと思ひれる方も多と思うんですが、滋野さんなんですが、7月2日に、ご病気になられまして、入院されて、手術されて、今リハビリ中だとお伺ひしています。

残念ながら、ちょうどこの会の時期と重なりまして、たぶんあの方なら、ここに来て皆さんといっしょに歓談しておられると思うんですが、出席できないというお便りがありましたので、皆さんにお知らせしておきたいと思います。 

それから赤ちゃんが生まれるということで来られないというお便りを2通いただきました。おひとりは一歩最初にボランティアに参加された望月さん、今ちょうど10ヵ月目で来られないというお便りをいただきました。もうひと方は五社のメンバーの乾さんのご友人で第2住宅でふれあい勉強会をいっしょにしてくださった林さんという方がおられるんですが、この方もお子さんがお生まれになったということです。お伝えしておきたいと思います。 

あと3人の方は文章を言わせていただこうと思います。

まずきょう来れる予定だったんですが、来れていない三木さんのお知り合いでダンスなどの提供と運送をしていただきましたクロネコ・ヤマトの菅一郎さんからメッセージが届いております。

『皆さんの想いの一部分しか参加できなかったのが残念ですが、その時そのときを精一杯頑張って活動しています。今は垂水・宝塚で障害者施設支援の為“どんぐりの家”の上映会を8月に実施予定で準備に忙しい毎日を送っています。皆さんの活動を大切に頑張ってください。そして又何か用事を作って下さい。』 

それからストレッチ体操をいっしょにやっていただきました寺坂さんなんですが、この方もご病気されて、体調が悪くきょうは参加できないということなんです。

『震災で心身共に傷ついた人々に皆様の暖かい愛の手はどれ程、励みになったことでしょう。皆様のボランティアに頭が下がります。』というお便りをいただきました。 

最後に、この方とは皆さんお会いになられたことはないと思うんですが、黄色い冊子で“くらしのベリ中長”という北神地区の生活情報や地図があったんですが、その作製にご尽力いただきました、元朝日新聞厚生文化事業団の石田易司さんからメッセージが届いています。

『長い間、ご苦労さまでした。みなさんの活動かにどれだけたくさんの方が勇気づけられ、力  
まされたことか。新しい市民社会の夜明けに乾杯!!』



## ＜支援者＞

田辺 「引き続き、このまま遠方から来られている方にもお話しをいただいて、2次会に移り  
たいと思います。

まず、皆さんよくご存じと思いますが、我々のボランティア活動かにかなり資金面の援助  
をいただきました。震災ボランティアといえば、資金で困るということが常識的なことだったん  
ですが、我々は幸いにもそれが全然なくて、そういう意味でいうと非常に幸せだったんですけれ  
ども、赤門塾の方が3人来られています。最初に長谷川摂子さんにお話をお願いします。」  
(後日出版した赤門塾通信の中でカンパの総額は4年間で128万7400円になることがわ  
かりました。改めて感謝の気持ちでいっはいです。)

長谷川 「一番遅れて来て一番最初でびくつきちゃってドキドキしていますけれど……。きょう  
は皆さんのお集まりに立端に寄せていただいて本当にうれしいなと思っています。何も本当  
にできなくて、ただカンパを集めて送っていただけなんですけれども。でも田辺君とときどき会って  
いろんなお話を聞いたり、それから通信を読んだりして、1回だけ私も仮設を田辺君といっ  
しょに訪問したことがあったんですけれども、まだ震災の翌年だったと思うんです。ひとりひとりが  
いろんな重みを背負って仮設に来ていらっしゃるなあってことが本当に胸に迫ってわかって、そして  
そういう人たちが互いに孤立することなく、いろんな所で本当に縦横にもいろんなふ  
うに関わりあって、そこで生きる力がもう一度出てくるんだなあっていうのを本当にしみじみ感じま  
した。

それで皆さんの活動そのものからも、私たちは田辺君の話を通して、あるいは通信を通して、  
ああこんなふうに人が人を助け合うことができるんだということを感じとることで、遠くにいな

何か希望みたいなものを自分の中に感じとることができて、本当にありがたかったなあ、と思います。長い間、本当にただ単に善意だけで一生懸命、というふうに前に進むだけではなくて、いろんな意味で乗り越えなくてはならない、エネルギーとしては大変なこともあったと思うんですけど、本当に皆さん長い間 よくなされたと思うし、そしてこれからこの長い年月にいろんなふれあいの中でできたものがまた新しい実を結んでいくっていう、そういうふうに人間ってつながって生きていくもんだなあということを感じています。



皆さん、私たちにも希望を与えてくださって本当にありがとうございました。」

田辺 「系売いて、赤門塾では長谷川さんの教え子にあたられるんですが、僕がよく赤門塾を訪ねたときに震災のボランティアの話を聞いていただきました。奈良旅行のときごいっしょだった方も何人かおられると思うんですが、宇津木隆宏さんにお願ひします。」

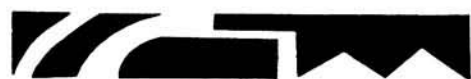
宇津木 「埼玉から来ました宇津木です。田辺さんとのつき合いは赤門塾を通してもうかれこれ10年以上になります。彼は気が合うというか、けっこう僕は好きなタイプなんです(笑、『ヤバイ』という声)ただね、田辺さんが震災があって、ボランティア活動をするって言ったとき、今までの塾講師から全くライフスタイルが変わっちゃったんです。もうボランティア活動ということ自体が彼のライフスタイルになっちゃって、それでそれを4年間系売けたこと自体も僕はびっくりしてるんですけど。その間には彼、精神的に本当に参っちゃってる時なんかもあって、彼が4年間携わってきた活動を今回閉めるっていうんで、それを最後にちゃんと見届けようっていうつもりできょうは来ました。(笑、拍手)

だけどそうは言っても僕自身ボランティアには本当にお金を出すことぐらいしかやっていません。本当にそういう活動をさっき有吉さんが言ったように対岸の火事ぐらいの気持ちで受けとめたと思うんです。だけどここにいらっしゃる方々、いろんな方に話を聞くと、自分たち皆さんそれぞれ忙しいのに、他の困っている人たちを助けようっていう気持ちがおうせい旺盛なんですよ。で、僕は



本当に今、自己嫌悪になっています。(笑)

たぶんこれから田辺さんとのつき合いは続くと思うんですけど(笑)、しっかりと見届けようと思っています。」



田辺 「続いて、同じ赤門塾の長谷川宏さんにお原稿したいと思います。」

長谷川 「長谷川です、どうも。田辺君とはもうつき合いが長くて、僕はまあ所沢でちょっと変わった塾をやって、20年ぐらい前なんですけれども、田辺君がそこにある日突然、飛び込んできて、その日さっそくお酒をたくさん飲んで泊めてあげたというところから始まりました。まあ、そのあと彼も決意して塾を始めて、どういう塾になるかなあとお互いに見つめ合いながら来ました。今度こういうボランティアをやることについては先程から、何か田辺君、のんびりして、ほんわかして言うんですけど、そんなんじゃないかと僕はずっと思ってまして(笑)、まあこれだけ雰囲気があれば、ほんわかしたんだと思うんですけど。だけどたぶん田辺君は人が困ったら、そんなに簡単に身を引ける人じゃないから、絶対に自分が中心になったら、大変なことになると言って…。

実は僕は毎年のように奈良に旅行に来ていて、そのときはだいたい田辺君も来て、きょうもそこでたくさんの小裏かしい彦真にお会いしています。伊藤さんにもお会いしたことがありますし、きょうはご病気の滋野さんっていう方にもお会いしたことがありますし、高木さんとか、波来谷さんとか、本宮さんとか、何度かそこで顔を会わした方たちがいて、本当に小裏かしいんですけど、そういう方たちに支援されたといっても、田辺君がやたら大変だと言って、僕は田辺君にとにかくさまりなさいということをしつこく言った。(笑)『人に小良まれるぐらいじゃないと、田辺君、ダメなんだからね』って言ってた。だけど田辺君の小生分ですよ、正義感だし、大変だったと思うんですけど、でも本当にそうやってやってきた。



で、僕が何かできるかっていうふうに思って、震災が起こった頃にはカンパが色々あ

って、皆 やってたんですけれども、そういう時はイ業もちょっとひねくれ者で、まあ あんまりやりたくない。で、田辺君が活動したときには お金の支援ぐらいはできるかなと思って、塾の通信なんからでも呼びかけて、やったんですけれど、そのときでも やはり一番はたぶんこういう活動は長く続くから、最後までお金を出せるだけの体制は作ろうと思って。そのときには我々もボランティアですから、出たくない人とか出せない人は無理をしなくてよろしいです、たけど出せる人は気持ちで出してほしいというような開けですと…。それでも年に2回から3回ぐらいというふうにして通信で呼びかけて、タカは減るとか増えるとかはあったんですけれども、たくさん 皆さんの支援が集まってきました。そのときもやはりボランティア活動っていうのは遠くから見ると見えて来ないんですよ。最初の頃 お金が集まるというとき、お金、っていうのはいいというふうに流れるんだらう、ということがよくわからなかった。で、イ業たちはカンパを出しているときに田辺君が出しているボランティア通信が送られてくると、なるべくカンパをしてくださる人にはたくさん渡しそうとして、手渡しをしたり、郵送したりして…。そんなに皆が関心をもってるわけじゃないですから、皆が皆 言売わけじゃないんですけれど、まあ言売てる人がその話をしたり、ちょっと赤門塾の資金のことも出てたねという話をしていると、ああ こういう開けで皆それぞれゆずかなからでも関心をもっているようなつながり方が、何かこちらで本当に苦労なさっている方々がいる中で、一番立端にいる人間としてはちょっとすつても活動にふれられたかなという気持ちになりました。



もういよいよ一応の打ち上げだということで、イ業は一度も有野台に来たことがなくて…。実は震災の起こった年の3月に奈良に来たときには、田辺君にぜひ神戸を見ておくようにと言われて、元町から長田まで、もう本当に悲惨な状態だったんですけど、見て歩いて、ただ見て歩いただけで、自分では気持ちは動転したんですけれども、どう自分が力を出していいかわからなかったんです。そういう意味ではこちらでボランティアが始まって、自分たちでタカなりともカンパできる、という

のは、ちょっとうれしいというか、それでタダでも支援できてるかなっていう気持ちもあったりして、何となくずっと活動が継続中で関心をもっていました。僕自身は通信ぐらいはちゃんと読み直そうとやるときに、その雰囲気にとってもあったかくなって、どこからやっぱり全体としてほんめがとした雰囲気が通信からも感じとれるようになって、まあ大変なんだろうけど、こうやって継続していったらいいのが、自分としては実にいい気持ちだったんですね。

まあ、今の世の中、いろんなことが起こるときにだいたいまあ楽しいことがないもんですから、こういう通信なんかで力が少しずつほのほのと伝わって来て、支援の輪が継続してるっていうのはやっぱり本当に希望だなという気がします。 

今後またぶん いろんな形で継続くんたろうなと思うんですけど、やっぱりボランティアをやる人たちっていうのは皆それなりにエネルギーもあるし、奈良でお会いしたときなんかは 皆さんひとりずつ、本当によく覚えてるんですけど、エネルギーがあるし、善意だけではすまされないですけど、何となくそういう力を感じさせられて、直接会って何かやるっていうことはあんまりないですけども、何かそういう形で力づけられているっていうことをずっと思っていました。だから震災のボランティアのことを思うといつもちょっとうれしい気持ちがあって、やっぱりそれはこの活動がとて良かったからじゃないかなというふうに思います。そしてきょうもとてもいい気持ちで皆さんのお話を聞かせていただきました。どうもありがとうございました。」

田辺 「最後になりましたが、我々がふれあい食事会を何度か  やりまして、そのときにいろんな楽器の演奏であるとか、太鼓であるとか、やっていただいたんですが、大正琴の演奏会を2回やっていただきました。そのグループの主催者なんですが、石幾田さんにお話をいただきます。それと大正琴をきょう持ってきていただいているので、良からたら1~2曲歌っていただきたいんですが…。

まず石幾田さんにひと言、お願いします。」

磯田 「皆さん、こんちは。お会いしていない方がたくさんいらっしゃると思いますが、田辺さんからふれあい昼食会をしますので、お声がかかると喜んで来たときには、仮設の方は来られましたが、平日で「お昼だったんで、お年寄りの方がタタくて、聞いていただくより、思い切り歌っていただくほうが良いのではないか」ということで歌詞なども用意して皆さんで歌っていただきました。

私は大正琴を始めてすぐにボランティアとして特養とかに行きました。今よく音楽療法と言われているんですが、痴呆の方が小裏かい音で小裏かい曲を弾いたら、今まで何の表情もなかったお年寄りがうるうるくるんですね。うるうる来て、メロディーを聞いたら、例えば『異国の丘』なんかは完璧に歌われます。そういうふうに音楽とはいいいもんだなあと、ひときですが楽しんでくださいということでやってきました。

きょうはどうしようってお電話で話したとき、けこう皆若いすよと言われたので、どんな曲にしようという話になりまして、そしたら『赤とんぼ』と『上を向いて歩こう』ぐらいかなということになりました。」

2曲とも皆、バエよく歌う。アンコールの声がかかって『荒城の月』も歌う。

田辺 「それでは1次会はこまめにしたいと思います。さっき皆さんのお話を聞いて、自分が助けをするというだけじゃなくて、自分が逆にいろんなものをもらったという話がい業自身の中でも一番印象に残っているし、私たちの活動は何かいっしょにやっていくもんじゃなかったのかなという感じを今一番強くもっています。きょうはどうもありがとうございました。(拍手)」

このあと2次会もたくさんの方が来られ、1次会に来られなかった大野君、山本君、木村さん、波谷谷さんのご主人、山崎さんのご主人なども参加され、おしゃべりあり、足踊りありで、1次会以上にエネルギーのはじけるような2次会になりました。

宴は深夜まで続きました。





# 会計報告書

平成10年5月1日～11年7月31日

## <収入の部>

| 項 目    | 金 額     | 備 考                          |
|--------|---------|------------------------------|
| 助成金収入  | 100,000 | 兵庫県社会福祉協議会.                  |
| 寄付金収入  | 422,200 | 長谷川宏(396,200) 高木さん友人(26,000) |
| 受 取 利息 | 308     |                              |
|        |         |                              |
|        |         |                              |
| 合 計    | 522,508 |                              |

## <支出の部>

| 項 目     | 金 額     | 備 考                              |
|---------|---------|----------------------------------|
| 支援活動費   | 111,851 | 食事会開催の諸費用<br>献花. 花見. 年賀状. 暑中見舞い他 |
| 消 耗 品 費 | 44,072  | コピー代(42,721) 文房具他                |
| 通 信 費   | 87,740  | 電話代, 切手代                         |
| 旅費交通費   | 83,545  | 米運搬費, ガソリン代, 通行料他,               |
| 備品購入費   | 3,200   | ゴム印                              |
| 寄 付     | 10,000  | ゆうわ会. クッキー工房 (各5,000)            |
| 合 計     | 340,408 |                                  |

ボランティア25名

|       |         |
|-------|---------|
| 前期繰越  | 136,435 |
| 総 収 入 | 522,508 |
| 総 支 出 | 340,408 |
| 次期繰越  | 318,535 |

会 計 船 引 典 子



上記の決算について出金伝票、領収書などを照合した結果公正なものと認めます。

監 査 宮 本 民 恵

